

1 2 維管束植物

1. 植物相概要

我が国に産する維管束植物（種子植物・シダ植物）は約6,000種、亜種や変種のレベルまで加えると8,000を超えるという。三重県内に産する維管束植物については、その全容については必ずしも明らかではないが、種や変種をあわせて、およそ3,000（シダ植物300以上）を超える植物が分布・生育していると推測される。

三重県のこのように多様な植物相は、気候・地形・地質・県土が辿ってきた地史の反映である。湿潤温帯域に属している日本列島のほぼ中央部に位置する本県の気候は温暖多雨で、基本的には植物の生育にとって好適な環境である。その細部に注目すると、県土を縁取るように連なる鈴鹿・布引・台高山脈や信楽山地の山々は、最高峰（大台ヶ原山の日出岳/1,695 m）でも海拔高度2,000 mに満たない標高であるが、大気の流れを変え、県内各地域の気温や降水量に違いを生じさせており、植物の生育に少なからぬ影響を及ぼしている。以下に、県下各地域の植物相の特徴を概説する。

北勢地域

海拔高度1,000 m前後の峰々が連なる鈴鹿山脈とその山麓一帯は、冬季、日本海から若狭湾・琵琶湖をぬけて吹き込む季節風が運ぶ水蒸気により、県下では最も雪の多い地域となっている。この山脈の山頂付近にはブナを含む冷温帯性落葉広葉樹林、中腹以下は暖温帯上部にあたり、アカガシ・ツクバネガシ・ウラジロガシなどを含む暖温帯性常緑広葉樹林が成立している。そこには、太平洋側斜面でありながらも、ハイイヌガヤ・チャボガヤ・タニウツギ・イワナシ・キンキマメザクラ・ヒメモチ・オオカニコウモリなど日本海要素と呼ばれる植物群が進出しており、植物相に特徴を与えている。

また、上記の山地から運ばれた砂礫などによって形成された扇状地の谷間には、崖堆からの湧水による小規模な湿地が点在し、東海丘陵要素と呼ばれるシデコブシ・マメナシ（イヌナシ）・ヘビノボラズ・クロミノニシゴリ・トウカイコモウセンゴケ・ミカワバイケイソウ・シラタマホシクサなどや貧栄養で開放的な湿地に特有なイシモチソウ・モウセンゴケ・サワシロギク・ミズギボウシ・イワショウブ・ミカヅキグサ・サギソウ・トキソウなどが分布、生育している。ここでは、寒冷な地域に分布するヤチヤナギが遺存的に隔離分布しているほか、逆に暖地性のミクリガヤ等も生育するなど、種多様性に富んだ植生がみられる。

当地域に広がる丘陵地や台地には、所々に大小さまざまな溜池が点在し、その堤や周辺の湿性地上にも、前述の東海丘陵要素のいくつかや、サクラバハハンノキ・ヒナノカンザシ・ヒメナエ・ハルリンドウ・イヌセンブリ・タチカモメヅル・ゴマクサ・ムラサキミカキグサ・カガシラ・ミカワシンジュガヤ・ケシンジュガヤ・ミズトンボなどが認められる。

さらに揖斐川・長良川・木曾川によって形成された沖積平野や伊勢平野の池沼・水路には、時折オニバスが認められ、周辺の河畔にはタチヤナギ・ジャヤナギなどの低木性ヤナギ類やタコノアシなどが散見される。また、伊勢湾に流入する中小河川の河口付近には、塩性湿地や砂浜が発達し、コウボウムギ・ハマヒルガオ・ハマエンドウなど典型的な砂浜植物群落が発達する。そこには、ハマニガナ・コウボウシバ・フクド・ハマボウフウや稀にナガボテンツキなども産する。これらの希少植物などが生育する丘陵地や海浜は、土地利用の上からは遊休土地として位置づけられることが多く、工場・住宅・各種施設の用地として開発の対象になりがちで、上記の希少植物類の生育立地の保全が強く求められている。

中勢地域

中勢地域は、台高山脈の北端から布引山脈へと続く山地によって伊賀地域と隔てられている。一方、北勢地域との間には中小河川以外に地理的な障害となるものが存在しない。このため、この地域の植物相は北勢地域と類似している。しかし中部山岳地帯や東海地方の植物相の影響が強い北勢地域と、紀伊半島・四国の植物相との関連が強い南勢地域との間にあるため、両地域の推移帯の特徴が中勢地域の植物相には伺われる。この地域でも標高800 mを超える山頂付近にはブナを交えた落葉広葉樹林が発達しているが、北勢地域でみられたトウゴクミツバツツジに替わってキヨスミミツバツツジが分布する。さらにアサマリンドウの県内での北限域にあたる。また三重県を代表する河川である雲出川や櫛田川がこの地域を貫流し伊勢湾に流れ込んでいるが、これらの河川の源流域にあたる山地にはトガサワラ・ヤハズアジサイ・ズイナなどが分布し、紀州・南勢地域と同様にソハヤキ地域の性格が鮮明に表れている。

これらの河川の河川敷や平野部の放棄水田、溜池、水路には、それぞれの水湿状態に応じタコノアシ・コガマ・ナガエミクリ・マコモ・ガガブタ・ミズオオバコ・フサモ・イバラモなどが群落をつくっている。一方、市街地近郊の丘陵地に近い水田にはミズキカシグサ・マルバノサウトウガラシ・シソクサ・クロホシクサ・ホシクサやゴマシオホシクサも稀産する。さらに、丘陵地に点在する溜池にはミズスギナ・ヒメミクリ・ヒツジグサ・ヒルムシロ・リュウノヒゲモ・イトトリゲモ・イバラモ・イヌタヌキモなどの水草類が繁茂する池もみられる。これらの溜池周辺の湿地では東海丘陵要素のヘビノボラズ・トウカイコモウセンゴケ・ク

維管束
植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ロミノニシゴリなどが分布し、その他イシモチソウ・ハルリンドウ・サワシロギク・トラノハナヒゲ・ミカワシンジュガヤ・コシンジュガヤなどが認められる。

また、この地域の河口付近では砂浜や干潟が形成され特異な植物群落が発達する。ことに櫛田川河口の松名瀬海岸にみられる塩性湿地植物群落はその典型である。ここは東海・近畿地方でも有数の植物群落でハマボウ・ハママツナ・フクド・ハマサジ・アイアシ・ナガミノオニシバなどの群落が認められる。さらに、ハマゴウ・ハマナデシコ・オカヒジキ・ハマヒルガオ・ケカモノハシ・コウボウムギなどの砂浜植物類やタチスズシロソウも稀産する。しかし、ここも海浜の整備などにより、希少植物の生育地が減少しつつあり、これらの植物群落の保全に配慮した海浜の整備が望まれる。

伊賀地域

内陸部にあり低標高であるが、都祁・信楽・布引などの山地・丘陵によって囲まれた伊賀盆地では、寒暖の差が大きく、夏期には蒸発散量が降水量を上回る傾向にあり、季節の変わり目には濃霧が発生するなど、内陸性気候の特徴を示す。ことに冬季は県内の他地域に比較して寒冷であり、この盆地を取り巻く丘陵地に点在する湿地には、分布の中心を寒帯や亜寒帯にもつヤチスギラン・ミツガシワ・サギスゲ・ミカヅキグサなどが遺存的に生育している。これらの貧栄養湿地は、丘陵地からの湧水によって涵養される小規模なものが多い。しかしミズゴケ類が繁茂し、ミミカキグサ・ホザキノミミカキグサ・ムラサキミミカキグサ・モウセンゴケ・トウカイコモウセンゴケ・イシモチソウなどの食虫植物も多く、サクラバハンノキ・ヘビノボラズ・ヒナノカンザシ・スイラン・サワギキョウ・ミズギボウシ・ヒナザサ・イトイヌノハナヒゲ・カガシラ・ミカワシンジュガヤ・ケシンジュガヤ・コシンジュガヤ・サギソウ・ミズトンボ・トキソウなど豊富な湿地性植物が生育する。

また、この地域の丘陵地には多数の溜池があり、水生植物相も豊かで、コウホネやヒツジグサ・フトヒルムシロ・スブタ・ヤナギスブタなどの水草類が生育し、希少種のヒメタヌキモやミカワタヌキモ・コバノヒルムシロ・ハタベカンガレイ・ツクシカンガレイなども確認されている。さらに年数を経た溜池の堤やその周辺では、キキョウ・イヌセンブリ・スズサイコ・タチカモメヅル・ヒメナエ・ウンヌケモドキなど、近年減少傾向にある里地の植物類も散見される。このように湿地性植物以外でも、多様な植物類が生育しているが、近年、滋賀県との県境に近い溪流沿いでマルバノキが再確認されたことは注目される。

伊賀地方は、古くから開けた奈良盆地と隣り合っており、人為の強い影響下にあったところである。現在、この地域の丘陵地には、マツノザイセンチュウによる枯損の著しいアカマツ二次林が多くあり、遊休土地として、道路開設、陶土の採掘、産業廃棄物の処分場、工場・宅地・ゴルフ場用地として土地開発事業の対象となってきた。この樹林の間に点在する湿地・放棄水田・溜池が前述した植物類の生育立地であり、残された生育地と生育環境の保全が強く望まれる。

南勢地域

中央構造線より南に位置し、紀伊半島の脊梁山地である台高山脈に遮られているこの地域は、夏季の多雨と対照的に、冬季この地域に吹き下ろす季節風は乾燥しており、植物の生育に影響を及ぼしている。とりわけ超塩基性である蛇紋岩が分布する朝熊山周辺や島嶼の丘陵地には、特徴的な植物相が発達し、チャボホトトギス・ジングウツツジ・ヒロハドウドンツツジ・シマジタムラソウ・シュンジュギク・イブキジャコウソウほか、多種類の希少植物が生育するホットスポット的な場所が点在している。さらに、伊勢湾に面した海岸部から内陸に至るまでの平野や丘陵には、中勢地域と同様、水田や畑地が広がり、随所に溜池とそれに付随した湿性地在が散在する。ここには、ミズニラをはじめとして、サンショウモ・ヒメコウホネ・ヒツジグサ・ミクリ・ナガエミクリ・ヤマトミクリ・シズイ・ツクシクロイヌノヒゲなどの水草類やサクラバハンノキほか湿地性の植物がみられる。さらに山間部の小規模な池沼にはカミガモソウなども稀産する。

この地域の熊野灘沿岸部にはリアス式海岸が発達し、所々に砂礫浜や干潟、塩沼地、海跡湖などが点在しており、紀伊半島東部の沿岸部を代表する貴重な植物群落が分布する。砂礫浜にはオカヒジキ・ハマニガナ・オニシバ・ネコノシタ・イワタイゲキ・ハマナタマメなどが群落をつくり、干潟や塩沼地ではハママツナ・フクド・ハマサジ・ナガミノオニシバ・アイアシ・ナガボテンツキなどの塩生植物群落が発達している。さらに、小さな河川の河口部汽水域にはコアマモやカワツルモの群落が認められる。分布の北限となるシマエンジュが自生し、塩沼地周辺に生育するハマボウが多いのもこの地域で、伊勢路川河口には大きなハマボウ群落が成立している。また、海跡湖やその周辺にはセキショウモ・イバラモ・シログワイなどの水草類やハマナツメの群落がみられ、その林床にはチョウジソウ・ノウルシ・コナミキ・ハンカイソウなどが生育し独特の景観を呈している。

一方、この地域の背後にある台高山地は、国内でも有数の多雨地帯である。このため激しい水蝕によって開析された深いV字谷には、ズイナ・サツキツツジ・イワナンテン・シチョウゲ・アワモリショウマ・チャボツメレンゲ・イワチドリ・ウチョウラン・ケイビラン・ウラハグサなどからなる懸崖植生が発達する。また、湿った岩石地・崖堆にはクサノオウバノギク・クサヤツデ・センダイソウ・イワザクラなどが生育して

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

いる。さらに急な斜面や痩せ尾根には、スギ・ヒノキ・コウヤマキ・トガサワラなどの常緑針葉樹類が豊富である。これらの植物種の多くはソハヤキ要素と呼ばれ、紀州地域を含め、四国、九州南部と共通する植物種で、この地域の植物相の骨格を形成している。またこの台高山地の樹林地や溪流沿いには多くのシダ植物が生育し、全国的に見て分布が局限されているヒメイノモトソウやオオミネイワヘゴなどが自生し、注目されている。

この地域においても、沿岸部では、観光施設の建設、道路開設、土砂採取などの土地開発により、また、山地では林業開発によって林種の転換が進行して植物相の単純化が進んだ。近年はニホンジカをはじめとして植食野生獣の増加が植物相の単純化をより促進しており、野生獣の個体数管理が強く望まれている。

紀州地域

紀伊半島の脊梁山地である台高山脈は、夏季には太平洋から多量の水蒸気を受けて降水を促す一方で、冬季には衝立として紀州地域に吹き込む寒冷な季節風を軽減する。さらに沖合を黒潮が北上する熊野灘に面しており、この地域の沿海部や島嶼は県内で最も温暖である。このためリュウビンタイ・ヘゴ・ヒカゲアマクサシダ・オオタニワタリをはじめとして暖地性のシダ類を豊富に産するほか、ハマセンダン（シマクロキ）・ナタオレノキ・ヒロハコンロンカ・ピロードムラサキ・ミサオノキ・バクチノキ・タイキンギクなど亜熱帯域から分布を広げている暖地性の植物類が生育している。

前述のように、この地域の植物相の骨格はソハヤキ要素であり、トガサワラ・マルバノキ・アサマリンドウ・ヤハズアジサイ・バイカアマチャ・ズイナ・チャルメルソウ・タチバナ・イヌトウキ・シコクスミレ・クサヤツデ・テイショウソウ・ケイビランなど、四国、九州から中国西南部・ヒマラヤ地方と共通する属・種が多く分布する。その一方で、アタシカカナワラビ・ジュロウカンアオイ・キイジョウロウホトトギス・ドロニガナ・キイセンニンソウ・カワゼンゴ・ミギワトダシバなどの地域固有種あるいは準地域固有種の発達も著しい。

さらに、台高山の山地が太平洋に沈み込む沿岸部には小規模な海跡湖が点在し、その周辺にハマナツメ・チョウジソウ・フサスゲ・ツクシナルコ、全国的に産地が限られているトダスゲなどの湿生植物類が群落をつくっている。また、海辺の近くであるにもかかわらず、内陸水域に生育するヒメシロアサザ・スプタ・ヤナギスプタ・フトヒルムシロ・センニンモ・シログワイ・セキシウモ・ミズオオバコ・クロモなどの水草類が生育している。

この地域で塩沼地の植物群落がまとまって認められるのは、紀北町船津川河口付近で、岸边にはハマサジ・フクド・タコノアシ・シバナ・ピロードテンツキなどが生育し、汽水域にはコアマモやカワツルモの大きな群落が認められる。

熊野市から紀宝町にかけての沿岸部では20km余りに及ぶ礫浜が形成され、ハマゴウ・ハマエンドウ・ハマアザミ・ピロードテンツキ・コウボウムギなどからなる海浜植物群落が成立している。この礫浜を横切り、熊野灘に流入する河川の河口部から上流にかけて、ハマナツメが点在する広いヨシ原がみられ、湿生植物のノウルシ・サデクサ・ヒキノカサ・ホザキマスキサ・フサスゲなどの自生をみることができる。ことにヒキノカサとホザキマスキサは県内でも当地域が唯一の生育地であり貴重である。

この地域でも古くから林業が盛んで、山地の多くはスギ・ヒノキの人工林に転換され、わずかな自然林が残るのみである。しかし、スギ・ヒノキ人工林内にも前述の希少植物が点在するので、それらの生育環境を保全するための適切な森林作業が望まれる。また、道路開設などの土地開発による、樹林の伐採や山地の掘削、池沼の埋立て他、大規模な土木工事が進行中で、希少植物の減少・絶滅が危惧されている。

2. 調査内容と結果

調査方法・評価の手順は、2005年版RDB作成時に採用した手順に準じた。以下にその内容を記した。

1. 対象とした維管束植物は、原則として変種のレベルまでとして、雑種は除外した。
2. 植物の分布情報は、2005年版RDBと同様、博物館・大学・個人ほかが収蔵する標本にもとづいたが、今回の改訂にあたっては、信頼できる文献によるものも一部加えた。また、2005年版RDB刊行以降、新たに県内で生育が確認された種、環境省第4次レッドリストに追加された種などを加えて検討対象種とした。
3. 今回の改訂でも、検討対象種の評価基準の基礎となる絶滅確率や個体数に関する情報が充分には得られていないので、2005年版RDBの作成時に開発されたチェックシートを用いて可能な限り定量的・客観的に評価をおこなった。
4. 絶滅危惧種の概要：

本県において絶滅のおそれのある維管束植物の総数は、2005年版RDBではシダ植物、種子植物あわせて461種だったが、2014年版レッドリストでは549種となった。絶滅が懸念される種が大幅に増加したが、その大きな要因は、2005年版RDB刊行以降、新たに県下に生育する希少植物種に関する情報量が増えたこと（新たに希少植物の分布・生育が確認されたこと）、それらの生育環境の悪化が続いていること、こ

維管束
植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

とに、植食野生獣が過度に増大し、その摂食により植物種の個体数が著しく減っていることによる。また、準絶滅危惧種と情報不足の種を含めてリストに掲載された種数は、2005年版RDBで642種、今回の改訂では725種と増加しているが、これも前述の理由によるところが多い。

今回の改訂にあたって、極力、情報不足（DD）の種を減らすべく情報の収集にあたり、信頼できる文献に分布情報があるものの、確実な生育状況が不明であった種については、既知の生育地で長年にわたり生育確認ができずにいた種を絶滅として掲載（バイカモ・コケモモ・ムカゴソウ・タカサゴイヌワラビ他）した。

一方で、オキナグサ・アゼオトギリ・ケブカツルカコソウ・ウエマツソウ・イワオモダカなど絶滅とされていた種が再発見された。これらをはじめとして生育状況に応じてカテゴリーの見直しをおこなったが、絶滅種の再発見は、現時点での分布・生育が確認されず絶滅とされた種についても、それらの生育立地の保全が非常に重要であることが示唆された。

見直しの結果、ランク外となった種名と変更理由を表12-1に、2005年版RDB掲載種で、今回の改訂にあたり、検討対象から除外した種名とその理由を、表12-2に示した。

また、本県に生育する維管束植物のうち、環境省第4次レッドリストに掲載されているが、本県の2014年版レッドリストでは扱われなかった種がいくつかある。それらの種名と不掲載の理由を表12-3にまとめた。

なお、科の配列および科名については、平凡社の「日本の野生植物」（岩槻（編）1992、佐竹ほか1981、1982、1989）に準拠したが、新分類体系による科名についても（ ）内に注記した。その際、科の名称が変更のない場合は「同」と付記している。新分類体系の科名は邑田・米倉の維管束植物分類表（2013）に従った。

表12-1. 2014年版リストでLC（低懸念）となった種.

科名	和名	改訂前 県ランク	除外理由
ウコギ	ケヤマウコギ	DD	生育情報量の増加
ゴマノハグサ	カワジシャ	DD	生育情報量の増加
カヤツリグサ	サヤマスゲ	DD	生育情報量の増加
カヤツリグサ	ヤガミスゲ	EN	生育情報量の増加

表12-2. 2014年版リストから除外した種

科名	和名	改訂前 県ランク	除外理由
ニレ	ハルニレ	EN	誤認（オヒョウ）
アカザ	マツナ	EN	移入
サクラソウ	サワトラノオ	EX	誤同定
サクラソウ	コイワザクラ	CR	誤認（イワザクラ）
ユキノシタ	ザリコミ	DD	自生・不明
バラ	ユキヤナギ	DD	逸出の可能性/自生・不明
マメ	ヨツバハギ	DD	自生・不明
ガガイモ	タチガシワ	CR	誤認（ツルガシワ）
シソ	シソバタツナミ	DD	誤認
ゴマノハグサ	ゴマノハグサ	DD	自生・不明
タヌキモ	タヌキモ	DD	自生・不明
キク	ホソバニガナ	DD	誤認
ヒルムシロ	オヒルムシロ	DD	自生・不明
ユリ	ヒメユリ	DD	移入

表12-3. 環境省第4次レッドリスト掲載種のうち、不掲載となった種

科名	和名	環境省 ランク	除外理由
イワヒバ	イヌカタヒバ	VU	逸出
チャセンシダ	テンリュウヌリトラノオ	VU	個体数多く分布域も比較的広い
チャセンシダ	ヤマドリトラノオ	CR	文献より雑種と判断した。
ウマノスズクサ	コトウカンアオイ	EN	個体数多い
セリ	イヌトウキ	VU	個体数多く分布域も比較的広い
シソ	ミズネコノオ	NT	個体数多く分布域も比較的広い
VU	タヌキモ	NT	個体数多く分布域も比較的広い
キク	イワヨモギ	VU	移入
NT	キク	VU	個体数多く分布域も比較的広い
キク	キクタニギク	NT	移入
DD	イネ	NT	個体数多く分布域も比較的広い

文 献

- 星野卓二・正木智美・西本眞理子. 日本カヤツリグサ科植物図譜. 平凡社, 東京, 778 pp.
- 伊藤武夫. 1932. 三重縣植物誌上下. 三重縣植物誌発行所, 宇治山田, 840+30+83+6 pp.
- 伊藤武夫. 1951. 顕花植物及羊歯植物. 三重縣産生物目録, pp. 149-295. 三重縣生物調査委員会, 津.
- 伊藤武夫. 1952. 神宮宮域産生物目録1 種子植物類. 神宮農業館, 伊勢.
- 岩槻邦男 (編). 1992. 日本の野生植物シダ. 平凡社, 東京, 311 pp.
- 加藤雅啓・海老原淳 (編). 2011. 日本の固有植物. 東海大学出版会, 神奈川, 503 pp.
- 角野康郎. 2014. 日本の水草. 文一総合出版, 東京, 326 pp.
- 亀山市. 2010. 亀山市史 自然編. 亀山市, 亀山, 1014 pp.
- 環境省. 2012. 第4次レッドリスト植物I (維管束植物). (<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=15619>) (2014年8月1日確認).
- 北村四郎・村田 源・小山鉄夫. 1982. 原色日本植物図鑑I~III, 保育社, 大阪.
- 紀勢町教育委員会. 2001. 紀勢町史自然編. 紀勢, 522 pp.
- 紀和町史編纂委員会. 1991. 紀和町史上巻. 紀和, 889 pp.
- 菰野町教育委員会. 1991. 菰野町史自然編. 菰野, 518 pp.
- 菰野町教育委員会. 2012. 国指定天然記念物「田光のシデコブシ及び湿地植物群落」自然科学調査報告書. 菰野町教育委員会, 菰野, 308 pp.
- 国立科学博物館 (編). 2006. 日本列島の自然史. 東海大学出版会, 神奈川, 339 pp.
- 前川文夫. 1977. 日本の植物区系. 玉川大学出版部, 東京, 155 pp.
- 三重県環境森林部自然環境室 (編). 2006. 三重県レッドデータブック2005 植物・キノコ. (財) 三重県環境保全事業団, 津, 534 pp.
- 三重県立博物館. 2003. 三重県立博物館収蔵資料目録 服部哲太郎植物標本. 三重県立博物館, 津, 87 pp.
- 三重県立博物館. 2003. 三重県立博物館収蔵資料目録 小出哲夫植物標本. 三重県立博物館, 津, 110 pp.
- 三重県立博物館. 2003. 三重県立博物館収蔵資料目録 筒井養之助植物標本. 三重県立博物館, 津, 254 pp.
- 三重県立博物館. 2003. 三重県立博物館収蔵資料目録 矢頭献一植物標本. 三重県立博物館, 津, 85 pp.
- 三重県立博物館. 2004. 三重県立博物館収蔵資料目録 百永章植物標本. 三重県立博物館, 津, 159 pp.
- 三重県立上野高等学校生物教室編. 1960. 伊賀地方産植物目録 (三重県立上野高等学校所蔵標本目録). 三重県立上野高校, 上野, 154 pp.
- 三重シダの会. 1989. 三重県のシダ植物. 三重県良書出版会, 津, 188 pp.
- 三重自然誌の会. 1995. 自然のレッドデータブック・三重. 三重県教育文化研究所, 津, 183 pp.
- 三雲町史編集委員会. 2003. 三雲町史第1巻通史編. 三雲町, 三雲, 917 pp.
- 宮川村史編さん委員会. 1994. 宮川村史. 宮川村, 宮川, 1476 pp.
- 村田 源 (レッドデータブック近畿研究会編). 2004. 近畿地方植物誌. 特定非営利活動法人大阪自然史センター, 大阪, 257 pp.
- 邑田 仁・米倉浩司. 2013. 維管束植物分類表. 北隆館, 東京, 213 pp.
- 大洞浩一. 2013. 熊野地方の植物誌I. 熊野誌60:45-65.
- 大宮町史編纂委員会. 1986. 大宮町史自然編. 大宮町, 大宮, 534 pp.
- 長田武正. 2002. 増補日本イネ科植物図鑑. 平凡社, 東京, 777 pp.
- レッドデータブック近畿研究会 (編著). 2001. 改訂・近畿地方の保護上重要な植物ーレッドデータブック近畿2001. 財団法人平岡環境科学研究所, 川崎, 164 pp.
- 佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫. 1989. 日本の野生植物木本I. 平凡社, 東京, 321 pp.
- 佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫. 1989. 日本の野生植物木本II. 平凡社, 東京, 305 pp.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫. 1981. 日本の野生植物草本III合弁花類. 平凡社, 東京, 259 pp.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫. 1982. 日本の野生植物草本I 単子葉類. 平凡社, 東京, 305 pp.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫. 1982. 日本の野生植物草本II 離弁花類. 平凡社, 東京, 318 pp.
- 勢和村史編集委員会. 2001. 勢和村史資料編二. 勢和村, 勢和, 620 pp.
- 多度町教育委員会. 1995. 多度町史自然. 多度町, 多度, 762 pp.
- 武田明正. 1980. 三重の樹木. 三重県・大阪営林局, 三重, 176 pp.
- 上野市史編さん委員会. 2004. 上野市史自然編. 上野市, 上野, 1036 pp.
- 嬉野町史編纂室. 2004. 嬉野史自然編. 嬉野町, 嬉野, 476 pp.
- 矢原徹一監修. 2003. レッドデータプラント. 山と溪谷社, 東京, 719 pp.
- 矢頭献一. 1964. 図説樹木学. 針葉樹編. 朝倉書店, 東京, 189 pp.

維管束
植 物

蘚苔類

藻 類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

山本和彦・市川正人・山路武夫・山脇和也. 2009. 紀伊半島大台ヶ原（三重県側）の植物相. 三重自然誌, 12: 118-150.

山本和彦・市川正人. 2012. 三重県におけるシマエンジュの発見とその現状. 分類, 12: 63-67.

四日市市教育委員会. 1990. 四日市市史第1巻資料編自然. 四日市市教育委員会, 四日市, 436 pp.

(武田明正・山本和彦・市川正人)

維管束植物レッドリスト

絶滅 (EX)

	科名	和名	学名	環境省	掲載P.
	シダ	ハナヤスリ	チャボハナヤスリ	VU	417
	シダ	コケシノブ	リュウキュウコケシノブ		417
	シダ	オシダ	メヤブソテツ		417
	シダ	オシダ	ナガサキシダ		418
	シダ	イワデンド	タカサゴイヌワラビ	CR	418
	シダ	イワデンド	コガネシダ		418
	シダ	ウラボシ	クラガリシダ	EN	419
	シダ	アカウキクサ	アカウキクサ	EN	419
	種子	キンボウゲ	バイカモ		419
	種子	キンボウゲ	オトコゼリ		420
	種子	モウセンゴケ	ムジナモ	CR	420
	種子	モウセンゴケ	ナガバノイシモチソウ	VU	420
	種子	ベンケイソウ	ホソバノキリンソウ		421
	種子	マメ	ヒメノハギ		421
	種子	マメ	ヒロハクサフジ		421
	種子	トウダイグサ	ハギクソウ	CR	422
	種子	ヒメハギ	ヒナノキンチャク	EN	422
	種子	ノボタン	ヒメノボタン	VU	422
	種子	セリ	ミシマサイコ	VU	423
	種子	セリ	ヌマゼリ	VU	423
	種子	ツツジ	コケモモ		423
	種子	ムラサキ	ムラサキ	EN	424
	種子	シソ	キセワタ	VU	424
	種子	ゴマノハグサ	タチコゴメグサ		424
	種子	ゴマノハグサ	カミガモソウ	EN	425
	種子	ゴマ	ヒシモドキ	EN	425
	種子	イワタバコ	イワギリソウ	VU	425
	種子	ハマウツボ	ハマウツボ	VU	426
	種子	タヌキモ	コタヌキモ		426
	種子	タヌキモ	ヒメミミカキグサ	EN	426
	種子	キク	ノコギリソウ		427
	種子	キク	モリアザミ		427
	種子	キク	カセンソウ		427
	種子	キク	タカサゴソウ	VU	428
	種子	キク	ヒメヒゴタイ	VU	428
	種子	キク	キクアザミ		428
	種子	キク	オナモミ	VU	429
	種子	カヤツリグサ	ノハラテンツキ	VU	429
	種子	カヤツリグサ	クロタマガヤツリ		429
	種子	ラン	キンセイラン	VU	430
	種子	ラン	サルメンエビネ	VU	430
	種子	ラン	ムカゴトンボ	EN	430
	種子	ラン	ムカゴソウ	EN	431
	種子	ラン	セイタカスズムシ		431
	種子	ラン	ミズチドリ		431
	種子	ラン	イイヌマムカゴ	EN	432

野生絶滅 (EW)

	科名	和名	学名	環境省	掲載P.
	シダ	オシダ	サツマシダ	EN	432
	種子	キツネノマゴ	スズムシバナ		432

絶滅危惧IA類 (CR)

	科名	和名	学名	環境省	掲載P.
	シダ	ヒカゲノカズラ	ヒモヅル	VU	433
	シダ	ヒカゲノカズラ	アスヒカズラ		433

シダ	ヒカゲノカズラ	ヒモラン	<i>Lycopodium sieboldii</i>	EN	433
シダ	ヘゴ	ヘゴ	<i>Cyathea spinulosa</i>	—	434
シダ	コバノイシカグマ	ヒメムカゴシダ	<i>Monachosorum arakii</i>	EN	434
シダ	シシラン	タキミシダ	<i>Antrophyum obovatum</i>	EN	434
シダ	イノモトソウ	ヒカゲアマクサシダ	<i>Pteris tokioi</i>	EN	435
シダ	イノモトソウ	ヒメイノモトソウ	<i>Pteris yamatensis</i>	EN	435
シダ	チャセンシダ	オオタニワタリ	<i>Asplenium antiquum</i>	VU	435
シダ	シシガシラ	オオカグマ	<i>Woodwardia japonica</i>	—	436
シダ	オシダ	アタシカカナワラビ	<i>Arachniodes oohorae</i>	CR	436
シダ	オシダ	ハガクレカナワラビ	<i>Arachniodes yasu inouei</i>	VU	436
シダ	オシダ	イズヤブソテツ	<i>Cyrtomium fortunei</i> var. <i>atropunctatum</i>	—	437
シダ	オシダ	オオミネイワヘゴ	<i>Dryopteris lunanensis</i>	CR	437
シダ	オシダ	アツギヌカイタチシダマガイ	<i>Dryopteris simasakii</i> var. <i>paleacea</i>	—	437
シダ	オシダ	マルバナカイタチシダモドキ	<i>Dryopteris tsuguiwai</i>	CR	438
シダ	ヒメシダ	ホソバショリマ	<i>Thelypteris beddomei</i>	—	438
シダ	ヒメシダ	ツクシヤワラシダ	<i>Thelypteris hattorii</i> var. <i>nemoralis</i>	—	438
シダ	ウラボシ	ヤクシマウラボシ	<i>Crypsinus yakuinsularis</i>	EN	439
シダ	ウラボシ	イワオモダカ	<i>Pyrrosia hastata</i>	—	439
シダ	ヒメウラボシ	キレハオオクボシダ	<i>Ctenopteris sakaguchiana</i>	EN	439
シダ	ヒメウラボシ	ヒロハヒメウラボシ	<i>Grammitis nipponica</i>	CR	440
種子	マツ	トウヒ	<i>Picea jezoensis</i> var. <i>hondoensis</i>	—	440
種子	ヒノキ	イブキ (イブキビャクシン)	<i>Juniperus chinensis</i>	—	440
種子	ヒノキ	ミヤマビャクシン	<i>Juniperus chinensis</i> var. <i>sargentii</i>	—	441
種子	ヤマモモ	ヤチヤナギ	<i>Myrica gale</i> var. <i>tomentosa</i>	—	441
種子	ヤナギ	ヤマヤナギ	<i>Salix sieboldiana</i> var. <i>sieboldiana</i>	—	441
種子	ブナ	フモトミズナラ	<i>Quercus crispula</i> var. <i>mongolicoides</i>	—	442
種子	イラクサ	ソハヤキミズ	<i>Pilea swinglei</i>	VU	442
種子	ツチトリモチ	ツチトリモチ	<i>Balanophora japonica</i>	—	442
種子	キンボウゲ	シコクフクジュソウ	<i>Adonis shikokuensis</i>	VU	443
種子	キンボウゲ	コウヤハンショウヅル	<i>Clematis obvallata</i>	CR	443
種子	キンボウゲ	オキナグサ	<i>Pulsatilla cernua</i>	VU	443
種子	キンボウゲ	ヒキノカサ	<i>Ranunculus ternatus</i> var. <i>ternatus</i>	VU	444
種子	キンボウゲ	タマカラマツ	<i>Thalictrum watanabei</i>	VU	444
種子	スイレン	オニバス	<i>Euryale ferox</i>	VU	444
種子	ウマノスズクサ	ジュロウカンアオイ	<i>Asarum kinoshitae</i>	CR	445
種子	ウマノスズクサ	スエヒロアオイ	<i>Asarum dilatatum</i>	CR	445
種子	ボタン	ベニバナヤマシャクヤク	<i>Paeonia obovata</i>	VU	445
種子	オトギリソウ	アゼオトギリ	<i>Hypericum oliganthum</i>	EN	446
種子	アブラナ	タチスズシロソウ	<i>Arabidopsis kamchatica</i> subsp. <i>kawasakiana</i>	EN	446
種子	アブラナ	ヒロハコンロンソウ	<i>Cardamine appendiculata</i>	—	446
種子	マンサク	マルパノキ	<i>Disanthus cercidifolius</i>	—	447
種子	マンサク	トキワマンサク	<i>Loropetalum chinense</i>	EN	447
種子	ベンケイソウ	チャボツメレンゲ	<i>Meterostachys sikokianus</i>	VU	447
種子	ベンケイソウ	アズマツメクサ	<i>Tillaea aquatica</i>	NT	448
種子	ユキノシタ	キイハナネコノメ	<i>Chrysosplenium album</i> var. <i>nachiense</i>	—	448
種子	バラ	チョウセンキンミズヒキ	<i>Agrimonia coreana</i>	VU	448
種子	バラ	キンキマメザクラ	<i>Prunus incisa</i> var. <i>kinkiensis</i>	—	449
種子	マメ	イヌハギ	<i>Lespedeza tomentosa</i>	VU	449
種子	マメ	オオバクサフジ	<i>Vicia pseudo-orobus</i>	—	449
種子	クロウメモドキ	クロカンバ	<i>Rhamnus costata</i>	—	450
種子	ジンチョウゲ	カラスシキミ	<i>Daphne miyabeana</i>	—	450
種子	グミ	コウヤグミ	<i>Elaeagnus numajiriana</i>	—	450
種子	スマレ	サクラスマレ	<i>Viola hirtipes</i>	—	451
種子	ミソハギ	ヒメキカシグサ	<i>Rotala elatinomorpha</i>	CR	451
種子	ミソハギ	ミズスギナ	<i>Rotala hippuris</i>	CR	451
種子	アカバナ	ケゴンアカバナ	<i>Epilobium amurense</i>	—	452
種子	セリ	フジワラサイコ	<i>Bupleurum quadriradiatum</i>	—	452
種子	セリ	ドクゼリ	<i>Cicuta virosa</i>	—	452
種子	セリ	セリモドキ	<i>Dystaenia ibukiensis</i>	—	453
種子	セリ	フキヤミツバ	<i>Sanicula tuberculata</i>	VU	453
種子	サクラソウ	ミヤマコナスビ	<i>Lysimachia tanakae</i>	—	453
種子	モクセイ	ナタオレノキ (シマモクセイ)	<i>Osmanthus insularis</i> var. <i>insularis</i>	—	454
種子	リンドウ	コケリンドウ	<i>Gentiana squarrosa</i>	—	454
種子	ミツガシワ	ミツガシワ	<i>Menyanthes trifoliata</i>	—	454
種子	ミツガシワ	ヒメシロアサザ	<i>Nymphoides coreana</i>	VU	455
種子	ミツガシワ	アサザ	<i>Nymphoides peltata</i>	NT	455
種子	ガガイモ	クサナギオゴケ	<i>Vincetoxicum katoi</i>	VU	455
種子	アカネ	オオキヌタソウ	<i>Rubia chinensis</i> f. <i>mitis</i>	—	456

維管束
植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

種子	ヒルガオ	マメダオシ	<i>Cuscuta australis</i>	CR	456
種子	ムラサキ	マルバチシャノキ	<i>Ehretia dicksonii</i>	—	456
種子	クマツヅラ	ビロードムラサキ	<i>Callicarpa kochiana</i>	VU	457
種子	シソ	ヤマジソ	<i>Mosla japonica</i>	NT	457
種子	シソ	ナツノタムラソウ	<i>Salvia lutescens</i> var. <i>intermedia</i>	—	457
種子	イワタバコ	シシンラン	<i>Lysionotus pauciflorus</i>	VU	458
種子	タヌキモ	イイタカムシトリスミレ	<i>Pinguicula vulgaris</i> var. <i>floribunda</i>	—	458
種子	タヌキモ	フサタヌキモ	<i>Utricularia dimorphantha</i>	EN	458
種子	ハマジンチョウ	ハマジンチョウ	<i>Myoporum bontioides</i>	VU	459
種子	オミナエシ	カノコソウ	<i>Valeriana fauriei</i>	—	459
種子	マツムシソウ	マツムシソウ	<i>Scabiosa japonica</i>	—	459
種子	キキョウ	バアソブ	<i>Codonopsis ussuriensis</i>	VU	460
種子	キク	チョウジギク	<i>Arnica mallotopus</i>	—	460
種子	キク	ヒメシオン	<i>Aster fastigiatus</i>	—	460
種子	キク	コバナガンクビソウ	<i>Carpesium faberi</i>	VU	461
種子	キク	イナベアザミ	<i>Cirsium magofukui</i>	VU	461
種子	キク	フジバカマ	<i>Eupatorium japonicum</i>	NT	461
種子	キク	アキノハハコグサ	<i>Gnaphalium hypoleucum</i>	EN	462
種子	キク	ミズギク	<i>Inula ciliaris</i> var. <i>ciliaris</i>	—	462
種子	オモダカ	マルバオモダカ	<i>Caldesia parnassifolia</i>	VU	462
種子	ホンゴウソウ	ウエマツソウ	<i>Sciaphila secundiflora</i>	VU	463
種子	ユリ	ギョウジャニンニク	<i>Allium victorialis</i> subsp. <i>platyphyllum</i>	—	463
種子	ユリ	ステゴビル	<i>Caloscordum inutile</i>	VU	463
種子	ユリ	ミノコバイモ (コバイモ)	<i>Fritillaria japonica</i>	VU	464
種子	ユリ	キバナノアマナ	<i>Gagea lutea</i>	—	464
種子	ユリ	ミカワバイケイソウ	<i>Veratrum stamineum</i> var. <i>micranthum</i>	VU	464
種子	ミズアオイ	ミズアオイ	<i>Monochoria korsakowii</i>	NT	465
種子	ホシクサ	ツクシクロイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon hiussianum</i>	VU	465
種子	イネ	ミズタカモジ	<i>Elymus humidus</i>	VU	465
種子	イネ	ウンヌケ	<i>Eulalia speciosa</i>	VU	466
種子	イネ	ヒゲシバ	<i>Sporobolus japonicus</i>	—	466
種子	サトイモ	ホロテンナンショウ	<i>Arisaema cucullatum</i>	CR	466
種子	サトイモ	マイヅルテンナンショウ	<i>Arisaema heterophyllum</i>	VU	467
種子	サトイモ	ヒメザゼンソウ	<i>Symplocarpus nipponicus</i>	—	467
種子	ミクリ	ミクリ	<i>Sparganium erectum</i>	NT	467
種子	ミクリ	オオミクリ	<i>Sparganium macrocarpum</i>	VU	468
種子	カヤツリグサ	トダスゲ	<i>Carex aequialta</i>	CR	468
種子	カヤツリグサ	コタヌキラン	<i>Carex doenitzii</i>	—	468
種子	カヤツリグサ	コウヤハリスゲ	<i>Carex koyaensis</i>	—	469
種子	カヤツリグサ	オオクゲ	<i>Carex rugulosa</i>	NT	469
種子	カヤツリグサ	ツクシナルコ	<i>Carex subcernua</i>	EN	469
種子	カヤツリグサ	クロハリイ	<i>Eleocharis kamtschatica</i> f. <i>reducta</i>	—	470
種子	カヤツリグサ	ヌマハリイ	<i>Eleocharis mamillata</i> var. <i>cyclocarpa</i>	—	470
種子	カヤツリグサ	ヤリテンツキ	<i>Fimbristylis ovata</i>	NT	470
種子	カヤツリグサ	オオイヌノハナヒゲ	<i>Rhynchospora fauriei</i>	—	471
種子	カヤツリグサ	ミクリガヤ	<i>Rhynchospora malasica</i>	EN	471
種子	カヤツリグサ	イセウキヤガラ	<i>Bolboschoenus planiculmis</i>	—	471
種子	カヤツリグサ	ツクシカンガレイ	<i>Schoenoplectus multisetus</i>	—	472
種子	カヤツリグサ	シンジュガヤ	<i>Scleria levis</i>	—	472
種子	ラン	キリシマエビネ	<i>Calanthe aristulifera</i>	EN	472
種子	ラン	ササバギンラン	<i>Cephalanthera longibracteata</i>	—	473
種子	ラン	モイワラン	<i>Cremastra aphylla</i>	CR	473
種子	ラン	カンラン	<i>Cymbidium kanran</i>	EN	473
種子	ラン	コイチヨウラン	<i>Ephippianthus schmidtii</i>	—	474
種子	ラン	エゾスズラン	<i>Epipactis papillosa</i>	—	474
種子	ラン	ギボウシラン	<i>Liparis auriculata</i>	EN	474
種子	ラン	フガクスズムシソウ	<i>Liparis fujisanensis</i>	VU	475
種子	ラン	ムカゴサイシン	<i>Nervilia nipponica</i>	EN	475
種子	ラン	ヒナチドリ	<i>Orchis chidori</i> var. <i>chidori</i>	VU	475
種子	ラン	ガンゼキラン	<i>Phaius flavus</i>	VU	476
種子	ラン	キソチドリ	<i>Platanthera ophrydioides</i>	—	476
種子	ラン	オオヤマサギソウ	<i>Platanthera sachalinensis</i>	—	476
種子	ラン	モミラン	<i>Saccolabium toramanum</i>	VU	477

絶滅危惧IB類 (EN)

	科名	和名	学名	環境省	掲載P.
DD	シダ	ヒカゲノカズラ	ヤチスギラン	—	477
	シダ	イワヒバ	ヤマクラマゴケ	—	477

シダ	ハナヤスリ	アカハナワラビ	<i>Botrychium nipponicum</i>	—	478
シダ	ハナヤスリ	ハマハナヤスリ	<i>Ophioglossum thermale</i> var. <i>thermale</i>	—	478
シダ	ハナヤスリ	ヒロハハナヤスリ	<i>Ophioglossum vulgatum</i>	—	478
シダ	コケシノブ	チチブホラゴケ	<i>Crepidomanes schmidtianum</i>	—	479
シダ	ホングウシダ	サイゴクホングウシダ	<i>Lindsaea odorata</i> var. <i>japonica</i>	—	479
シダ	シシラン	ナカミシシラン	<i>Vittaria fudzinoi</i>	—	479
シダ	イノモトソウ	ハチジョウシダ	<i>Pteris fauriei</i>	—	480
シダ	チャセンシダ	カミガモシダ	<i>Asplenium oligophlebium</i>	—	480
シダ	チャセンシダ	オクタマシダ	<i>Asplenium pseudo wilfordii</i>	VU	480
シダ	チャセンシダ	イチョウシダ	<i>Asplenium ruta muraria</i>	NT	481
シダ	オシダ	カツモウイノデ	<i>Ctenitis subglandulosa</i>	—	481
シダ	オシダ	ツクシヤブソテツ	<i>Cyrtomium macrophyllum</i> var. <i>tukusicola</i>	—	481
シダ	オシダ	ツクシイワヘゴ	<i>Dryopteris commixta</i>	—	482
シダ	オシダ	タカサゴシダ	<i>Dryopteris formosana</i>	NT	482
シダ	オシダ	クロミノイタチシダ	<i>Dryopteris melanocarpa</i>	—	482
シダ	オシダ	ムラサキベニシダ	<i>Dryopteris purpurella</i>	CR	483
シダ	オシダ	アスカイノデ	<i>Polystichum fibrillosopaleaceum</i>	—	483
シダ	ヒメシダ	オオハシゴシダ	<i>Thelypteris angulariloba</i>	—	483
シダ	ヒメシダ	ヨコグラヒメワラビ	<i>Thelypteris hattorii</i>	—	484
シダ	ヒメシダ	ミヤマワラビ	<i>Thelypteris phegopteris</i>	—	484
シダ	イワデンド	ヒロハノコギリシダ	<i>Diplazium dilatatum</i>	—	484
シダ	イワデンド	エビラシダ	<i>Gymnocarpium oyamense</i>	—	485
シダ	ウラボシ	アオネカズラ	<i>Polypodium niponicum</i>	—	485
シダ	デンジソウ	デンジソウ	<i>Marsilea quadrifolia</i>	VU	485
種子	イチイ	イチイ	<i>Taxus cuspidata</i>	—	486
種子	カバノキ	アサダ	<i>Ostrya japonica</i>	—	486
種子	ニレ	オヒョウ	<i>Ulmus laciniata</i>	—	486
種子	イラクサ	ラセイタソウ	<i>Boehmeria biloba</i>	—	487
種子	ヤドリギ	オオバヤドリギ	<i>Taxillus yadoriki</i>	—	487
種子	タデ	ヤナギヌカボ	<i>Persicaria foliosa</i> var. <i>paludicola</i>	VU	487
種子	タデ	マダイオウ	<i>Rumex madaio</i>	—	488
種子	ナデシコ	タチハコベ	<i>Moehringia trinervia</i>	VU	488
種子	アカザ	ハマアカザ	<i>Atriplex subcordata</i>	—	488
種子	アカザ	イソホウキギ	<i>Bassia scoparia</i>	—	489
種子	ヒユ	ハチジョウイノコヅチ	<i>Achyranthes bidentata</i> var. <i>hachijoensis</i>	—	489
種子	モクレン	シデコブシ	<i>Magnolia stellata</i>	NT	489
種子	キンポウゲ	ヒメイチゲ	<i>Anemone debilis</i>	—	490
種子	キンポウゲ	キイセンニンソウ	<i>Clematis uncinata</i> var. <i>ovatifolia</i>	—	490
種子	キンポウゲ	コバノリュウキンカ	<i>Caltha palustris</i> var. <i>pygmaea</i>	—	490
種子	キンポウゲ	タカネハンショウヅル	<i>Clematis lasiandra</i>	—	491
種子	キンポウゲ	カザグルマ	<i>Clematis patens</i>	NT	491
種子	キンポウゲ	シロバナハンショウヅル	<i>Clematis williamsii</i>	—	491
種子	キンポウゲ	コウヤシロカネソウ	<i>Dichocarpum numajirianum</i>	EN	492
種子	キンポウゲ	ミスミソウ	<i>Hepatica nobilis</i> var. <i>japonica</i>	NT	492
種子	キンポウゲ	セツブンソウ	<i>Eranthis pinnatifida</i>	NT	492
種子	マタタビ	シマサルナシ	<i>Actinidia rufa</i>	—	493
種子	ケシ	ヤマブキソウ	<i>Hylomecon japonica</i>	—	493
種子	アブラナ	ミツバコンロンソウ	<i>Cardamine anemonoides</i>	—	493
種子	アブラナ	マルバタネツケバナ	<i>Cardamine</i> sp.	—	494
種子	アブラナ	コイヌガラシ	<i>Rorippa cantoniensis</i>	NT	494
種子	ベンケイソウ	アオベンケイソウ (アオベンケイ)	<i>Hylotelephium viride</i>	—	494
種子	ユキノシタ	シラヒゲソウ	<i>Parnassia foliosa</i>	—	495
種子	ユキノシタ	ナメラダイモンジソウ	<i>Saxifraga fortunei</i> var. <i>suwoensis</i>	—	495
種子	ユキノシタ	センダイソウ	<i>Saxifraga sendaica</i>	NT	495
種子	バラ	ヤマブキショウマ	<i>Aruncus dioicus</i> var. <i>kamtschaticus</i>	—	496
種子	バラ	シモツケソウ	<i>Filipendula multijuga</i> var. <i>multijuga</i>	—	496
種子	バラ	イワキンバイ	<i>Potentilla ancistrifolia</i> var. <i>dickinsii</i>	—	496
種子	バラ	ミヤマチョウジザクラ	<i>Prunus apetala</i>	—	497
種子	バラ	ミヤマザクラ	<i>Prunus maximowiczii</i>	—	497
種子	バラ	マメナシ	<i>Pyrus calleryana</i>	EN	497
種子	バラ	ハスノハイチゴ	<i>Rubus peltatus</i>	NT	498
種子	バラ	サナギイチゴ	<i>Rubus pungens</i> var. <i>oldhamii</i>	VU	498
種子	バラ	ドロシモツケ	<i>Spiraea japonica</i> var. <i>ripensis</i>	—	498
種子	マメ	マキエハギ	<i>Lespedeza virgata</i>	—	499
種子	マメ	シマエンジュ	<i>Maackia tashiroi</i>	—	499
種子	マメ	ツルフジバカマ	<i>Vicia amoena</i>	—	499
種子	フウロソウ	コフウロ	<i>Geranium tripartitum</i>	—	500
種子	トウダイグサ	マルミノウルシ	<i>Euphorbia ebracteolata</i>	NT	500

維管束
植物

蕨類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

種子	ミカン	タチバナ	<i>Citrus tachibana</i>	NT	500
種子	ミカン	ハマセンダン	<i>Tetradium glabrifolium</i> var. <i>glaucum</i>	—	501
種子	ヒメハギ	カキノハグサ	<i>Polygala reinii</i>	—	501
種子	カエデ	メグスリノキ	<i>Acer maximowiczianum</i>	—	501
種子	モチノキ	ミヤマウメモドキ	<i>Ilex nipponica</i>	—	502
種子	ニシキギ	イワウメヅル	<i>Celastrus flagellaris</i>	—	502
種子	クロウメモドキ	ハマナツメ	<i>Paliurus ramosissimus</i>	VU	502
種子	スマレ	シコクスミレ	<i>Viola shikokiana</i>	—	503
種子	スマレ	アケボノスマレ	<i>Viola rossii</i>	—	503
種子	ウリ	ゴキツル	<i>Actinostemma tenerum</i>	—	503
種子	ヤマトグサ	ヤマトグサ	<i>Theligonum japonicum</i>	—	504
種子	セリ	ケチドメ (ケチドメグサ)	<i>Hydrocotyle dichondrioides</i>	—	504
種子	イワウメ	ヒメイワカガミ	<i>Schizocodon ilicifolius</i>	—	504
種子	ツツジ	ヒロハドウダンツツジ	<i>Enkianthus perulatus</i> f. <i>japonicus</i>	—	505
種子	ツツジ	アケボノツツジ	<i>Rhododendron pentaphyllum</i> var. <i>shikokianum</i>	—	505
種子	ツツジ	ジングウツツジ	<i>Rhododendron sanctum</i>	VU	505
種子	ツツジ	ウンゼンツツジ	<i>Rhododendron serpyllifolium</i> var. <i>serpyllifolium</i>	—	506
種子	ツツジ	チョウジコメツツジ	<i>Rhododendron tschonoskii</i> var. <i>tetramerum</i>	—	506
種子	サクラソウ	クサレダマ	<i>Lysimachia vulgaris</i> var. <i>davurica</i>	—	506
種子	サクラソウ	クリンソウ	<i>Primula japonica</i>	—	507
種子	マチン	ヒメナエ	<i>Mitrasacme indica</i>	VU	507
種子	キョウチクトウ	ケテイカカズラ	<i>Trachelospermum jasminoides</i> var. <i>pubescens</i>	—	507
種子	ガガイモ	フナバラソウ	<i>Vincetoxicum atratum</i>	VU	508
種子	ガガイモ	コイケマ	<i>Cynanchum wilfordii</i>	—	508
種子	アカネ	ナガバジュズネノキ	<i>Damnacanthus macrophyllus</i> f. <i>giganteus</i>	—	508
種子	ムラサキ	サワリソウ	<i>Ancistrocarya japonica</i>	—	509
種子	クマツヅラ	イワダレソウ	<i>Phyla nodiflora</i>	—	509
種子	シソ	カワミドリ	<i>Agastache rugosa</i>	—	509
種子	シソ	ケブカツルカコソウ	<i>Ajuga shikotanensis</i> f. <i>hirsuta</i>	—	510
種子	シソ	シマジタムラソウ	<i>Salvia isensis</i>	VU	510
種子	シソ	コナミキ	<i>Scutellaria guilielmii</i>	VU	510
種子	シソ	デワノタツナミソウ	<i>Scutellaria muramatsui</i>	—	511
種子	シソ	イブキジャコウソウ	<i>Thymus quinquecostatus</i> var. <i>ibukiensis</i>	—	511
種子	ゴマノハグサ	ゴマクサ	<i>Centranthera cochinchinensis</i> var. <i>lutea</i>	VU	511
種子	ゴマノハグサ	オオアブノメ	<i>Gratiola japonica</i>	VU	512
種子	ゴマノハグサ	シオガマギク	<i>Pedicularis resupinata</i> subsp. <i>oppositifolia</i>	—	512
種子	ゴマノハグサ	サツキヒナノウスツボ	<i>Scrophularia musashiensis</i> var. <i>musashiensis</i>	—	512
種子	ハマウツボ	キヨスミウツボ	<i>Phacellanthus tubiflorus</i>	—	513
種子	タヌキモ	ミカワタヌキモ	<i>Utricularia exoleta</i>	VU	513
種子	スイカズラ	ウスバヒョウタンボク	<i>Lonicera cerasina</i>	VU	513
種子	スイカズラ	キンキヒョウタンボク	<i>Lonicera ramosissima</i> var. <i>kinkiensis</i>	EN	514
種子	スイカズラ	カンボク	<i>Viburnum opulus</i> var. <i>sargentii</i>	—	514
種子	スイカズラ	イワツクバネウツギ	<i>Zabelia integrifolia</i>	VU	514
種子	キク	ヒロハテイショウソウ	<i>Ainsliaea cordifolia</i> var. <i>maruoi</i>	—	515
種子	キク	エンシュウハグマ	<i>Ainsliaea dissecta</i>	—	515
種子	キク	ホソバノギク	<i>Aster sohayakiensis</i>	VU	515
種子	キク	ヤマジノギク	<i>Aster hispidus</i> var. <i>hispidus</i>	—	516
種子	キク	ホソバオグルマ	<i>Inula linariifolia</i>	VU	516
種子	キク	ドロニガナ	<i>Ixeridium dentatum</i> subsp. <i>kitayamense</i>	VU	516
種子	キク	シュンジュギク (シンジュギク)	<i>Aster savatieri</i> var. <i>pygmaeus</i>	—	517
種子	キク	ミヤコアザミ	<i>Saussurea maximowiczii</i>	—	517
種子	キク	オオダイトウヒレン	<i>Saussurea nipponica</i> subsp. <i>nipponica</i>	—	517
種子	キク	サワオグルマ	<i>Senecio pierotii</i>	—	518
種子	キク	タイキンギク	<i>Senecio scandens</i>	NT	518
種子	キク	クサノオウバノギク	<i>Crepidiastrum chelidoniifolium</i>	VU	518
種子	トチカガミ	トチカガミ	<i>Hydrocharis dubia</i>	NT	519
種子	シバナ	シバナ	<i>Triglochin asiatica</i>	NT	519
種子	ヒルムシロ	コバノヒルムシロ	<i>Potamogeton cristatus</i>	VU	519
種子	ヒルムシロ	リュウノヒゲモ	<i>Potamogeton pectinatus</i>	NT	520
種子	イバラモ	イトトリゲモ	<i>Najas gracillima</i>	NT	520
種子	イバラモ	オオトリゲモ	<i>Najas oguraensis</i>	—	520
種子	ホンゴウソウ	ホンゴウソウ	<i>Sciaphila nana</i>	VU	521
種子	ユリ	ヒメニラ	<i>Allium monanthum</i>	—	521
種子	ユリ	キイイトラッキョウ	<i>Allium kiiense</i>	VU	521
種子	ユリ	ヒロハノアマナ	<i>Amana erythronioides</i>	VU	522
種子	ユリ	チャボシライトソウ	<i>Chionographis koidzumiana</i>	VU	522
種子	ユリ	ユウスゲ	<i>Hemerocallis citrina</i> var. <i>vespertina</i>	—	522
種子	ユリ	トサノギボウシ (ウナズキギボウシ)	<i>Hosta kikutii</i> var. <i>tosana</i>	—	523

維管束植物

苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

種子	ユリ	ヤマユリ	<i>Lilium auratum</i>	—	523
種子	ユリ	ホソバナアマナ	<i>Lloydia triflora</i>	—	523
種子	ユリ	ノシラン	<i>Ophiopogon jaburan</i>	—	524
種子	ユリ	マルバサンキライ	<i>Smilax stans</i>	—	524
種子	ユリ	キイジョウロウホトトギス	<i>Tricyrtis macranthopsis</i>	VU	524
種子	キンバイザサ	キンバイザサ	<i>Curculigo orchioides</i>	—	525
種子	キンバイザサ	コキンバイザサ	<i>Hypoxis aurea</i>	—	525
種子	ヒナノシャクジョウ	シロシャクジョウ	<i>Burmannia cryptopetala</i>	—	525
種子	ホシクサ	クロイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon atrum</i>	NT	526
種子	ホシクサ	ヤマトホシクサ	<i>Eriocaulon japonicum</i>	VU	526
種子	ホシクサ	シラタマホシクサ	<i>Eriocaulon nudicuspe</i>	VU	526
種子	ホシクサ	ゴマシオホシクサ	<i>Eriocaulon senile</i>	EN	527
種子	イネ	ミギワトダシバ	<i>Arundinella riparia</i> subsp. <i>riparia</i>	VU	527
種子	イネ	イワタケソウ	<i>Hystrix duthiei</i> subsp. <i>japonica</i>	—	527
種子	イネ	ビロードキビ	<i>Urochloa villosa</i>	EN	528
種子	イネ	ヒゲノガリヤス	<i>Calamagrostis longiseta</i>	—	528
種子	イネ	ヒナザサ	<i>Coelachne japonica</i>	NT	528
種子	イネ	ヌマカゼクサ	<i>Eragrostis aquatica</i>	—	529
種子	イネ	ヤマトボシガラ	<i>Festuca japonica</i>	—	529
種子	イネ	イブキトボシガラ	<i>Festuca parvigluma</i> var. <i>breviaristata</i>	VU	529
種子	イネ	コウボウ	<i>Anthoxanthum nitens</i> var. <i>sachalinensis</i>	—	530
種子	イネ	タイワンカモノハシ	<i>Ischaemum aristatum</i> var. <i>aristatum</i>	—	530
種子	イネ	ヒロハノハネガヤ	<i>Stipa coreana</i> var. <i>japonica</i>	—	530
種子	サトイモ	ヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema ovale</i> var. <i>sadoense</i>	—	531
種子	サトイモ	ユキモチソウ	<i>Arisaema sikokianum</i>	VU	531
種子	ミクリ	ヤマトミクリ	<i>Sparganium fallax</i>	NT	531
種子	ミクリ	ヒメミクリ	<i>Sparganium subglobosum</i>	VU	532
種子	カヤツリグサ	イトテンツキ	<i>Bulbostylis densa</i> var. <i>capitata</i>	NT	532
種子	カヤツリグサ	ホザキマスクサ	<i>Carex planata</i>	VU	532
種子	カヤツリグサ	オオナキリスゲ	<i>Carex autumnalis</i>	—	533
種子	カヤツリグサ	ベンケイヤワラスゲ	<i>Carex benkei</i>	—	533
種子	カヤツリグサ	ビッチュウヒカゲスゲ	<i>Carex bitchuensis</i>	—	533
種子	カヤツリグサ	クロヒナスゲ	<i>Carex gifuensis</i> var. <i>gifuensis</i>	—	534
種子	カヤツリグサ	ウマスゲ	<i>Carex idzuroei</i>	—	534
種子	カヤツリグサ	センダイスゲ	<i>Carex lenta</i> var. <i>sendaica</i>	—	534
種子	カヤツリグサ	カタスゲ	<i>Carex macrandrolepis</i>	—	535
種子	カヤツリグサ	フサスゲ	<i>Carex metallica</i>	—	535
種子	カヤツリグサ	ミコシガヤ	<i>Carex neurocarpa</i>	—	535
種子	カヤツリグサ	ジングウスゲ	<i>Carex sacrosancta</i>	NT	536
種子	カヤツリグサ	ヒメアオガヤツリ	<i>Cyperus extremiorientalis</i>	—	536
種子	カヤツリグサ	セイタカハリイ	<i>Eleocharis attenuata</i>	—	536
種子	カヤツリグサ	シログワイ	<i>Eleocharis dulcis</i>	—	537
種子	カヤツリグサ	マシカクイ	<i>Eleocharis tetraquetra</i>	—	537
種子	カヤツリグサ	サギスゲ	<i>Eriophorum gracile</i>	—	537
種子	カヤツリグサ	コアゼテンツキ	<i>Fimbristylis aestivalis</i>	—	538
種子	カヤツリグサ	ナガボテンツキ	<i>Fimbristylis longispica</i>	—	538
種子	カヤツリグサ	トネテンツキ	<i>Fimbristylis stauntonii</i> var. <i>tonensis</i>	VU	538
種子	カヤツリグサ	ハタバカンガレイ	<i>Schoenoplectus gemmifer</i>	VU	539
種子	カヤツリグサ	シズイ	<i>Schoenoplectus nipponicus</i>	—	539
種子	カヤツリグサ	カガシラ	<i>Diplacrum caricinum</i>	VU	539
種子	ラン	ヒナラン	<i>Amitostigma gracile</i>	EN	540
種子	ラン	イワチドリ	<i>Amitostigma keiskei</i>	EN	540
種子	ラン	ユウシュンラン	<i>Cephalanthera erecta</i> var. <i>subaphylla</i>	VU	540
種子	ラン	ナギラン	<i>Cymbidium nagifolium</i>	VU	541
種子	ラン	マヤラン	<i>Cymbidium macrorhizon</i>	VU	541
種子	ラン	イチヨウラン	<i>Dactyloctenium aegyptium</i>	—	541
種子	ラン	オニノヤガラ	<i>Gastrodia elata</i>	—	542
種子	ラン	ハルザキヤツシロラン	<i>Gastrodia nipponica</i>	VU	542
種子	ラン	ベニシュスラン	<i>Goodyera biflora</i>	—	542
種子	ラン	ツリシュスラン	<i>Goodyera pendula</i>	—	543
種子	ラン	ヤクシマアカシュスラン	<i>Hetaeris yakusimensis</i>	VU	543
種子	ラン	ウスギムヨウラン	<i>Lecanorchis kiusiana</i>	NT	543
種子	ラン	ヒメフタバラン	<i>Listera japonica</i>	—	544
種子	ラン	アオフタバラン	<i>Listera makinoana</i>	—	544
種子	ラン	ジンバイソウ	<i>Platanthera florentii</i>	—	544
種子	ラン	ツレサギソウ	<i>Platanthera japonica</i>	—	545
種子	ラン	ヤマサギソウ	<i>Platanthera mandarinorum</i> subsp. <i>mandarinorum</i> var. <i>oreades</i>	—	545
種子	ラン	カシノキラン	<i>Saccolabium japonicum</i>	—	545

維管束
植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

種子	ラン	マツラン	<i>Saccolabium matsuran</i>	VU	546
種子	ラン	ハクウンラン (イセラン)	<i>Vexillabium nakaiana</i>	—	546
種子	ラン	ショウキラン	<i>Yoania japonica</i>	—	546

絶滅危惧II類 (VU)

	科名	和名	学名	環境省	掲載P.
シダ	マツバラ	マツバラ	<i>Psilotum nudum</i>	NT	547
シダ	ヒカゲノカズラ	スギラン	<i>Lycopodium cryptomerinum</i>	VU	547
シダ	ヒカゲノカズラ	ナンカクラン	<i>Lycopodium hamiltonii</i>	—	547
シダ	ミズニラ	ミズニラ	<i>Isoetes japonica</i>	NT	548
シダ	コケシノブ	コケシノブ	<i>Hymenophyllum wrightii</i>	—	548
シダ	ヘゴ	クサマルハチ	<i>Cyathea hancockii</i>	—	548
シダ	ホングウシダ	ハマホラシノブ	<i>Sphenomeris biflora</i>	—	549
シダ	シノブ	キクシノブ	<i>Pachypleuria repens</i>	VU	549
シダ	イノモトソウ	アイコハチジョウシダ	<i>Pteris laurilsilvicola</i>	—	549
シダ	イノモトソウ	ヤワラハチジョウシダ	<i>Pteris natiensis</i>	EN	550
シダ	チャセンシダ	ヒメイワトラノオ	<i>Asplenium capillipes</i>	—	550
シダ	チャセンシダ	ナンゴクホウビシダ	<i>Asplenium cataractarum</i>	—	550
シダ	チャセンシダ	ヤクシマホウビシダ	<i>Asplenium obliquissimum</i>	—	551
シダ	ツルキジノオ	ヒロハアツイタ	<i>Elaphoglossum tosaense</i>	VU	551
シダ	オシダ	オトコシダ	<i>Arachniodes assamica</i>	—	551
シダ	オシダ	シラネワラビ	<i>Dryopteris expansa</i>	—	552
シダ	オシダ	キヨズミオオクジャク	<i>Dryopteris namegatae</i>	—	552
シダ	オシダ	イワイタチシダ	<i>Dryopteris saxifraga</i>	—	552
シダ	オシダ	ホオノカワシダ	<i>Dryopteris shikokiana</i>	—	553
シダ	オシダ	タニヘゴ	<i>Dryopteris tokyoensis</i>	—	553
シダ	オシダ	チャボイノデ	<i>Polystichum igaense</i>	—	553
シダ	オシダ	オニイノデ	<i>Polystichum rigens</i>	VU	554
シダ	ヒメシダ	ヒメハシゴシダ	<i>Thelypteris cystopteroides</i>	—	554
シダ	ヒメシダ	テツホシダ	<i>Thelypteris interrupta</i>	—	554
シダ	ヒメシダ	ミゾシダモドキ	<i>Thelypteris leveillei</i>	—	555
シダ	イワデンド	ムクゲシケシダ	<i>Deparia kiusiana</i>	—	555
シダ	イワデンド	イワヤシダ	<i>Diplazium cavalerianum</i>	—	555
シダ	イワデンド	イヨクジャク	<i>Diplazium okudairae</i>	EN	556
シダ	ウラボシ	タカノハウラボシ	<i>Crypsinus engleri</i>	—	556
シダ	ウラボシ	ヌカボシクリハラン	<i>Microsorium buergerianum</i>	—	556
シダ	サンショウモ	サンショウモ	<i>Salvinia natans</i>	VU	557
種子	マツ	ハリモミ	<i>Picea torano</i>	—	557
種子	マツ	トガサワラ	<i>Pseudotsuga japonica</i>	VU	557
種子	マツ	コメツガ	<i>Tsuga diversifolia</i>	—	558
種子	ヤナギ	キヌヤナギ	<i>Salix kinuyanagi</i>	—	558
種子	ブナ	シリブカガシ	<i>Lithocarpus glaber</i>	—	558
種子	ツチトリモチ	ミヤマツチトリモチ	<i>Balanophora nipponica</i>	VU	559
種子	タデ	ナガバノヤノネグサ	<i>Persicaria brevichreata</i>	—	559
種子	タデ	ナガバノウナギツカミ	<i>Persicaria hastatosagittata</i>	NT	559
種子	タデ	サデクサ	<i>Persicaria maackiana</i>	—	560
種子	タデ	ヌカボタデ	<i>Persicaria taquetii</i>	VU	560
種子	タデ	サイコクヌカボ	<i>Persicaria foliosa</i> var. <i>nikaii</i>	VU	560
種子	ナデシコ	ワチガイソウ	<i>Pseudostellaria heterantha</i> var. <i>heterantha</i>	—	561
種子	モクレン	コブシ	<i>Magnolia kobus</i>	—	561
種子	キンボウゲ	ルイヨウショウマ	<i>Actaea asiatica</i>	—	561
種子	キンボウゲ	フクジュソウ(エダウチフクジュソウ)	<i>Adonis ramosa</i>	—	562
種子	キンボウゲ	キクザキイチゲ	<i>Anemone pseudoaltaica</i> var. <i>pseudoaltaica</i>	—	562
種子	キンボウゲ	アズマイチゲ	<i>Anemone raddeana</i>	—	562
種子	キンボウゲ	キケンショウマ(オオバショウマ含む)	<i>Cimicifuga japonica</i> var. <i>peltata</i>	—	563
種子	キンボウゲ	シギンカラマツ	<i>Thalictrum actaeifolium</i> var. <i>actaeifolium</i>	—	563
種子	キンボウゲ	ミヤマカラマツ	<i>Thalictrum tuberiferum</i> var. <i>tuberiferum</i>	—	563
種子	メギ	オオバメギ	<i>Berberis tschonoskyana</i>	—	564
種子	メギ	ルイヨウボタン	<i>Caulophyllum robustum</i>	—	564
種子	スイレン	ヒメコウホネ	<i>Nuphar subintegerrima</i>	VU	564
種子	ボタン	ヤマシャクヤク	<i>Paeonia japonica</i>	NT	565
種子	モウセンゴケ	イシモチソウ	<i>Drosera peltata</i> var. <i>nipponica</i>	NT	565
種子	モウセンゴケ	コモウセンゴケ	<i>Drosera spathulata</i>	—	565
種子	ケシ	ヤマキケマン	<i>Corydalis ophiocarpa</i>	—	566
種子	ユキノシタ	ギンバイソウ	<i>Deinranthe bifida</i>	—	566
種子	ユキノシタ	タコノアシ	<i>Penthorum chinense</i>	NT	566
種子	ユキノシタ	ヤシャビシャク	<i>Ribes ambiguum</i>	NT	567
種子	ユキノシタ	ヤブサンザシ	<i>Ribes fasciculatum</i>	—	567

種子	ユキノシタ	クロクモソウ	<i>Saxifraga fusca</i> subsp. <i>kikubuki</i>	—	567
種子	バラ	ヒメヘビイチゴ	<i>Potentilla centigrana</i>	—	568
種子	バラ	カワラサイコ	<i>Potentilla chinensis</i>	—	568
種子	バラ	ビロードイチゴ	<i>Rubus corchorifolius</i>	—	568
種子	バラ	ミヤマニガイチゴ	<i>Rubus subcrataegifolius</i>	—	569
種子	バラ	ハチジョウイチゴ	<i>Rubus ribisoideus</i>	—	569
種子	バラ	ナガボノワレモコウ (コバナノワレモコウ, ナガ ボノアカワレモコウ含む)	<i>Sanguisorba tenuifolia</i>	—	569
種子	バラ	イブキシモツケ	<i>Spiraea dasyantha</i>	—	570
種子	マメ	ビワコエビラフジ	<i>Vicia venosa</i> subsp. <i>stolonifera</i>	—	570
種子	フウロソウ	ヒメフウロ	<i>Geranium robertianum</i>	—	570
種子	フウロソウ	ミツバフウロ	<i>Geranium wilfordii</i> var. <i>wilfordii</i>	—	571
種子	トウダイグサ	ノウルシ	<i>Euphorbia adenochlora</i>	NT	571
種子	ヒメハギ	ヒナノカンザシ	<i>Salomonina ciliata</i>	—	571
種子	カエデ	テツカエデ	<i>Acer nipponicum</i> subsp. <i>nipponicum</i> var. <i>nipponicum</i>	—	572
種子	ツリフネソウ	ハガクレツリフネ	<i>Impatiens hypophylla</i>	—	572
種子	モチノキ	ホソバツルツゲ	<i>Ilex rugosa</i> var. <i>stenophylla</i>	—	572
種子	モチノキ	ツゲモチ	<i>Ilex goshiensis</i>	—	573
種子	ニシキギ	ヒロハツリバナ	<i>Euonymus macropterus</i>	—	573
種子	ニシキギ	サイゴククロヅル	<i>Tripterygium regelii</i> var. <i>occidentale</i>	—	573
種子	ブドウ	ウドカズラ	<i>Ampelopsis cantoniensis</i> var. <i>leeoides</i>	—	574
種子	アオイ	ハマボウ	<i>Hibiscus hamabo</i>	—	574
種子	ミソハギ	エゾミソハギ	<i>Lythrum salicaria</i>	—	574
種子	ミソハギ	ミズキカシグサ	<i>Rotala littorea</i>	VU	575
種子	アリノトウグサ	ホザキノフサモ	<i>Myriophyllum spicatum</i>	—	575
種子	アリノトウグサ	タチモ	<i>Myriophyllum ussuriense</i>	NT	575
種子	アリノトウグサ	フサモ	<i>Myriophyllum verticillatum</i>	—	576
種子	セリ	カワゼンゴ	<i>Angelica tenuisecta</i>	VU	576
種子	セリ	ハナウド	<i>Heracleum sphondylium</i> var. <i>nipponicum</i>	—	576
種子	イワウメ	イワウチワ	<i>Shortia uniflora</i>	—	577
種子	ツツジ	サラサドウダン	<i>Enkianthus campanulatus</i>	—	577
種子	ツツジ	アカモノ	<i>Gaultheria adenostrix</i>	—	577
種子	ツツジ	キヨスミミツバツツジ	<i>Rhododendron kiyosumense</i>	—	578
種子	ツツジ	トウゴクミツバツツジ	<i>Rhododendron wadanum</i>	—	578
種子	サクラソウ	モロコシソウ	<i>Lysimachia sikokiana</i>	—	578
種子	サクラソウ	イワザクラ	<i>Primula tosaensis</i> var. <i>tosaensis</i>	NT	579
種子	モクセイ	ハシドイ	<i>Syringa reticulata</i>	—	579
種子	マチン	アイナエ	<i>Mitrasacme pygmaea</i>	—	579
種子	リンドウ	イヌセンブリ	<i>Swertia tosaensis</i>	VU	580
種子	ミツガシワ	ガガブタ	<i>Nymphoides indica</i>	NT	580
種子	キョウチクトウ	チョウジソウ	<i>Amsonia elliptica</i>	NT	580
種子	ガガイモ	ツルガシワ	<i>Vincetoxicum macrophyllum</i> var. <i>nikoense</i>	—	581
種子	ガガイモ	スズサイコ	<i>Vincetoxicum pycnostelma</i>	NT	581
種子	ガガイモ	コバナカモメヅル	<i>Vincetoxicum sub lanceolatum</i> var. <i>sub lanceolatum</i>	—	581
種子	アカネ	シチョウゲ	<i>Leptodermis pulchella</i>	NT	582
種子	アカネ	ヒロハコンロンカ	<i>Mussaenda shikokiana</i>	—	582
種子	ムラサキ	ホタルカズラ	<i>Lithospermum zollingeri</i>	—	582
種子	クマツヅラ	コムラサキ	<i>Callicarpa dichotoma</i>	—	583
種子	クマツヅラ	クマツヅラ	<i>Verbena officinalis</i>	—	583
種子	シソ	タニジャコウソウ	<i>Chelonopsis longipes</i>	NT	583
種子	シソ	ミズトラノオ	<i>Pogostemon yatabeanus</i>	VU	584
種子	シソ	マネキグサ	<i>Loxocalyx ambiguus</i>	NT	584
種子	シソ	ミゾコウジュ	<i>Salvia plebeia</i>	NT	584
種子	シソ	ヤマジノタツナミソウ	<i>Scutellaria amabilis</i>	—	585
種子	シソ	イガタツナミ	<i>Scutellaria laeteviolacea</i> var. <i>kurokawae</i>	—	585
種子	シソ	ヤマタツナミソウ	<i>Scutellaria pekinensis</i> var. <i>transitra</i>	—	585
種子	シソ	ミヤマナミキ	<i>Scutellaria shikokiana</i> var. <i>shikokiana</i>	—	586
種子	ナス	メジロホオズキ	<i>Lycianthes biflora</i>	—	586
種子	ゴマノハグサ	マルバノサワトウガラシ	<i>Deinostema adenocaulum</i>	VU	586
種子	ゴマノハグサ	ケヤマウツボ(ヤマウツボ含む)	<i>Lathraea japonica</i> var. <i>miqueliana</i>	—	587
種子	ゴマノハグサ	スズメノハコベ	<i>Microcarpaea minima</i>	VU	587
種子	ゴマノハグサ	クチナシグサ	<i>Monochasma sheareri</i>	—	587
種子	ゴマノハグサ	コシオガマ	<i>Phtheirospermum japonicum</i>	—	588
種子	ゴマノハグサ	ヒキヨモギ	<i>Siphonostegia chinensis</i>	—	588
種子	ゴマノハグサ	クワガタソウ	<i>Veronica miqueliana</i>	—	588
種子	タヌキモ	ノタヌキモ	<i>Utricularia aurea</i>	VU	589
種子	タヌキモ	ヒメタヌキモ	<i>Utricularia minor</i>	NT	589

維管束
植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

種子	タヌキモ	ムラサキミミカキグサ	<i>Utricularia uliginosa</i>	NT	589
種子	レンブクソウ	レンブクソウ	<i>Adoxa moschatellina</i>	—	590
種子	オミナエシ	キンレイカ	<i>Patrinia triloba</i> var. <i>palmata</i>	—	590
種子	マツムシソウ	ナベナ	<i>Dipsacus japonicus</i>	—	590
種子	キク	ホソバナヤマハハコ	<i>Anaphalis margaritacea</i> var. <i>angustifolia</i>	—	591
種子	キク	カワラハハコ	<i>Anaphalis margaritacea</i> subsp. <i>yedoensis</i>	—	591
種子	キク	フクド	<i>Artemisia fukudo</i>	NT	591
種子	キク	コモノギク	<i>Aster komonoensis</i>	—	592
種子	キク	ウラギク	<i>Aster tripolium</i>	NT	592
種子	キク	オケラ	<i>Atractylodes ovata</i>	—	592
種子	キク	タイミンガサ	<i>Parasenecio peltifolius</i>	—	593
種子	キク	ニシノヤマタイミンガサ	<i>Parasenecio yatabei</i> var. <i>occidentalis</i>	—	593
種子	キク	ノニガナ	<i>Ixeris polycephala</i>	—	593
種子	キク	ミヤマヨメナ	<i>Aster savatieri</i>	—	594
種子	キク	ネコノシタ	<i>Wedelia prostrata</i>	—	594
種子	トチカガミ	スブタ	<i>Blyxa echinosperma</i>	VU	594
種子	トチカガミ	ミズオオバコ	<i>Ottelia alismoides</i>	VU	595
種子	ヒルムシロ	イトモ	<i>Potamogeton berchtoldii</i>	NT	595
種子	ヒルムシロ	ツツイトモ	<i>Potamogeton pusillus</i>	VU	595
種子	ヒルムシロ	カワツルモ	<i>Ruppia maritima</i>	NT	596
種子	アマモ	コアマモ	<i>Zostera japonica</i>	—	596
種子	イバラモ	イバラモ	<i>Najas marina</i>	—	596
種子	ユリ	キンコウカ	<i>Narthecium asiaticum</i>	—	597
種子	ユリ	ヤマトユキザサ	<i>Maianthemum viridiflorum</i>	—	597
種子	ユリ	イワショウブ	<i>Tofieldia japonica</i>	—	597
種子	ユリ	ハナゼキショウ	<i>Tofieldia nuda</i> var. <i>nuda</i>	—	598
種子	ユリ	タマガワホトトギス	<i>Tricyrtis latifolia</i>	—	598
種子	ユリ	チャボホトトギス	<i>Tricyrtis nana</i>	—	598
種子	アヤメ	ノハナショウブ	<i>Iris ensata</i> var. <i>spontanea</i>	—	599
種子	ヒナノシヤクジョウ	ヒナノシヤクジョウ	<i>Burmanna championii</i>	—	599
種子	ホシクサ	クロホシクサ	<i>Eriocaulon parvum</i>	VU	599
種子	イネ	ナルコビエ	<i>Eriochloa villosa</i>	—	600
種子	イネ	ウンヌケモドキ	<i>Eulalia quadrinervis</i>	NT	600
種子	イネ	トウササクサ	<i>Lophatherum sinense</i>	—	600
種子	イネ	タチネズミガヤ	<i>Muhlenbergia hakonensis</i>	—	601
種子	イネ	アイアシ	<i>Phacelurus latifolius</i>	—	601
種子	イネ	ムカゴツヅリ	<i>Poa tuberifera</i>	—	601
種子	イネ	ウキシバ	<i>Pseudoraphis sordida</i>	—	602
種子	イネ	ワセオバナ	<i>Saccharum spontaneum</i> var. <i>arenicola</i>	—	602
種子	イネ	オニシバ	<i>Zoysia macrostachya</i>	—	602
種子	カヤツリグサ	ミヤマジュズスゲ	<i>Carex dissitiflora</i>	—	603
種子	カヤツリグサ	ヤマアゼスゲ	<i>Carex heterolepis</i>	—	603
種子	カヤツリグサ	アズマスゲ	<i>Carex lasiolepis</i>	—	603
種子	カヤツリグサ	キノクニスゲ	<i>Carex matsumurae</i>	NT	604
種子	カヤツリグサ	サワヒメスゲ	<i>Carex mira</i>	—	604
種子	カヤツリグサ	ツルミヤマカンスゲ	<i>Carex sikokiana</i>	—	604
種子	カヤツリグサ	コミヤマカンスゲ	<i>Carex multifolia</i> var. <i>toriiana</i>	—	605
種子	カヤツリグサ	キシウナキリスゲ	<i>Carex nachiana</i>	VU	605
種子	カヤツリグサ	ヒメスゲ	<i>Carex oxyandra</i>	—	605
種子	カヤツリグサ	フサナキリスゲ	<i>Carex teinogyna</i>	—	606
種子	カヤツリグサ	オニナルコスゲ	<i>Carex vesicaria</i>	—	606
種子	カヤツリグサ	オオシロガヤツリ	<i>Cyperus nipponicus</i> var. <i>spiralis</i>	—	606
種子	カヤツリグサ	シロガヤツリ	<i>Cyperus pacificus</i>	—	607
種子	カヤツリグサ	ピロードテンツキ	<i>Fimbristylis sericea</i>	—	607
種子	カヤツリグサ	アゼテンツキ	<i>Fimbristylis squarrosa</i>	—	607
種子	カヤツリグサ	ミカヅキグサ	<i>Rhynchospora alba</i>	—	608
種子	カヤツリグサ	トラノハナヒゲ	<i>Rhynchospora brownii</i>	—	608
種子	カヤツリグサ	タイワンヤママイ	<i>Schoenoplectus wallichii</i>	—	608
種子	カヤツリグサ	マツカサススキ	<i>Scirpus mitsukurianus</i>	—	609
種子	カヤツリグサ	ミカワシンジュガヤ	<i>Scleria mikawana</i>	VU	609
種子	カヤツリグサ	ケシンジュガヤ	<i>Scleria rugosa</i> var. <i>rugosa</i>	—	609
種子	ラン	ミヤマムギラン	<i>Bulbophyllum japonicum</i>	NT	610
種子	ラン	ギンラン	<i>Cephalanthera erecta</i> var. <i>erecta</i>	—	610
種子	ラン	キンラン	<i>Cephalanthera falcata</i>	VU	610
種子	ラン	クマガイソウ	<i>Cypripedium japonicum</i>	VU	611
種子	ラン	タシロラン	<i>Epipogium roseum</i>	NT	611
種子	ラン	アキザキヤツシロラン	<i>Gastrodia verrucosa</i>	—	611
種子	ラン	サギソウ	<i>Habenaria radiata</i>	NT	612

維管束
植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

種子	ラン	クロムヨウラン	<i>Lecanorchis nigricans</i>	—	612
種子	ラン	ボウラン	<i>Luisia teres</i>	NT	612
種子	ラン	フウラン	<i>Neofinetia falcata</i>	VU	613
種子	ラン	ヨウラクラン	<i>Oberonia japonica</i>	—	613
種子	ラン	ウチョウラン	<i>Orchis graminifolia</i>	VU	613
種子	ラン	コバノトンボソウ	<i>Platanthera tipuloides</i> subsp. <i>nipponica</i>	—	614
種子	ラン	トキソウ	<i>Pogonia japonica</i>	NT	614
種子	ラン	ヤマトキソウ	<i>Pogonia minor</i>	—	614
種子	ラン	ムカデラン	<i>Sarcanthus scolopendrifolius</i>	VU	615
種子	ラン	クモラン	<i>Taeniophyllum glandulosum</i>	—	615
種子	ラン	ヒトツボクロ	<i>Tipularia japonica</i>	—	615

準絶滅危惧 (NT)

	科名	和名	学名	環境省	掲載P.
シダ	リュウビンタイ	リュウビンタイ	<i>Angiopteris lygodiifolia</i>	—	616
シダ	ホングウシダ	ホングウシダ	<i>Lindsaea odorata</i>	—	616
シダ	チャセンシダ	ヒノキシダ	<i>Asplenium prolongatum</i>	—	616
シダ	ツルキジノオ	アツイタ	<i>Elaphoglossum yoshinagae</i>	VU	617
シダ	オシダ	オシダ	<i>Dryopteris crassirhizoma</i>	—	617
シダ	オシダ	ミヤマベニシダ	<i>Dryopteris monticola</i>	—	617
シダ	オシダ	オワセベニシダ	<i>Dryopteris ryo-itoana</i>	—	618
シダ	ヒメシダ	アミシダ	<i>Stegnogramma griffithii</i> var. <i>wilfordii</i>	—	618
シダ	イワデンダ	ミヤコイヌワラビ	<i>Athyrium frangulum</i>	—	618
シダ	イワデンダ	サキモリイヌワラビ	<i>Athyrium oblitescens</i>	—	619
シダ	イワデンダ	フモトシケシダ	<i>Deparia pseudoconilii</i>	—	619
シダ	イワデンダ	ミドリワラビ	<i>Deparia viridifrons</i>	—	619
シダ	イワデンダ	シマシロヤマシダ	<i>Diplazium doederleinii</i>	—	620
シダ	スジヒトツバ	スジヒトツバ	<i>Cheiropleuria integrifolia</i>	—	620
シダ	ウラボシ	ホテイシダ	<i>Lepisorus annuifrons</i>	—	620
シダ	ウラボシ	コウラボシ	<i>Lepisorus uchiyamae</i>	—	621
シダ	アカウキクサ	オオアカウキクサ	<i>Azolla japonica</i>	EN	621
種子	マツ	ウラジロモミ	<i>Abies homolepis</i>	—	621
種子	イヌガヤ	ハイイヌガヤ	<i>Cephalotaxus harringtonia</i> var. <i>nana</i>	—	622
種子	イチイ	チャボガヤ	<i>Torreya nucifera</i> var. <i>radicans</i>	—	622
種子	カバノキ	サクラバハノキ	<i>Alnus trabeculosa</i>	NT	622
種子	ブナ	イヌブナ	<i>Fagus japonica</i>	—	623
種子	アカザ	ハママツナ	<i>Suaeda maritima</i>	—	623
種子	ヒユ	ヤナギイノコヅチ	<i>Achyranthes longifolia</i>	—	623
種子	キンボウゲ	ユキワリイチゲ	<i>Anemone keiskeana</i>	—	624
種子	キンボウゲ	イチリンソウ	<i>Anemone nikoensis</i>	—	624
種子	キンボウゲ	クサボタン	<i>Clematis stans</i>	—	624
種子	キンボウゲ	トリガタハンショウヅル	<i>Clematis tosaensis</i>	—	625
種子	キンボウゲ	トウゴクサバノオ	<i>Dichocarpum trachyspermum</i>	—	625
種子	メギ	ヘビノボラス	<i>Berberis sieboldii</i>	—	625
種子	マツモ	マツモ	<i>Ceratophyllum demersum</i>	—	626
種子	ツバキ	ヒコサンヒメシャラ	<i>Stewartia serrata</i>	—	626
種子	モウセンゴケ	モウセンゴケ	<i>Drosera rotundifolia</i>	—	626
種子	モウセンゴケ	トウカイコモウセンゴケ	<i>Drosera tokaiensis</i>	—	627
種子	アブラナ	シコクハタザオ	<i>Arabis serrata</i> var. <i>sikokiana</i>	—	627
種子	アブラナ	コンロンソウ	<i>Cardamine leucantha</i>	—	627
種子	アブラナ	ミズタガラシ	<i>Cardamine lyrata</i>	—	628
種子	ユキノシタ	タキミチャルメルソウ	<i>Mitella stylosa</i> var. <i>stylosa</i>	NT	628
種子	ユキノシタ	バイカアマチャ	<i>Platycrater arguta</i>	—	628
種子	バラ	ツルキンバイ	<i>Potentilla rosulifera</i>	—	629
種子	バラ	バクチノキ	<i>Laurocerasus zippeliana</i>	—	629
種子	マメ	ハmanaタマメ	<i>Canavalia lineata</i>	—	629
種子	マメ	シバハギ	<i>Desmodium heterocarpon</i>	—	630
種子	マメ	ミヤマトベラ	<i>Euchresta japonica</i>	—	630
種子	マメ	ニワフジ	<i>Indigofera decora</i>	—	630
種子	カタバミ	コミヤマカタバミ	<i>Oxalis acetosella</i>	—	631
種子	トウダイグサ	イワタイゲキ	<i>Euphorbia jolkinii</i>	—	631
種子	ニシキギ	サワダツ	<i>Euonymus melananthus</i>	—	631
種子	ミソハギ	ヒメミソハギ	<i>Ammannia multiflora</i>	—	632
種子	ミソハギ	ミズマツバ	<i>Rotala mexicana</i>	VU	632
種子	セリ	イブキボウフウ	<i>Libanotis ugoensis</i> var. <i>japonica</i>	—	632
種子	イチヤクソウ	ウメガサソウ	<i>Chimaphila japonica</i>	—	633
種子	ツツジ	カイナンサラサドウダン	<i>Enkianthus sikokianus</i>	—	633
種子	ツツジ	イワナシ	<i>Epigaea asiatica</i>	—	633

維管束
植物

蕨類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

種子	ツツジ	アカヤシオ	<i>Rhododendron pentaphyllum</i> var. <i>nikoense</i>	—	634
種子	ヤブコウジ	カラタチバナ	<i>Ardisia crispa</i>	—	634
種子	イソマツ	ハマサジ	<i>Limonium tetragonum</i>	NT	634
種子	ハイノキ	クロミノニシゴリ	<i>Symplocos paniculata</i>	—	635
種子	マチン	ホウライカズラ	<i>Gardneria nutans</i>	—	635
種子	リンドウ	ハルリンドウ	<i>Gentiana thunbergii</i> var. <i>thunbergii</i>	—	635
種子	ガガイモ	タチカモメヅル	<i>Vincetoxicum glabrum</i>	—	636
種子	アカネ	イナモリソウ	<i>Pseudopyxis depressa</i>	—	636
種子	アカネ	ミサオノキ	<i>Aidia cochinchinensis</i>	—	636
種子	シソ	オウギカズラ	<i>Ajuga japonica</i>	—	637
種子	シソ	スズコウジュ	<i>Perillula reptans</i>	—	637
種子	シソ	ウスギナツノタムラソウ	<i>Salvia lutescens</i>	—	637
種子	シソ	ヒメナミキ	<i>Scutellaria dependens</i>	—	638
種子	ゴマノハグサ	オオヒキヨモギ	<i>Siphonostegia laeta</i>	VU	638
種子	ゴマノハグサ	イヌノフグリ	<i>Veronica polita</i> var. <i>lilacina</i>	VU	638
種子	キキョウ	ソバナ	<i>Adenophora remotiflora</i>	—	639
種子	キキョウ	キキョウ	<i>Platycodon grandiflorus</i>	VU	639
種子	キク	テイショウソウ	<i>Ainsliaea cordifolia</i>	—	639
種子	キク	サワシロギク	<i>Aster rugulosus</i>	—	640
種子	キク	ワタムキアザミ	<i>Cirsium tashiroi</i>	VU	640
種子	キク	キノクニシオギク	<i>Chrysanthemum kinokuniense</i>	—	640
種子	キク	クサヤツデ	<i>Ainsliaea uniflora</i>	—	641
種子	キク	オグルマ	<i>Inula britannica</i> subsp. <i>japonica</i>	—	641
種子	キク	ハマニガナ	<i>Ixeris repens</i>	—	641
種子	キク	オオモミジガサ	<i>Miricacalia makinoana</i>	—	642
種子	キク	オカオグルマ	<i>Senecio integrifolius</i> subsp. <i>fauriei</i>	—	642
種子	オモダカ	アギナシ	<i>Sagittaria aginashi</i>	NT	642
種子	ヒルムシロ	ササバモ	<i>Potamogeton wrightii</i>	—	643
種子	ユリ	ケイビラン	<i>Comospermum yedoense</i>	—	643
種子	ユリ	カタクリ	<i>Erythronium japonicum</i>	—	643
種子	ユリ	ハマカンゾウ	<i>Hemerocallis fulva</i> var. <i>littorea</i>	—	644
種子	ユリ	ノカンゾウ	<i>Hemerocallis fulva</i> var. <i>disticha</i>	—	644
種子	ユリ	ミズギボウシ	<i>Hosta longissima</i>	—	644
種子	ユリ	ササユリ	<i>Lilium japonicum</i>	—	645
種子	ユリ	マイヅルソウ	<i>Maianthemum dilatatum</i>	—	645
種子	ヒガンバナ	ハマオモト	<i>Crinum asiaticum</i> var. <i>japonicum</i>	—	645
種子	イネ	ミヤマヌカボ	<i>Agrostis flaccida</i>	—	646
種子	イネ	チョウセンガリヤス	<i>Cleistogenes hackelii</i>	—	646
種子	イネ	チャボチヂミザサ	<i>Oplismenus undulatifolius</i> var. <i>microphyllus</i>	—	646
種子	イネ	ナガミノオニシバ	<i>Zoysia sinica</i> var. <i>nipponica</i>	—	647
種子	ミクリ	ナガエミクリ	<i>Sparganium japonicum</i>	NT	647
種子	ガマ	コガマ	<i>Typha orientalis</i>	—	647
種子	カヤツリグサ	ミセンアオスゲ	<i>Carex leucochlora</i> var. <i>horikawae</i>	—	648
種子	カヤツリグサ	ヒゲスゲ	<i>Carex oahuensis</i> var. <i>robusta</i>	—	648
種子	カヤツリグサ	マメスゲ	<i>Carex pudica</i>	—	648
種子	カヤツリグサ	エゾハリイ	<i>Eleocharis maximowiczii</i>	—	649
種子	カヤツリグサ	アンペライ	<i>Machaerina rubiginosa</i>	—	649
種子	カヤツリグサ	コシンジュガヤ	<i>Scleria parvula</i>	—	649
種子	ラン	シラン	<i>Bletilla striata</i>	NT	650
種子	ラン	マメヅタラン	<i>Bulbophyllum drymoglossum</i>	NT	650
種子	ラン	ムギラン	<i>Bulbophyllum inconspicuum</i>	NT	650
種子	ラン	エビネ	<i>Calanthe discolor</i>	NT	651
種子	ラン	ナツエビネ	<i>Calanthe puberula</i> var. <i>reflexa</i>	VU	651
種子	ラン	セッコク	<i>Dendrobium moniliforme</i>	—	651
種子	ラン	カキラン	<i>Epipactis thunbergii</i>	—	652
種子	ラン	クロヤツシロラン	<i>Gastrodia pubilabiata</i>	—	652
種子	ラン	ミズトンボ	<i>Habenaria sagittifera</i>	VU	652
種子	ラン	トンボソウ	<i>Platanthera ussuriensis</i>	—	653

情報不足 (DD)

	科名	和名	学名	環境省	掲載P.
種子	バラ	シモツケ	<i>Spiraea japonica</i>	—	653
種子	グミ	アリマグミ	<i>Elaeagnus murakamiana</i>	—	653
種子	イチヤクソウ	マルバノイチヤクソウ	<i>Pyrola nephrophylla</i>	—	653
種子	ツツジ	フジツツジ (メンツツジ)	<i>Rhododendron tosaense</i>	—	653
種子	ヤブコウジ	オオツルコウジ	<i>Ardisia walkeri</i>	EN	653
種子	アカネ	シロバナイナモリソウ	<i>Pseudopyxis heterophylla</i>	—	653
種子	オオバコ	トウオオバコ	<i>Plantago japonica</i>	—	654

種子	スイカズラ	コウグイスカグラ	<i>Lonicera ramosissima</i> var. <i>ramosissima</i>	654
種子	トチカガミ	コウガイモ	<i>Vallisneria denseserrulata</i>	654
種子	ユリ	キイヒメシライトソウ	<i>Chionographis cordifolia</i>	654
種子	ビャクブ	ヒメナベワリ	<i>Croomia japonica</i>	654
種子	イネ	イトスズメガヤ	<i>Eragrostis brownii</i>	654
種子	イネ	コゴメカゼクサ	<i>Eragrostis japonica</i>	654
種子	サトイモ	ナンゴクウラシマソウ	<i>Arisaema thunbergii</i> subsp. <i>thunbergii</i>	654
種子	ラン	クゲスマラン	<i>Cephalanthera longifolia</i>	VU 654
種子	ラン	ツユクサシスラン	<i>Goodyera foliosa</i> var. <i>foliosa</i>	655

維管束植物レッドリスト 新旧対照表

本書に掲載された維管束植物レッドリスト（改訂後のカテゴリー）と「三重県レッドデータブック2005」に掲載した維管束植物レッドリスト（改訂前のカテゴリー）との新旧対照表は以下のとおりである。なお、ランク変更のなかった種については、記載を一部省略した。

	改訂前のカテゴリー								種数
	EX	EW	CR	EN	VU	NT	DD	リスト外	
改訂後のカテゴリー	EX	チャボハナヤスリ オトコゼリ ムジナモ ナガバノイシモチソウ ホソバノキリンソウ ヒメノハギ ヒロハクサフジ など、28種		リュウキュウコケシノブ メヤブソテツ ナガサキシダ ヒメノボタン カミガモソウ イワギリソウ モリアザミ	アカウキクサ キクアザミ ミズチドリ			タカサゴイヌワラビ コガネシダ クラガリシダ バイカモ コケモモ ノコギリソウ ムカゴソウ セイトカスズムシ	0
	EW		サツマシダ					スズムシバナ	2
	CR	イワオモダカ オキナグサ アゼオトギリ ウエマツソウ		ヒモツル ヒモラン ヘゴ タキシダ ヒカゲアマクサシダ ヒメイノモトソウ オオタニワタリ アタシカカナワラビ ハガクレカナワラビ イズヤブソテツ トウヒ ミヤマビャクシン ヤチヤナギ ツチトリモチ コウヤハンショウヅル ヒキノカサ タマカラマツ オニバス ジュロウカンアオイ スエヒロアオイ ベニバナヤマシヤクヤク タチスズシロソウ など、84種	ヒメムカゴシダ イヌハギ ドクゼリ ヒメシロアサザ マツムシソウ ツクシクロイヌノヒゲ ツクシナルコ	オオカグマ マルバヌカイタチシダモドキ ツクシヤワラシダ		アスヒカズラ アツギヌカイタチシダマガイ シコクフクジュソウ ヤマヤナギ ソハヤキミズ フモトミズナラ ミヤマコナスビ キイハナネコノメ チョウセンキンミズヒキ ヒメカシグサ カラスシキミ ケゴンアカバナ フジワラサイコ セリモドキ ステゴビル ミスタカモジ マイヅルテンナンショウ ヒメザゼンソウ コウヤハリスゲ ヤリテンツキ ササバギンラン モイワラン エソズラン ムカゴザイシン	46
EN	ケバカツルカコソウ		ヒロハノコギリシダ ヒメナエ ユキモチソウ ヤマトホシクサ ハタベカンガレイ シズイ	ヤチスギラン ヤマクラマゴケ アカハナワラビ ハマハナヤスリ ヒロハハナヤスリ チチブホラゴケ サイゴクホングウシダ ナカミシシラン ハチジョウシダ カミガモシダ オクタマシダ イチイ アサダ オヒョウ ラセイタソウ オオバヤドリギ ヤナギヌカボ タチハコバ ハマアカザ イソホウキギ（ホウキギ） シデコブシ ヒメイチゲ など、168種	マダイオウ チャボシライトソウ フサスゲ マシカクイ		イワダレソウ イトトリゲモ クロイヌノヒゲ ヒロハノハネガヤ コアゼテンツキ ジンバイソウ マツラン	コバノリュウキンカ ハチジョウイノコツチ コイヌガラシ ミヤマチョウジザクラ ミヤマザクラ サナギイチゴ イワウメヅル アケボノスミレ ケチドメグサ カワミドリ シオガマギク オオダイトウヒレン ヒメニラ マルバサンキライ イブキトボシガラ タイワンカモノハシ イトテンツキ ホザキマクサ ベンケイヤワラスゲ ビッチュウヒカゲスゲ ヒメアオガヤツリ ユウシュンラン ヤクシマアカシスラン	133
									209

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

	改訂前のカテゴリー								種数
	EX	EW	CR	EN	VU	NT	DD	リスト外	
改訂後のカテゴリー	VU			ヒメコウホネ エゾミソハギ カワゼンゴ チョウジソウ	マツバラン スギラン ナンカクラン ミズニラ コケシノブ クサマルハチ ハマホラシノブ キクシノブ アイコハチジョウシダ ヤワラハチジョウシダ ヒメイトラノオ ナンゴクホウビシダ ヒロハアツイタ オトコシダ シラネワラビ ハリモミ トガサワラ コメツガ キヌヤナギ シリブカガシ ナガバノヤノネグサ ナガバノウナギツカミ サデクサ ヌカボタデ サイコクスカボ ワチガイソウ コブシ ルイヨウショウマ フクジュソウ キクザキイチゲ アズマイチゲ など、168種		イガタツナミ オニナルコスゲ アゼテンツキ	ヤクシマホウビシダ キケンショウマ (オオバショウマ含む) オオバメギ ギンバイソウ クロクモソウ ピロードイチゴ ミヤマニガイイチゴ ハチジョウイチゴ ミヤマツチトリモチ ヒロハツリバナ サイコクロゾル ホソバツルツゲ ホザキノフサモ ハナウド クマツヅラ ケヤマウツボ (ヤマウツボ含む) クチナシグサ コシオガマ ナバナ ノニガナ ミズオオバコ ツツイトモ ヤマトユキザサ タマガワホトトギス ナルコビエ タチネズミガヤ ワセオバナ ヤマアゼスゲ ツルミヤマカンスゲ コミヤマカンスゲ タイワンヤマイ ヒトツボクロ	207
	NT			クロミノニシゴリ	オオアカウキクサ	リュウビンタイ ホングウシダ ヒノキシダ アツイタ ミヤマベニシダ オワセベニシダ アミシダ ウラジロモミ ハイイヌガヤ チャボガヤ サクラバハノキ イヌブナ ハママツナ ヤナギイノコヅチ ユキワリイチゲ イチリンソウ など、91種	オオモミジガサ ミヤマヌカボ	オシダ ホテイシダ マツモ クサボタン ヒコサンヒメシヤラ シコクハタザオ ミズタガラシ ツルキンバイ サワダツ イブキボウフウ ソバナ ササバモ マイヅルソウ チョウセンガリヤス ミセンアオスゲ エゾハリイ クロヤツシロラン	112
	DD							シモツケ マルバノイチヤクソウ シロバナイナモリソウ トウオオバコ コウグイスカグラ など、10種	アリマグミ フジツツジ オオツルコウジ キイヒメシライトソウ クゲヌマラン ツユクサシスラン
	リスト外	表12	1~3参照						19
種数	34	1	99	186	176	91	55	102	744

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

チャボハナヤスリ

Ophioglossum parvum M.Nishida et Kurita

シダ植物 ハナヤスリ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：絶滅 (EX)

旧県：絶滅 (EX)

環境省：VU

近畿：絶滅 (EX)

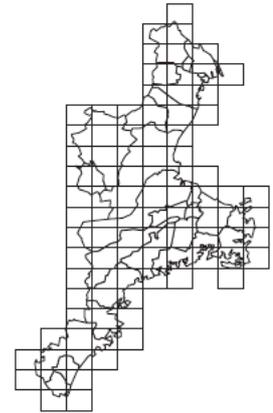
選定理由： 既知の生育地点数は1だが、標本が採取されてから後の100年間に新たな生育記録が得られていないことから絶滅と判断した。

種の概要： 高さ7 cm以下の小形植物。根茎は塊状で短い。担葉体は短く1 cm以下。葉柄は短く1 cm以下。

分布： 静岡県、三重県、和歌山県、伊豆青ヶ島。県内では、四日市市（1905年）の標本記録（パラタイプ、MAK）がある。三重県は分布の西限。向陽地の草地や墓地に生育するという。

現況・減少要因： 県内唯一の産地の四日市市から絶滅したと思われる。原因は不明。

特記事項： 1980年にNisida and Kurataによって新種記載された。最近になって認識された分類群であることと小型のシダ植物なので、今後の調査によって発見される可能性を否定することはできない。



(藤井伸二)

リュウキュウコケシノブ

Hymenophyllum riukiense H.Christ

シダ植物 コケシノブ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：絶滅 (EX)

旧県：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省：

近畿：C (VU)

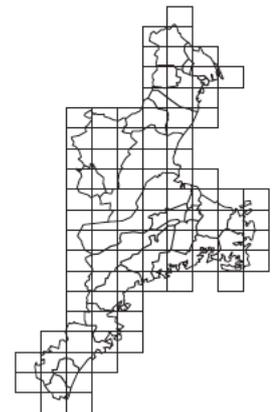
選定理由： 既知の生育地点数は1であるが、最近では生育地で確認することができなくなったため、絶滅と判断した。

種の概要： 岩上生で常緑性のシダ。葉身は3回羽状複葉、長さ3~10 cm、無色、鮮緑色。葉柄には基部を除いて翼がつき、いちじるしく縮む。包膜先端部には鋸歯がみられる。

分布： 紀伊半島、四国南東部、九州南部から沖縄にかけて分布。タイ北部と海南島でも知られている。多湿な岩上に生じる。県内では、紀宝町にみられた。

現況・減少要因： 紀宝町の溪谷沿いの岩上に生育し、今のところ他では確認されていない。個体数は極めて少なかったため、過去の採取により絶滅。

保護対策： 生育地やその周辺等で再確認される可能性も否定できないため、これまでの生育地周辺の環境を保全することも必要である。



(山本和彦)

メヤブソテツ

Cyrtomium caryotideum (Wall. ex Hook. et Grev.) C.Presl

シダ植物 オシダ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：絶滅 (EX)

旧県：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省：

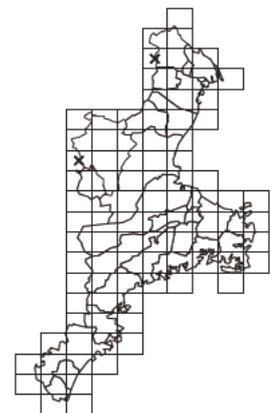
近畿：準 (NT)

選定理由： 既知の生育地点数は2であるが、現存は確認できない。

種の概要： 常緑性のシダで、ヤマヤブソテツに似ているが、頂羽片が大きく発達すること、側羽片は2~6対であること、羽片の辺縁には細鋸歯があることなどが特徴である。

分布： 国内では関東地方、中部地方東南部、紀伊半島、四国、九州の石灰岩山地に生育することが多い。国外ではヒマヤラから台湾、フィリピン、ハワイ。県内ではいなべ市藤原町、伊賀市に記録がある。

現況・減少要因： いなべ市の藤原岳、伊賀市大滝峡で記録がある。



(市川正人)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ナガサキシダ

Dryopteris sieboldii (van Houtte ex Moove) Kuntze.

シダ植物 オシダ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：絶滅 (EX)

旧県：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省：

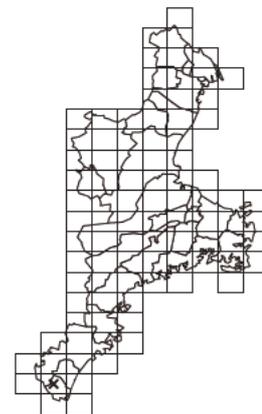
近畿：A (CR)

選定理由： 既知の生育地点数は1である。個体数は1株であったが消滅した。

種の概要： 葉柄、葉身合わせて1.3 m程になる常緑性のシダで、側羽片は2~6対で15~30 cm、頂羽片もほぼ同形である。根茎は短く株立ちする。鱗片は褐色から黒褐色で披針形から線形である。孢子嚢群は羽片の全面に散在している。

分布： 国内では千葉県以西の太平洋側や四国にややまれに生え、九州の各地で山地林下に生育。国外では中国。県内では紀州の1個体だけであったが消滅した。

現況・減少要因： 植林谷間に生育していたが消滅した。原因は植生遷移である。



(市川正人)

タカサゴイヌワラビ

Athyrium silvicola Tagawa

シダ植物 イワデンダ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：絶滅 (EX)

旧県：情報不足 (DD)

環境省：CR

近畿：A (CR)

選定理由： 既知の生育地点数は1であり、現存は確認できない。

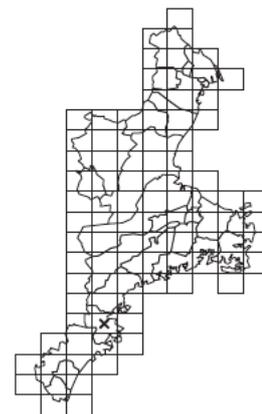
種の概要： ミヤコイヌワラビによく似ているが、葉質が厚くて常緑性。羽片は45°に斜開し鋸歯も浅い。1955年倉田悟が本県で採集したものは、葉柄紫色の品種、キノクニヌワラビと命名した。キノクニヌワラビを区別すれば、日本のものはほぼ全てがキノクニヌワラビになる。

分布： 国内では三重県尾鷲市、九州南部、屋久島。国外では台湾に分布。

現況・減少要因： もともと1個体しかなかったものが採集されたため消滅した。

保護対策： 今後の再発見は難しいと考える。再発見の場合は周辺の森林伐採等、山林主や行政にも連絡し、開発行為を避ける。

文献： 67. 115.



(大洞浩一)

コガネシダ

Woodsia macrochlaena Mett. ex Kuhn

シダ植物 イワデンダ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：絶滅 (EX)

旧県：情報不足 (DD)

環境省：

近畿：C (VU)

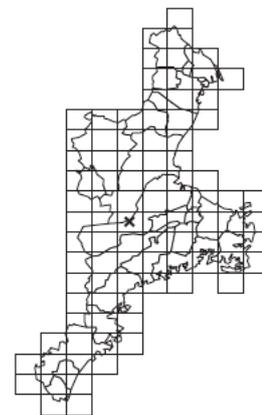
選定理由： 既知の生育地点数は2であるが、過去の生育地では確認できない。

種の概要： 乾燥気味の岩の間や崖面に着生する。夏緑生。葉は根茎から叢生する。葉柄と葉身の間に関節があり折れやすい。葉の裏面に白毛があり、羽片は最下羽片を除いて中軸に沿着する。孢子嚢群は各裂片に1~数個、縁寄りにつく。

分布： 本州、四国、九州に分布するが、近畿地方では稀である。県内では松阪市飯高町、飯南町に記録がある。現状では確認できない。

現況・減少要因： 生育場所が岩場であり、環境条件の変化により生育できなくなった可能性が高い。マニアによる採取圧も考えられる。

保護対策： 新たな生育地が確認された場合は、関係者によく保護の必要性を働きかけること。



(南 正祝)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

クラガリシダ

Dryotaenium miyoshianum (Makino) Makino

シダ植物 ウラボシ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：絶滅 (EX)

旧県：情報不足 (DD)

環境省：EN

近畿：A (CR)

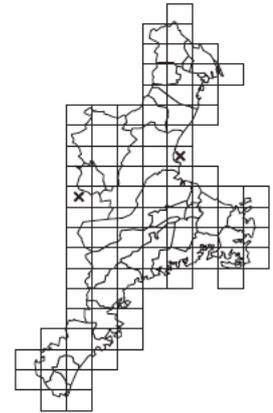
選定理由： 既知の生育地点数は2であるが、現状では確認できない。

種の概要： 山林下の樹幹や岩上に着生する。常緑性。葉は細く、長さ40 cm位に達する。根茎上に葉の落ちた跡が残る。胞子嚢群は中肋の両側の溝につく。葉の表の中肋は凹む。ナカミシシランは葉の表面に2条の溝があり、シシランは1条の溝で胞子嚢群は葉縁につくので区別できる。

分布： 本州（静岡県以西）、四国、九州に点在する。県内では、名張市で標本記録があるが、その後確認できない。

現況・減少要因： 森林の伐採や観光地化により環境が変化した可能性が大きい。

保護対策： シシランに似ているため、見逃されている可能性もあり、再調査することが必要である。



(南 正祝)

アカウキクサ

Azolla imbricata (Roxb. ex Griff.) Nakai

シダ植物 アカウキクサ科(Christenhusz et al. 2011: サンショウモ科)

三重県：絶滅 (EX)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：EN

近畿：A (CR)

選定理由： 既知の生育地点数は10以下である。現存は確認できない。

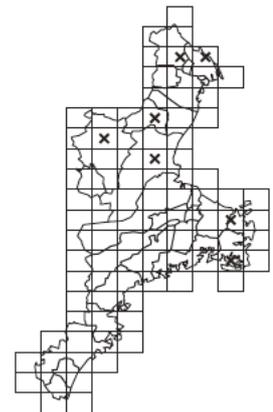
種の概要： 小形で浮遊性の常緑性シダ植物。茎はやや密に分岐し、葉と少数の根を生じ、植物体の全形は三角形で長さ1~1.5 cm。葉は互生して鱗片状、表面に粒状の突起が密生。根には長い根毛がある。胞子嚢群は秋以降に成熟する。

分布： 国内では本州（東海地方以西）、四国、九州。県内ではいなべ市、桑名市、亀山市、津市、伊賀市、伊勢市、鳥羽市、志摩市で生育の記録がある。

現況・減少要因： 水田雑草で、しばしば栄養的に繁殖していたが、乾田化、除草剤の使用、水質の汚染や耕作放棄に伴う遷移の進行などにより絶滅したと思われる。

保護対策： かつての生育地、湧水のある谷地田などは、定期的な草刈り、水田の耕起などの人的管理により再生する可能性もある。

文献： 34, 74, 116.



(葛山博次)

バイカモ

Ranunculus nipponicus Nakai var. *submersus* H.Hara

被子植物 [双子葉・離弁花] キンボウゲ科(APG III: 同)

三重県：絶滅 (EX)

旧県：情報不足 (DD)

環境省：—

近畿：A (CR)

選定理由： 既知の生育地点数は1であり、現在は確認できない。

種の概要： 小川や湧水池などの冷水を好む沈水性の多年草。和名は「梅花藻」の意。花期は春から秋、ときには冬で、5枚の花弁をもつ直径約1.5 cmの白い花を付ける。

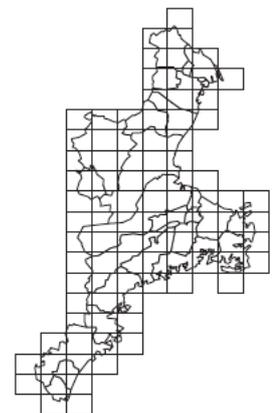
分布： 日本固有種。国内では北海道、本州。県内では桑名市に記録がある。

現況・減少要因： 生育していた状況は不明であるが、生育地の消失あるいは湧水量の減少・枯渇が考えられる。

保護対策： 生育が確認された場合は、生育地の流水量の確保と低水温の維持に努める必要がある。

特記事項： 桑名市の記録は文献記録である。

文献： 85.



(中 優)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

オトコゼリ

Ranunculus tachiroei Franch. et Sav.

被子植物 [双子葉・離弁花] キンポウゲ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅 (EX)

旧県: 絶滅 (EX)

環境省:

近畿: A (CR)

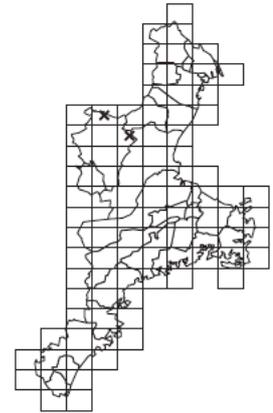
選定理由: 既知の生育地点数は2であるが、最近の情報がなく、絶滅したと考えられる。
種の概要: 川岸や田の縁など日当たりの良い泥地に生育する多年草。5~8月頃高さ35~100 cmの茎を伸ばし、径1~1.5 cmの黄色5弁花をつける。茎や葉には粗い開出毛が密生する。

分布: 朝鮮半島。国内では本州。県内では伊賀市阿山(1930, 1938)・大山田(1957)で記録がある。

現況・減少要因: 圃場整備による乾田化や河川改修など、絶えず人手が加わる環境下におかれ、著しく生育環境が不安定なため、絶滅した可能性が高い。

保護対策: 伊賀市では過去に確認された地域もわかっているため、該当地域で土地の改変が行なわれるときは、行政の担当者と施工業者、調査担当者が現地を確認を十分に行って再発見に努める必要がある。

特記事項: 標本は三重県総合博物館、三重県立上野高校に収蔵。



(加田勝敏)

ムジナモ

Aldrovanda vesiculosa L.

被子植物 [双子葉・離弁花] モウセンゴケ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅 (EX)

旧県: 絶滅 (EX)

環境省: CR

近畿: 絶滅 (EX)

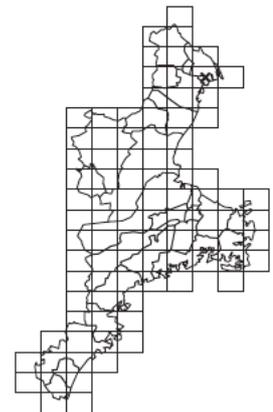
選定理由: 1953年に三重県指定の天然記念物となり、また、採集された標本はあるが、1959年以降、現存は確認できない。

種の概要: 緑色、無毛で根を持たない沈水性の水草。茎は長さ6~25 cm、1~4本の枝を出し、節には6~8個の葉が輪生、葉輪の直径1.5~2 cm。葉柄はくさび形、上部には数本の毛があって、葉身は袋状となり、ハマグリのように自由に開閉する。花は7~8月で、葉腋から水面上に淡緑色の小花を出す。種子は微小で楕円状、黒色である。種子は微小で楕円状、黒色である。

分布: 国内では本州(関東から中部、近畿)。国外では朝鮮半島、中国、インド、オーストラリア、ヨーロッパ、アフリカの熱帯から冷温帯に分布。県内では桑名市長島町に記録がある。

現況・減少要因: 天然記念物指定地については、環境変化により消滅してしまい、1957年に指定解除となった。また、周辺の生育地についても1959年9月26日の伊勢湾台風により壊滅し、絶滅した。

特記事項: 標本は三重県総合博物館、三重県立上野高等学校に収蔵。本州での各生育地からも絶滅。現在は埼玉県羽生市で人的管理のもとに栽培・保護されている。



(葛山博次)

ナガバノイシモチソウ

Drosera indica L.

被子植物 [双子葉・離弁花] モウセンゴケ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅 (EX)

旧県: 絶滅 (EX)

環境省: VU

近畿: 絶滅 (EX)

選定理由: 既知の生育地において1975年頃まで視認されたが、その後は生育が確認されていない。

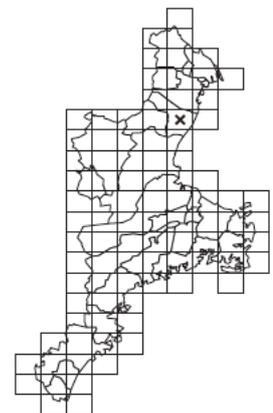
種の概要: 湿地に生える一年草、高さ7~20 cm。葉は狭線形で長さ4~7 cm。上面に長い腺毛が密生する。7~8月頃、総状花序に白色から淡紅色の花を3~10個つける。

分布: 国内では北海道、本州中部(愛知県、三重県、千葉県、栃木県)、九州。国外では台湾、中国、マレーシア、インド、アフリカ、オーストラリアに分布。県内では鈴鹿市。

現況・減少要因: 1975年頃までは、鈴鹿市で生育が確認された。その後、生育地が都市公園整備などにより乾燥化し、生育がみられなくなった。

保護対策: 埋土種子などの発芽による再生に期待する。そのための用地と生育環境の整備が必要である。

特記事項: 標本は京都大学総合博物館、三重県総合博物館、三重県立上野高校に所蔵。



(武田明正)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ホソバノキリンソウ

Phedimus aizoon (L.) 't Hart var. *aizoon*

被子植物 [双子葉・離弁花] ベンケイソウ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅 (EX)

旧県: 絶滅 (EX)

環境省: ー

近畿: C (VU)

選定理由: 既知の生育地点数は2であり、現存は確認できない。

種の概要: 多年草。花茎は1~2個で直立し、高さ20~50 cm。葉は細くて先がとがり、鋸歯は葉身の下半分にも多い。花序は多数花をつけ、花は黄色で直径10~13 mm。花期は7~9月。

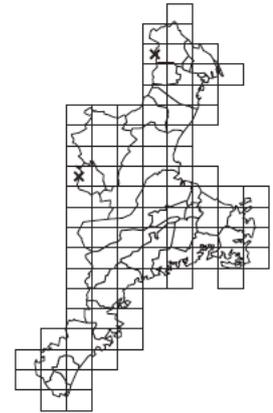
分布: 国内では北海道、本州、国外ではシベリアの冷温帯、県内ではいなべ市藤原岳 (1922, 1954)、名張市香落溪 (1926) に記録がある。

現況・減少要因: 園芸採取により個体数は減少、また生育地の植生遷移の進行により減少し、現在はその生育が確認できない。

保護対策: 生育している可能性もあることから、再発見された場合は採取を禁止するとともに生育地の植生遷移の進行を止める森林の間伐や枝打ちが必要である。

特記事項: 標本は京都大学総合博物館に収蔵。

文献: 34.



(葛山博次)

ヒメノハギ

Desmodium microphyllum (Thunb.) DC.

被子植物 [双子葉・離弁花] マメ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅 (EX)

旧県: 絶滅 (EX)

環境省: ー

近畿: A (CR)

選定理由: 既知の生育地点数は4であり、現存は確認できない。

種の概要: 半灌木。枝は伸長し、小枝を生ずる。小葉は楕円形で長さ5~10 mm、側小葉はやや小形、下面に圧毛がまばらに生える。花序はまばらにつき、長さ1~5 cm。花軸は屈曲し、小花梗は繊細で、長さ5~8 mm。ともに開出する腺毛があり、花は長さ4~5 mm、紅紫色。莢は長さ15 mm、無柄、3~4個の節を持つ節果となる。花期は8~10月。

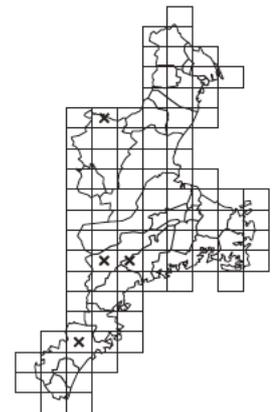
分布: 国内では本州 (中西部)、四国、九州、沖縄。国外では台湾、中国、インド、フィリピンの熱帯から暖温帯。県内では菰野町御在所岳 (1905)、伊賀市 (1944)、大台町宮川 (1950, 1951)、熊野市 (1951) で記録がある。

現況・減少要因: 日当たりの良い低地の草地に生育することから、生育地の改変や植生の遷移により消失したと考えられる。

保護対策: かつて生育が確認された地域の精査により再発見の可能性はある。その際には生育地の保全に努める必要がある。

特記事項: 標本は三重県総合博物館、三重県立上野高校、大阪市立自然史博物館に収蔵。

文献: 69.



(葛山博次)

ヒロハクサフジ

Vicia japonica A.Gray var. *japonica*

被子植物 [双子葉・離弁花] マメ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅 (EX)

旧県: 絶滅 (EX)

環境省: ー

近畿: A (CR)

選定理由: 既知の生育地点数は1であり、現存は確認できない。

種の概要: 多年生つる草。小葉は10~14個、軟毛があり、楕円形または長楕円形、円頭または少し凹頭、長さ10~20 mm、巾6~10 mm。花序は長さ3 cm、やや多数の花をつけ、花は淡青紫色、萼には明らかな歯がある。花期は4~8月。

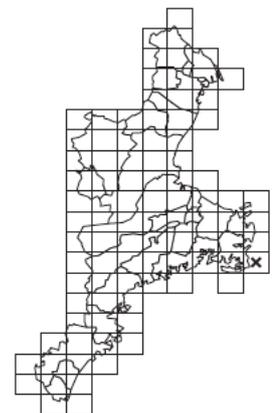
分布: 国内では北海道、本州、国外では南千島、樺太、朝鮮半島の冷温帯。県内では志摩市大王町 (1937, 1968, 1969) で記録がある。

現況・減少要因: 生育していた海浜は、護岸工事等により改変され、現在は生育が確認できない。

保護対策: 再発見の可能性がないとは言えないので、今後、生育情報があれば生育地の保全に努めることが大切である。

特記事項: 標本は京都大学総合博物館、鈴鹿市小林秀樹に収蔵。

文献: 64, 69.



(葛山博次)

維管束植物

蕨類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ハギクソウ

Euphorbia octoradiata H.Lév. et Vaniot

被子植物 [双子葉・離弁花] トウダイグサ科(APGⅢ:同)

三重県:絶滅 (EX)

旧県:絶滅 (EX)

環境省: CR

近畿:

選定理由: 1962年に既知の生育地で確認された以降、生育が確認されていない。

種の概要: 海岸の砂地などにまれに生える多年草。茎に狭いへら形から倒披針形の葉をつけ、花後、茎頂の葉がキクの花を思わせるので葉菊草の名がある。

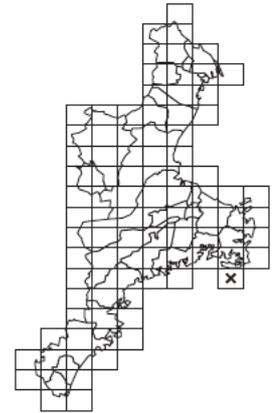
分布: 国内では愛知県、三重県、九州。国外では東アジアに分布。県内では志摩市の和具大島から記録されている。

現況・減少要因: 志摩市の和具大島で1937年に標本が採取され、1965年に確認されたのち生育が不明。自然要因(高波による砂浜の変化)などにより絶滅した可能性が高い。

保護対策: 県指定天然記念物(和具大島暖地性砂防植物群落)として保護されてきた。現時点で生育が確認されていないが、再生の可能性が失われていないと思われるので、生育環境の整備・保全が必要。

特記事項: 標本は三重県立上野高校、京都大学総合博物館に所蔵。

文献: 136。



(武田明正)

ヒナノキンチャク

Polygala tatarinowii Regel

被子植物 [双子葉・離弁花] ヒメハギ科(APGⅢ:同)

三重県:絶滅 (EX)

旧県:絶滅 (EX)

環境省: EN

近畿: A (CR)

選定理由: 既知の生育地点数は1であり、現存は確認できない。

種の概要: 茎は根元から分枝し、高さ4~10 cm、まばらに数個の葉をつける。花は横向きに咲き、長さ2 mm、淡紅色か淡紫色、萼片5のうち2片が大きく花弁のように見える。果実は扁平、径3 mm、萼片は脱落し、果実は裸出する。花期は7~10月。原野にまれに生育する一年草。

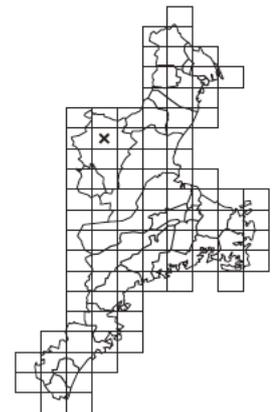
分布: 国内では本州、四国、九州。国外では朝鮮半島、中国、東南アジア、インド、シベリアの熱帯から暖温帯。県内では伊賀市(1937)で記録されている。

現況・減少要因: 植生の遷移による影響や道路の拡幅工事、土地の改変などにより絶滅したと思われる。

保護対策: 生育が確認された場合には、植生の遷移を抑制したり、土地の改変を中止するなどして保護することが大切である。

特記事項: 標本は三重県立上野高校に収蔵。

文献: 69。



(葛山博次)

ヒメノボタン

Osbeckia chinensis L.

被子植物 [双子葉・離弁花] ノボタン科(APGⅢ:同)

三重県:絶滅 (EX)

旧県:絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: VU

近畿: A (CR)

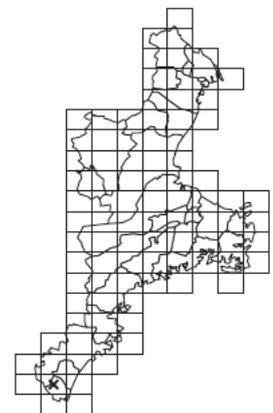
選定理由: 紀宝町の自生地は県内で唯一の産地であったが、ここ数年間、開花個体が確認されていない。

種の概要: 日当たりのよい低地や山地に生える亜熱帯性の多年草または半低木。茎は直立して高さ10~30 cmで葉は対生。花期は8~9月、直径3 cmほどの可憐な紅紫色の花を咲かせる。

分布: 国内では紀伊半島南部(和歌山県、三重県)、四国、九州、沖縄。県内では紀宝町に分布。

現況・減少要因: 自生地の水田域が自然災害や耕作放棄により荒廃するなど、生育環境の劣化が著しい。最近では開花個体も見られず、これまででろうじて生存していた数株の個体も消滅したと思われる。

保護対策: 地元の方々により自生地周辺の草刈り等、保全に向けての努力がなされてきたが残念な結果となっている。現在、開花個体は確認できないが、実生などによる生存の可能性も否定できないため、自生地の維持とその生育環境の整備が必要である。



(花尻 薫)

維管束
植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ミシマサイコ

Bupleurum stenophyllum (Nakai) Kitag. var. *stenophyllum*

被子植物 [双子葉・離弁花] セリ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅 (EX)

旧県: 絶滅 (EX)

環境省: VU

近畿: A (CR)

選定理由: 過去(1902~1906)に採集された標本はあるが、現存は確認できない。

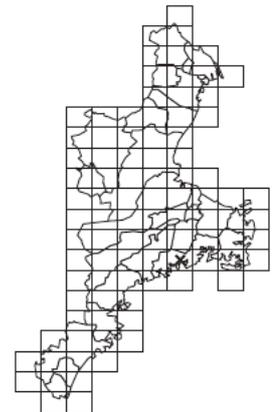
種の概要: 多年草。茎は高さ30~70 cm, 上部で分枝。葉は根生するか互生。根生葉には長い柄があるが茎葉は無柄。葉身は単葉で狭披針形から線形, 長さ4~15 cm, 幅0.5~15 mm, 硬く全縁で平行脈がある。花序は複散形で小形, 枝の先につき, 花は黄色で小花序に5~10個。果実は球形, 熟すと褐色。花期は8~10月。

分布: 国内では本州, 四国, 九州, 国外では朝鮮半島の暖温帯に分布。県内では標本から度会郡能見坂で記録がある。

現況・減少要因: 本種は一般には日当たりのよい草地に生育する。そうした草地が人々の農林業からの離反により放置され, 遷移が進行し森林化したために絶滅したと思われる。

特記事項: 標本は四日市市楠町中央公民館に収蔵。

文献: 42.



(葛山博次)

ヌマゼリ

Sium suave Walter var. *nipponicum* (Maxim.) H.Hara

被子植物 [双子葉・離弁花] セリ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅 (EX)

旧県: 絶滅 (EX)

環境省: VU

近畿: A (CR)

選定理由: 既知の生育地点数は1だが、すでに絶滅したと思われる。

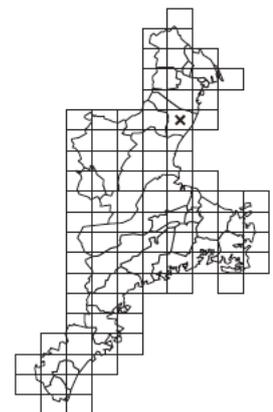
種の概要: 高さ60~120 cmになる全体無毛の多年草。茎の基部から地表または地中に走出枝を出す。茎および葉柄は中空。葉は単羽状複葉で, 粗い鋸歯がある。花は白色で, 7~9月に開花。果実は倒卵形, 油管は約10本。本種は寒地性の植物であり, ドクゼリ, ミツガシワ, サギスゲと同様に氷期の遺存植物と思われる。

分布: 国外では朝鮮半島, 中国。国内では北海道から九州。県内では鈴鹿市広瀬野(現, 広瀬町周辺)での1928年の標本記録がある。西日本では富栄養の湿地に非常にまれに生育する。

現況・概要: 唯一の生育地であった鈴鹿市から絶滅したと思われる。広瀬野の丘陵地には, かつては広大な雑木林があったとされるが, 軍の飛行場建設とその後の農地・工場用地の開発によって消失した。おそらく丘陵に点在する谷津や凹地などの微小地形に湿地が成立していたのであろう。

特記事項: 三重県総合博物館に保管されている証拠標本はたいへん貴重。

文献: 10.



(藤井伸二)

コケモモ

Vaccinium vitis-idaea L.

被子植物 [双子葉・合弁花] ツツジ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅 (EX)

旧県: 情報不足 (DD)

環境省: —

近畿: A (CR)

選定理由: 既知の生育地点数は5以下で, 生育地が限られている。

種の概要: 高山の岩場や草地などに生える常緑小低木, 高さ5~15 cm程度。長楕円形の厚い葉(長さ8~25 mm)が斜上する地上茎の全体につく。6~7月に咲く鐘形から筒状鐘形の花冠は浅く4裂。

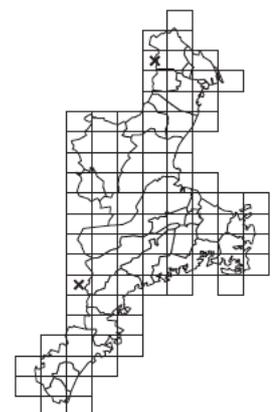
分布: 北半球の寒帯を中心として広く分布。国内では北海道, 本州, 四国, 九州。県内では, 菰野町(御在所岳, 国見岳), 大台町(日出ヶ岳)。

現況・減少要因: 1951, 1963, 1971, 1972年の文献で, 生育地と記載されている御在所岳(頂上とその周辺), 国見岳, 日出ヶ岳の類似の生育環境下で, 生育の確認ができない。原因は不明であるが絶滅したものと思われる。

保護対策: 再発見の可能性がないとはいえないので, 既報の生育立地の保全に努める必要がある。

特記事項: 標本の所在は未確認。今回の改訂にあたり信頼のおける文献情報にもとづき, 現況に合わせ, 情報不足 (DD) から変更した。

文献: 39. 63. 81. 84.



(武田明正)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ムラサキ

Lithospermum erythrorhizon Siebold et Zucc.

被子植物 [双子葉・合弁花] ムラサキ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅 (EX)

旧県: 絶滅 (EX)

環境省: EN

近畿: A (CR)

選定理由: 既知の生育地点数は1であり、現存は確認できない。

種の概要: 多年草。主根は太く濃赤紫色。茎は高さ30~60 cm, 上向きの粗毛がある。葉は無柄で、披針形から長楕円形、質は厚く、2~3対のはっきりした側脈がある。花は6~7月。花冠は白色、筒部短く、先は5個の丸い裂片にわかれそれぞれの裂片の基部に2個の丸いふくらみがある。

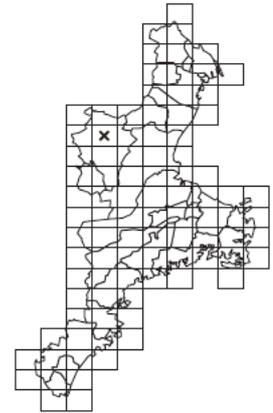
分布: 日本全土。国外では朝鮮半島、中国、アムールの冷温帯。県内では伊賀市(1954)に記録がある。

現況・減少要因: 生育地は長年にわたり採草地であり、定期的に草刈りや野焼きが行われてきた。そうした管理がなくなり、植生遷移の進行により絶滅したと考えられる。また土地の改変も影響している。

保護対策: 再発見の場合は開発や採取などの人為圧から守るとともに、草刈りや野焼きを実施し、生育地の保護に努める必要がある。

特記事項: 標本は三重県上野高校、三重県総合博物館、京都大学総合博物館に收藏されている。

文献: 24, 69, 76.



(葛山博次)

キセワタ

Leonurus macranthus Maxim.

被子植物 [双子葉・合弁花] シソ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅 (EX)

旧県: 絶滅 (EX)

環境省: VU

近畿: C (VU)

選定理由: 既知の生育地点数は1であり、現存は確認できない。

種の概要: 多年草。茎は直立し、高さ60~100 cm, 切り口は四角形。葉は対生、長さ1~3 cmの柄があり、葉身は卵形または狭卵形、長さ5~9 cm, 巾3~7 cm, 辺縁には欠刻状のあらい鋸歯がある。花は葉腋に数個ずつつき、紅紫色、花冠は唇形で、下唇の中央裂片は下に曲がり、外面は密に白毛がある。花期は8~9月。花冠上唇の外側に白毛があることから、キセワタ(着せ綿)なる和名がついたという。

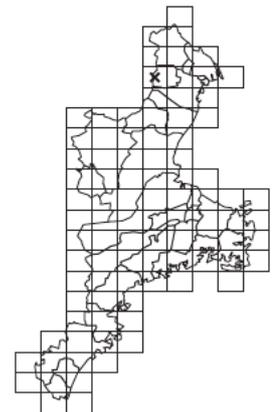
分布: 日本全土。国外では朝鮮半島、中国の冷温帯。県内では菰野町御在所岳の標本記録(1949)がある。

現況・減少要因: 生育地の植生遷移が進行し、生育環境が悪化したことにより絶滅したと考えられる。

保護対策: 本種は山地や丘陵地の草地に生育する。かつて人びとがカヤ場として利用してきたところで生育が可能であった。再発見されたときには草地を維持するための草刈り等の人為的管理が必要である。

特記事項: 標本は三重県総合博物館に收藏。

文献: 82.



(葛山博次)

タチコゴメグサ

Euphrasia maximowiczii Wettst. var. *maximowiczii*

被子植物 [双子葉・合弁花] ゴマノハグサ科(APGⅢ:ハマウツボ科)

三重県: 絶滅 (EX)

旧県: 絶滅 (EX)

環境省: —

近畿: A (CR)

選定理由: 既知の生育地点数は1であり、現存は確認できない。

種の概要: 一年草。茎は少数の枝を出し直立、高さ15~30 cm, 曲がった毛がある。葉は対生、無柄、葉身は卵円形で長さ6~10 mm, 巾4~8 mm, 両面とも無毛、辺縁には4~7対の鋭い鋸歯がある。花は葉腋に1個ずつつき、唇形、下唇は上唇とはほぼ同長、白色で紫の条がある。花期は8~9月。

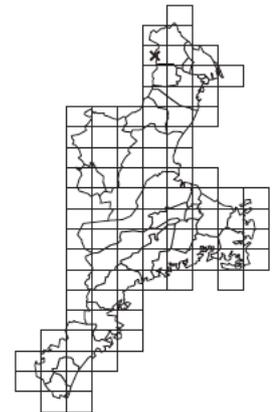
分布: 国内では、本州(東北以西)、四国、九州の冷温帯。県内ではいなべ市(藤原岳)での標本記録(1950)がある。

現況・減少要因: 山地の日当たりのよい草地に生育するが、生育地の植生遷移の進行により絶滅したと考えられる。

保護対策: 精査により再発見の可能性もあり、その際には、定期的な草刈りにより草地の維持に努める必要がある。

特記事項: 標本は三重県立上野高校に收藏。

文献: 69.



(葛山博次)

維管束
植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

カミガモソウ

Gratiola fluviatilis Koidz.

被子植物 [双子葉・合弁花] ゴマノハグサ科(APGⅢ: オオバコ科)

三重県: 絶滅 (EX)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: EN

近畿: A (CR)

選定理由: 既知の生育地点数は1.

種の概要: 湿地に生える一年草。茎は高さ10~20 cm, 円柱形で赤紫色を帯びる。葉は倒卵形で縁に鋸歯があり, 毛が多くざらつき, 上面は3脈が明瞭。花は8月下旬~10月上旬, 花冠は白色で径約7 mm.

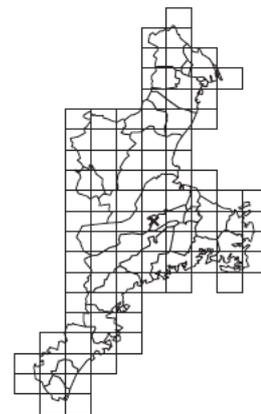
分布: 日本固有種。京都府, 兵庫県, 三重県, 長崎県, 鹿児島県(奄美大島)のほか, 最近高知県からも確認されている。県内では多気町からの記録がある。

現況・減少要因: 県内では多気町が唯一の生育地。1994年に池の岸辺で3個体認められたが, 現在自生は確認できず, 絶滅したものと思われる。

保護対策: 生育地周辺の環境は, 大きな変化がないので, 今後自生が再確認される可能性がある。生育環境が大きく改変されないよう注意が必要。

特記事項: 京都の上賀茂神社で1920年に採集され, その後1955年奄美大島で発見されている。さらに1993年に兵庫県で, 1994年長崎県, 三重県(多気町)で確認され, 2003年には高知県からの報告がある。

文献: 2, 19, 99.



(山本和彦)

ヒシモドキ

Trapella sinensis Oliv.

被子植物 [双子葉・合弁花] ゴマ科(APGⅢ: オオバコ科)

三重県: 絶滅 (EX)

旧県: 絶滅 (EX)

環境省: EN

近畿: A (CR)

選定理由: 既知の生育地点数は1であり, 現存は確認できない。

種の概要: 多年生の浮葉性水草。茎は水中を長く伸びる。葉は対生する。水中葉は狭披針形, 浮葉は三角状円形ないし腎円形で長さ2~3.5 cm, 巾2.5~4 cm, 辺縁には鈍鋸歯がある。花には通常花と閉鎖花があり, 通常花は葉腋から2 cmほどの花柄をのびし, 水上に淡紅色の花を開く。花冠は筒状で長さ2~2.5 cm, 先は5裂し, 裂片は円頭, 花期は7~9月。

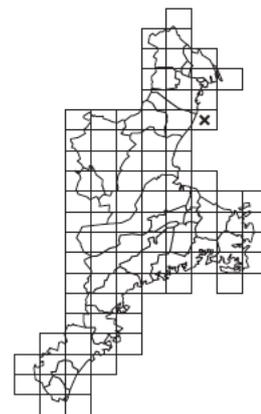
分布: 国内では本州, 九州。国外では朝鮮半島, 中国の暖温帯から冷温帯。県内では四日市市楠町(1902~1906)での標本記録がある。

現況・減少要因: 標本が採取されてから100年以上新たな生育記録がないことから, 絶滅したものと思われる。原因は不明である。

保護対策: 精査により再発見された場合は生育地を保全する必要がある。

特記事項: 標本は四日市市楠町中央公民館に収蔵。

文献: 42.



(葛山博次)

イワギリソウ

Opithandra primuloides (Miq.) B.L.Burt

被子植物 [双子葉・合弁花] イワタバコ科(APGⅢ: 同)

三重県: 絶滅 (EX)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: VU

近畿: A (CR)

選定理由: 既知の生育地点数は5以下であるが, すでに絶滅したと思われる。

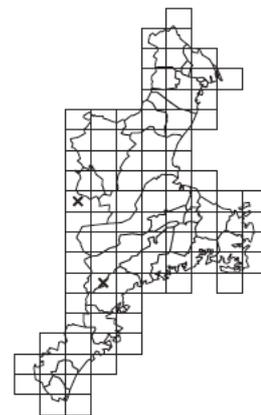
種の概要: 多年草。全体に白色の長毛が著しい。葉は根生で, 長柄があり, 卵形, 卵円形, 卵状楕円形, やや肉が厚い。葉腋から長さ10~20 cmの花茎をだし, 先端に散状に10花内外をつける。花冠は漏斗状で先は5裂, 淡紫色, 濃色の線条がある。果実は広線形。花期は5~6月。

分布: 日本固有種。国内では本州(近畿以西), 四国, 九州の暖温帯。県内では名張市と台高山脈に分布する。

現況・減少要因: 深山の岸壁や樹上に着生することから生育環境の変化したことや, 開花時は人目につき, 園芸採取の対象となったことなどから絶滅したと考えられる。

特記事項: 本種の生育記録は1950年以降, 文献・標本ともない。それ以前の標本は三重県立上野高校に収蔵されている。

文献: 57, 69, 139.



(葛山博次)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ハマウツボ

Orobanche coerulescens Stephan ex Willd.

被子植物 [双子葉・合弁花] ハマウツボ科(APGⅢ:同)

三重県:絶滅 (EX)

旧県:絶滅 (EX)

環境省: VU

近畿: A (CR)

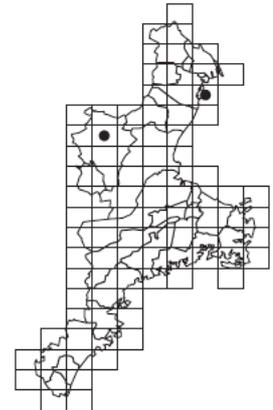
選定理由: 既知の生育地点数は2. 50年以上生育が確認されていない.

種の概要: 海岸や川原の砂地に生え, ヨモギ属の根に寄生する一年草. 茎は黄褐色, 太く直立して10~25 cm, 5~7月に淡紫色の花をつける.

分布: 国内では北海道から沖縄, 国外では中国, 朝鮮半島, シベリア, ヨーロッパ東部に分布. 県内では伊賀市, 四日市市で記録がある.

現況・減少要因: 三重県産生物目録 (1951年刊) には四日市市富田浜および伊賀市服部川川原に生育するとされているが, それ以降の記録はなく, 絶滅したものと思われる.

特記事項: 伊賀市産標本 (1937年) は三重県立上野高校に保管されている.



(岡 与一)

コタヌキモ

Utricularia intermedia Heyne

被子植物 [双子葉・合弁花] タヌキモ科(APGⅢ:同)

三重県:絶滅 (EX)

旧県:絶滅 (EX)

環境省: —

近畿: A (CR)

選定理由: 既知の生育地点数は2であるが, 現在は生育の確認はできない. 周辺に期待できる生育環境はなく絶滅とした.

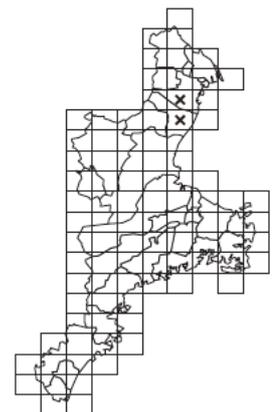
種の概要: 湿原や池沼の泥土上の水湿地に生える沈水性の多年草. 根はなく, 茎の長さは20 cmまでである. 水中茎に葉はやや密につき, 葉身は二股状に数回分裂し, 全体の形が扇形となり, ほとんど捕虫囊はつけない. 地中茎は捕虫囊だけをつける. 花を6~9月頃につけるが, 果実はできない. 越冬芽を形成する.

分布: 国内では北海道, 本州, 九州, 国外では朝鮮に分布し, 県内では四日市市 (1991) に標本, 鈴鹿市に文献記録がある.

現況・減少要因: かつて四日市市, 鈴鹿市にそれぞれ1か所分布したが絶滅したようである.

保護対策: 環境が整えば復活する可能性がある.

特記事項: 四日市市 (1991) の標本は大阪市立自然史博物館にも所蔵.



(市川正人)

ヒメミミカキグサ

Utricularia minutissima Vahl

被子植物 [双子葉・合弁花] タヌキモ科(APGⅢ:同)

三重県:絶滅 (EX)

旧県:絶滅 (EX)

環境省: EN

近畿: A (CR)

選定理由: 既知の生育地点数は5以下であるが, 現在, 確かな生育地はない.

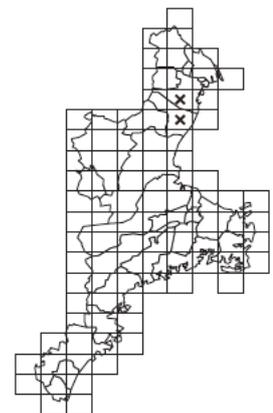
種の概要: 泥湿地に生育する小さな多年草. 地上葉は線形. 花茎は1~3 cm. 花期は8~10月, 淡紅紫色の花をつける. 糸状の地下茎が地中を這い, 捕虫囊をまばらにつける.

分布: 国内では本州 (東海地方). 県内では四日市市 (1950), 鈴鹿市 (1950, 1955) で記録がある.

現況・減少要因: はっきりした記録はいずれも50年以上前のものであり, 現況は不明である. しかし最近の状況からは, 絶滅したものと思われる. 遷移の進行やマニアによる採取がその要因と思われる.

保護対策: 四日市市, 鈴鹿市の過去の生育地では湿地の保全や再生に向けた活動が精力的に行われている. 再発見の可能性は高いと思われる.

特記事項: 両生育地とも国指定天然記念物である. 標本は大阪市立自然史博物館にも所蔵されている.



(山路武夫)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ノギリソウ

Achillea alpina L. var. *longiligulata* H.Hara

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅 (EX)

旧県: 情報不足 (DD)

環境省: —

近畿: A (CR)

選定理由: 日本固有種であり、2005年にはDD(情報不足)として記載し、その後、現地調査を行ったが本種が確認されなかったことから絶滅とした。

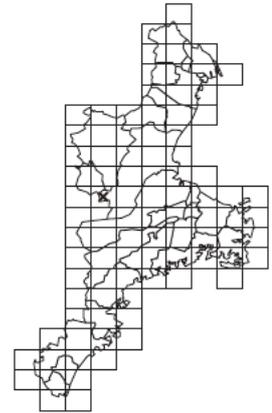
種の概要: 山地の草原に生える多年草で、茎は高さ50~100 cm、葉は無柄で基部は茎を抱き、葉身はくし歯状に中裂し、裂片には鋭鋸歯がある。頭花は白色で7~9月に開花、茎頂に密な散房花序をつくり、径7~9 mm、舌状花は長さ3.5~4.5 mm。総苞は球鐘形で長さ、幅ともに5 mm内外。そう果は長さ3 mmで無毛。

分布: 国内では、本州・北海道の冷温帯・寒帯に分布する。県内では、桑名市、菟野町、伊賀市、名張市、度会町で生育の記録がある。

現況・減少要因: 生育地の植生の変化や捕食者の侵入により絶滅した可能性が高い。

保護対策: 現時点では生育が確認できないが、再生の可能性も失われていないと思われるので、生育環境の整備が必要である。

特記事項: 本種は、1950年10月21日百永章が名張市尼ヶ岳で採集した標本 (No.1506, 三重県総合博物館に収蔵) 以降、確実な記録がないことから絶滅したと考えられる。



(葛山博次)

モリアザミ

Cirsium dipsacolepis (Maxim.) Matsum. var. *dipsacolepis*

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅 (EX)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: —

近畿: B (EN)

選定理由: 既知の生育地点数は5以下であり、生育地である草地の改変や植生の変化により、現在は本種の生育が確認できない。

種の概要: 多年草。根は垂直に伸び直径2 cmほど。茎は高さ50~100 cm。頭花は花期に直立、総苞片は中部で2~3 mm、外片と内片は同長で、斜開する。果実は下部が黒紫色、上部が黄白色、花期は9~10月。

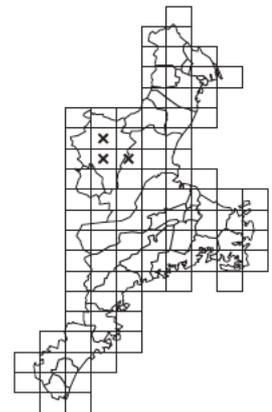
分布: 日本固有種。本州、四国、九州の暖温帯から冷温帯。県内では伊賀・名張地域の標本記録がある。

現況・減少要因: 山地の乾いた草原に生育する。生育地の草地が土地の改変や植生遷移の進行で消滅したと考えられる。

保護対策: 既知の生育地の草地を回復することが必要である。

特記事項: 伊賀・名張地域産の標本は、三重県総合博物館および三重県立上野高校に収蔵されている。

文献: 69.



(葛山博次)

カセンソウ

Inula salicina var. *asiatica* Kitam.

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅 (EX)

旧県: 絶滅 (EX)

環境省: —

近畿: A (CR)

選定理由: 過去に2回の採集例があるのみで、長年にわたって記録がない。おそらく絶滅したものと考えられる。

種の概要: 日当たりが良くやや湿潤な草地環境に生育する多年草。草丈60~80 cmに達し、7~9月頃黄色の頭花をつける。葉縁には小歯牙がある。

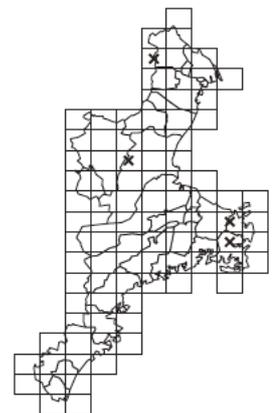
分布: 朝鮮半島、中国、シベリア。国内では北海道から九州。県内では伊賀市笠取山 (1937)、いなべ市藤原岳 (1955) で採集されている。また、北勢地方と南勢地方で文献記録がある。

現況・減少要因: もともと個体数も生育地も限られており、すでに絶滅したものと考えられる。

保護対策: 市町村の担当者や施工業者、調査に携わる者は、該当する種が出現する偶然性も考慮して、開発に関連する事項の検討をすべきである。

特記事項: 標本は三重県立上野高校、鈴鹿市文化部文化課に収蔵されている。

文献: 34.



(加田勝敏)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

タカサゴソウ

Ixeris chinensis (Thunb.) Nakai subsp. *strigosa*
(H.Lév. et Vaniot.) Kitam.

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅 (EX)

旧県: 絶滅 (EX)

環境省: VU

近畿: A (CR)

選定理由: 既知の生育地点数は3であり、現存は確認できない。

種の概要: 多年草。茎は直立、高さ20~40 cm。根生葉は披針形、長さ8~24 cm。葉はまばらに鋸歯があるかまたは羽状に浅裂する。茎葉は茎の下部に集まり、基部はやじり形とならない。頭花は直径2 cm、20~30個の舌状花からなる、青みを帯びた白色花。花期は4~6月。

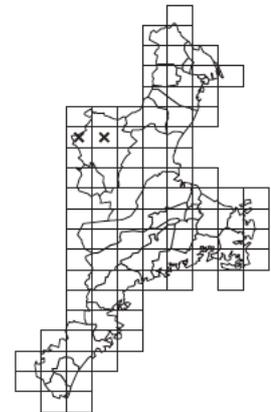
分布: 国内では本州、四国、九州、国外では朝鮮半島の暖温帯から冷温帯。県内では伊賀市上野(1927, 1931)、伊賀市阿山(1958)で標本記録がある。

現況・減少要因: 日当たりの良い野原や山麓に生育する、そうした生育地は開発により失われた。また生育地の管理放棄により植生遷移など環境の変化で絶滅したと考えられる。

保護対策: 生育が確認された場合には、生育地の改変を抑制するとともに、遷移の進行を抑える草刈りなどの人的管理が必要である。

特記事項: 標本は三重県総合博物館、三重県立上野高校に收藏。

文献: 69.



(葛山博次)

ヒメヒゴタイ

Saussurea pulchella (Fisch. ex Hornem.) Fisch.

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅 (EX)

旧県: 絶滅 (EX)

環境省: VU

近畿: A (CR)

選定理由: 既知の生育地点数が5以下で、50年近く生育が確認されていない。全国的にも減少の著しい種で、絶滅したと考えられる。

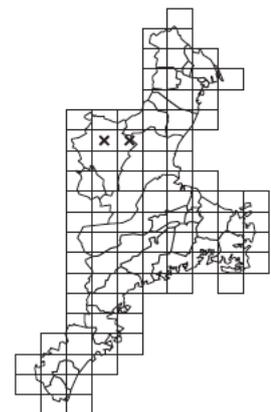
種の概要: 日当たりのよい草原に生育する越年草。草丈30~150 cmになり、8~10月頃、上部でよく分枝して多数の頭花をつける。葉の両面に細毛と腺点がある。

分布: 朝鮮半島、中国、樺太、シベリア東部。国内では北海道から九州。県内では伊賀市(1950, 1957)、津市で記録がある。

現況・減少要因: 本種が生育するような場所が、採草地としての管理が放棄され、植生遷移が進行して森林化したことによる。また、ニホンジカ等の野生動物の食害による被害も甚大で、以前草原であった所は、ササ類の矮性化群落に変っている。

保護対策: 草刈、火入れによる草原の維持、管理をする以外に生育地の保全は難しい。また園芸用にも採取されるので、もし再発見されても生育地は公表すべきではない。

特記事項: 伊賀市産標本は三重県総合博物館に收藏。



(加田勝敏)

キクアザミ

Saussurea ussuriensis Maxim.

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅 (EX)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: A (CR)

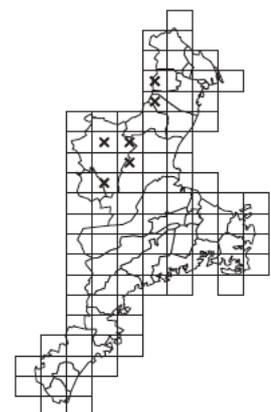
選定理由: 既知の生育地点数は5程度であるが、最近の情報が皆無で絶滅したと考えられる。

種の概要: 日当たりのよい山地の草原に生育する多年草。葉は深く切れ込み、花時にも根生葉が残る。9~10月頃、30~120 cmの茎を伸ばし、頭花を散房状につける。花柄は短い。総苞は長さ12 mm内外でも毛がある。

分布: 朝鮮半島、中国、ウスリー。国内では本州(福島県以西)、九州。県内では菟野町、亀山市、伊賀市で記録がある。

現況・減少要因: もともと個体数が少なく、ほとんど見つからない状況にあったが、長年生育が確認されていない。草地の減少や植生遷移により、生育環境が消滅したと考えられる。

保護対策: 山地の草原は管理が放棄され、森林化が進行している。草刈や火入れにより、草原を草原として維持、管理される体制がない限り、本種に限らず同様な環境に生育する種の保全は難しい。ただし植生が遷移した際には、該当する市町村の関係者は、念入りに繰り返し調査を行って、再発見に努めるべきである。



(加田勝敏)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

オナモミ

Xanthium strumarium L.

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

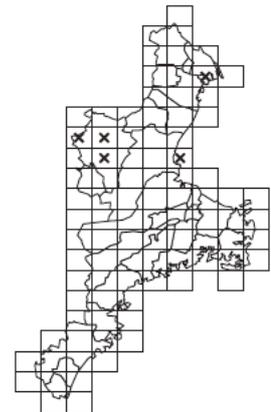
三重県: 絶滅 (EX)

旧県: 絶滅 (EX)

環境省: VU

近畿: 絶滅 (EX)

選定理由: 既知の生育地点数は10以下であり、現存は確認できない。また情報もない。
種の概要: 一年草。オオオナモミにくらべ、つぼ状体(果包)は小さく、長さ8~14 mm、巾6~8 mm、先端の突起は小さく、面には細毛が多くて光沢はない。つぼ状体表面の棘はまばらで短い。花期は8~10月。つぼ状体は熟すると灰褐色となる。
分布: 国内では日本全土。国外では台湾、中国、朝鮮半島、欧州大陸、北米などの熱帯から冷温帯。県内では津市(1911)、伊賀市(1931、1940、1953)、桑名市(1998)での標本記録がある。
現況・減少要因: 1960年代頃までは県内各地に個体数は少ないものの生育していた文献記録がある。それらの生育地は土地の改変・改修に伴い絶滅したと考えられる。
保護対策: 現存が確認された場合は、その生育地の改変や植生遷移の進行を抑止し、保全する必要がある。
特記事項: 国外における分布は広義のオナモミとして示した。標本は三重県総合博物館、三重県立上野高校に收藏。
文献: 34. 57. 69. 89.



(葛山博次)

ノハラテンツキ

Fimbristylis pierotii Miq.

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

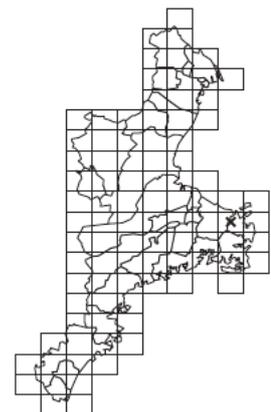
三重県: 絶滅 (EX)

旧県: 絶滅 (EX)

環境省: VU

近畿: A (CR)

選定理由: 既知の生育地点数は1。70年間記録がない。
種の概要: 別名をブゼンテンツキ(豊前点突)という。ノテンツキに似ているが根茎はよく発達し、横に這う。三角形の鱗片で被われ、長さ5 cmになる。
分布: 国内では本州西部から沖縄の山中草地にややまれに生育する。国外では中国、フィリピン、インドに分布。県内では鳥羽市(1936年)産の標本がある。
現況・減少要因: 鳥羽市安楽島で採取された標本1点があるが、その後生育は確認されていない。生育地は開発により大きく環境が変化しており、絶滅したものと思われる。
特記事項: 標本は京都大学総合博物館に收藏。



(岡 与一)

クロタマガヤツリ

Fuirena ciliaris (L.) Roxb.

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

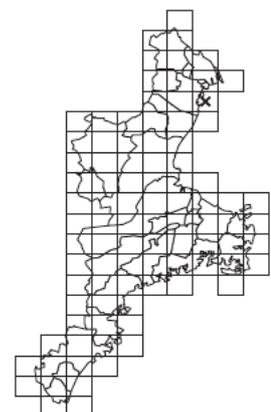
三重県: 絶滅 (EX)

旧県: 絶滅 (EX)

環境省:

近畿: A (CR)

選定理由: 既知の生育地点数は1であり、現存は確認できない。
種の概要: 稈は高さ10~40 cm、2~3個の節があり、葉および花序の鱗片に長軟毛を有する。小穂は長楕円状卵形、長さ4~7 mmあり、3~10個集まって球状花序をつくり、それが各稈に2~3個ずつつく。鱗片は楕円形、長さ1.5 mm、薄い膜室で黒味があった緑色、長さ1 mmの芒がある。果実は倒卵形で3稜あり、長さ0.7 mm、柱頭は3。花被片は6個、3個は刺状で短くときになく、他の3個は平板状で果実より少し長い。
分布: 国内では本州(千葉県以西)、四国、九州、沖縄、国外では台湾、中国、朝鮮半島、インド、インドシナ、マレーシアの熱帯から暖温帯。県内では標本から、四日市市(1902~1906)で記録がある。
現況・減少要因: 開発や植生遷移の進行により絶滅したものと思われる。
保護対策: 県内では一世紀間、生育の情報がないが生育の可能性が全くないとは言えない。土地の開発・改変の際は植物相の精査が必要である。
特記事項: 標本は四日市楠町中央公民館に收藏。
文献: 41.



(葛山博次)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

キンセイラン

Calanthe nipponica Makino

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅 (EX)

旧県：絶滅 (EX)

環境省：VU

近畿：A (CR)

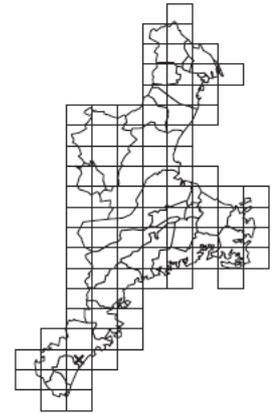
選定理由： 既知の生育地点数は2. 60年以上生育が確認されていないことから、絶滅と判断した。

種の概要： 深山の林に生える地生ラン。葉は3~5個つき、広披針形で長さ15~30 cm。花茎は高さ30~50 cm、上部は子房とともに短毛がある。6~7月、まばらに淡黄緑色の花を5~12個つける。

分 布： 日本固有種。北海道から九州に分布する。県内では御浜町妙見山で1938年6月20日に、おなじく御浜町神木で1950年8月15日に採集された標本が残されている。

現況・減少要因： 上記以降の記録はない。すでに60年以上経過しており、絶滅したものであると思われる。森林伐採や採取により消滅していったと推察される。

特記事項： 標本は京都大学総合博物館および三重県総合博物館に収蔵されている。



(花尻 薫)

サルメンエビネ

Calanthe tricarinata Lindl.

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅 (EX)

旧県：絶滅 (EX)

環境省：VU

近畿：A (CR)

選定理由： 既知の生育地点数は1であり、現存は確認できない。

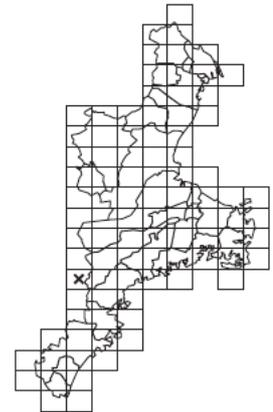
種の概要： 多年草。葉は2~4個が根生し、長さ15~40 cm、中3~11 cmの倒卵状長楕円形。花期は5月。花は帯褐緑色で花弁は長楕円状倒卵形、唇弁の基部は不ぞろいな隆起した皺があって紫褐色、先は深く凹入する。花茎は高さ30~50 cm。

分 布： 日本全土。国外では台湾、中国、インド、ヒマラヤの冷温帯。県内では標本から大台町大台ヶ原 (1915) で記録がある。

現況・減少要因： 絶滅したと思われるが原因は不明である。

保護対策： 再発見の際には生育域の保護に努め園芸採取を禁止する必要がある。また、遺伝子の攪乱を防ぐために県内外で採取された栽培株の植え戻しは禁止すべきである。

特記事項： 標本は三重県総合博物館に収蔵。文献記録では伊勢市に分布。



(葛山博次)

ムカゴトンボ

Habenaria flagellifera Makino

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅 (EX)

旧県：絶滅 (EX)

環境省：EN

近畿：A (CR)

選定理由： 既知の生育地点数は1であり、現存は確認できない。

種の概要： 多年草。高さ20~50 cm。葉は茎の下部に3~5個つける。葉身は広披針形、長さ4~10 cm、中1~2.5 cm。花期は9~10月。花は茎の上部にやや多数つき、長さ10~25 cmの穂状花序となり、直径5~6 mmで淡緑色。唇弁は基部近くまで深く3裂し、中裂片は舌状、側裂片は糸状で6~7 mm、距は棍棒状で3~4 mm。

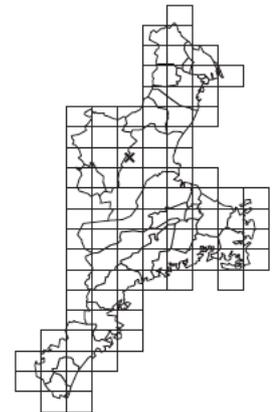
分 布： 本州 (千葉県以西)、四国、九州の暖温帯。県内では布引山地 (1902) での標本記録がある。

現況・減少要因： 日当たりの良い湿地に生育するが、湿地の開発や管理放棄による生育環境の変化、植生の遷移などで絶滅したと考えられる。

保護対策： 新たな生育地が発見された場合は、立ち入りを禁止し、生育環境の保護に努める必要がある。

特記事項： 標本は四日市市楠町中央公民館に収蔵。

文 献： 41.



(葛山博次)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ムカゴソウ

Herminium lanceum (Thunb. ex Sw.) J.Vuijk

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅 (EX)

旧県: 情報不足 (DD)

環境省: EN

近畿: A (CR)

選定理由: 既知の生育地点数は1であり、現存は確認できない。

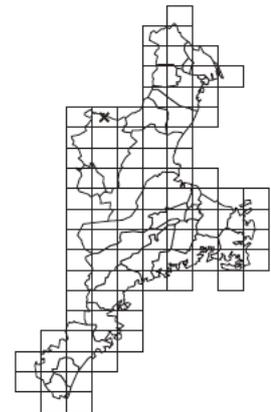
種の概要: やや湿った草地に生える。根は楕円形の球状。茎はやや細く、高さ20~45 cm、中部に3~5葉を互生する。葉は線形または広線形で鋭先頭、基部は茎を抱く。花は6~8月、淡緑色の小花を多数穂状につける。

分布: 国内では、北海道(西南部)、本州、四国、九州に分布する。県内では、伊賀市(1960)に生育していた記録がある。

現況・減少要因: 三重県レッドデータブック2005では情報不足(DD)として扱われた。その後調査が進められたが確認できず、絶滅したものと考えられる。その要因は不明である。

特記事項: 「伊賀地方産植物目録」(1960)の補遺にムカゴソウが記載され、産地は伊賀市石川である。標本は三重県立上野高校に収蔵されている。

文献: 69.



(葛山博次)

セイトカズムシ

Liparis japonica (Miq.) Maxim.

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅 (EX)

旧県: 情報不足 (DD)

環境省: —

近畿: 絶滅 (EX)

選定理由: 既知の生育地点数は1であるが、標本が得られてから90年ほどの間、新たな確認記録がないため絶滅と判断した。

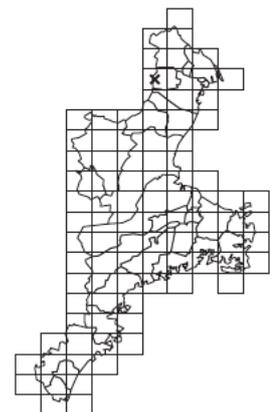
種の概要: 深山の林内に生える。葉は2枚、広楕円形、鈍頭、長さ6~12 cm、幅3~5 cm。花茎は直立し、高さ20~40 cm。6~8月に淡緑色または帯紫色の花をつける。

分布: 北海道、本州、四国、九州、朝鮮、中国東北部、アムールに分布。県内では菰野町から記録されている。

現況・減少要因: 絶滅の原因は不明。

保護対策: 自生地周辺は国定公園として保護されており、今後再確認の可能性も失われていると思われる。その際には生育地の保全が必要である。

特記事項: 標本は三重県総合博物館に所蔵されている。



(山本和彦)

ミズチドリ

Platanthera hologlottis Maxim.

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅 (EX)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: C (VU)

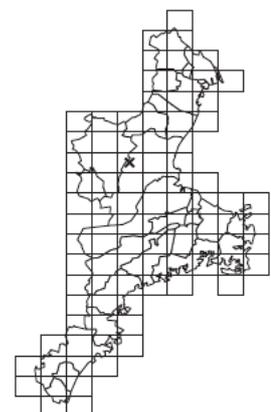
選定理由: 既知の生育地点数は5以下であるが、現在、確実な生育地は知られていない。

種の概要: 山間の湿地にはえる多年草。葉は線状披針形で下部のものは大きい。茎は50~90 cmになり6~7月に多数の白い花を穂状につける。

分布: 国外では朝鮮半島、中国東北部、シベリア。国内では北海道から九州。県内では伊賀市で記録がある。

現況・減少要因: いずれの記録も50~60年前のもので、ここ数十年は確認したという情報はない。植生遷移の進行の他、花穂が大きく目立つため、ハイカー等に採取され絶滅したものと思われる。

保護対策: 過去の生育地を中心に精査し、現況の把握を続けることが必要である。



(山路武夫)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

イヌマムカゴ

Platanthera iinumae (Makino) Makino

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅 (EX)

旧県: 絶滅 (EX)

環境省: EN

近畿: C (VU)

選定理由: 既知の生育地点数は3であり、現存は確認できない。

種の概要: 多年草。茎は高さ25~40 cm, 中部に2~3個の葉をつけ、上部には少数の苞葉がある。葉は長楕円形, 長さ10~15 cm, 巾2.5~4 cm。花期は7~8月。穂状に黄緑色の小花を多数つける。唇弁は舌状, 距は長さ1~1.5 mmで太くて短い。

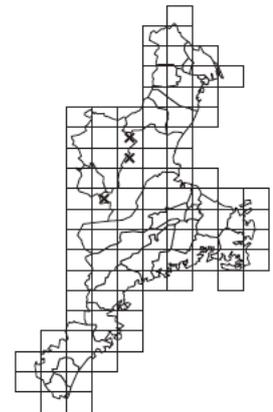
分布: 日本全土。国外では中国。暖温帯から冷温帯。県内では標本から伊賀市(1932), 名張市(1928), 布引山地(1902~1906)の標本記録がある。

現況・減少要因: 山地の林内に生育していたと思われるが, 山林伐採, 林道や登山道の整備など自生地の消失により絶滅したと考えられる。

保護対策: 自生が確認された場合は, 生育環境の保護に努める。

特記事項: 標本は四日市楠町中央公民館, 三重県立上野高校に収蔵。

文献: 41, 69.



(岡 与一)

サツマシダ

Ctenitis sinii (Ching) Ohwi

シダ植物 オシダ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県: 野生絶滅 (EW)

旧県: 野生絶滅 (EW)

環境省: EN

近畿: B (EN)

選定理由: 全国的に分布が限られているシダ植物で, 三重県はその北限にあたる。現在自生地で採集された株が栽培されているが, 野生では確認されていない。

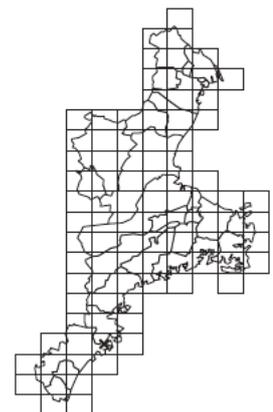
種の概要: 葉身の長さ60 cmほどになる常緑性シダ。葉柄や中軸には鱗片が密生し, よく目立つ。葉柄基部の鱗片は褐色で細長く, 上部や中軸につく鱗片は黒褐色で披針形。

分布: 三重県と九州南部。国外では中国南部, 朝鮮半島に分布。県内では尾鷲市賀田のヒノキ林での記録があり, 当地域が分布の北限となっている。1962年および1963年に採集された標本が残っている。

現況・減少要因: 1962年に賀田で発見されたが, その後マニアの乱獲により絶滅。以降現在まで確認情報はない。

特記事項: 自生地の栽培株が自生地周辺および尾鷲市内の山林内数か所に移植されており, 自然分布が攪乱されているため注意を要する。

文献: 56.



(山本和彦)

スズムシバナ

Strobilanthes oligantha Miq.

被子植物 [双子葉・合弁花] キツネノマゴ科(APGⅢ:同)

三重県: 野生絶滅 (EW)

旧県: —

環境省: —

近畿: A (CR)

選定理由: 既知の生育地点数は2以下で, 生育地は道路改修などにより現在は確認できない。

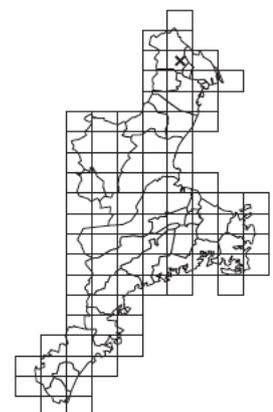
種の概要: 根茎から直立する茎を数本伸ばしてまばらに分枝。高さ40~80 cm。節や若い葉には白い長毛が生える。葉は対生し, 葉身は広卵形から三角状広卵形, 縁に粗い鋸歯がある。葉柄は1.5~5.5 cm。花は9~10月。枝先に無柄の花を数個頭状につける。花冠は淡紫色, 長さ3 cmほどで外面上方に軟毛があり, 筒部は曲がって横向きに咲く。午前中に咲き, 午後には萎む一日花である。

分布: 国内では本州(近畿地方以西), 四国, 九州に分布する。県内では, いなべ市に自生の記録がある。

現況・減少要因: 温帯の山林や湿潤な谷筋の林縁部・木陰に生育するが, 本種の自生が確認されたのは2007年であり, その後, 2010年ころまでは野生が見られていたが, 県内の生育地は林縁部で道路に接し, 改修工事で消滅し, 現在は生育が確認できない。

保護対策: 自生地周辺を定期的に観察し, 再発見に努めるとともに, 植栽された個体の存続に十分な配慮を行う。

文献: 58.



(葛山博次)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ヒモヅル

Lycopodium casuarinoides Spring

シダ植物 ヒカゲノカズラ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省：VU

近畿：A (CR)

選定理由： 既知の生育地点数は1であり、生育面積が狭い。

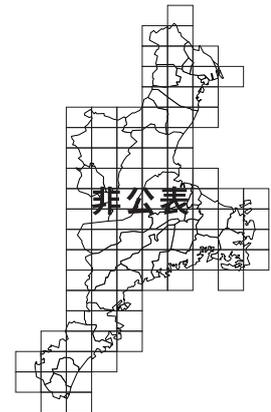
種の概要： 山地の疎林中に生育する、つる性の常緑シダ。茎の主軸は数mに達し、木の枝にからみつく。葉はまばらについて、茎に圧着する若い個体では開出。孢子嚢穂は枝の小枝の先端に1~3個頂生し、長さ1~4 cm、直径3~4 mmである。

分布： 本州（三重県、滋賀県、和歌山県、山口県）、九州。県内では紀州地域に分布し、本種の自生地北限である。

現況・減少要因： 土地造成や森林伐採が減少の要因であるが、観察のために人による踏みつけも圧力になる。

保護対策： 採集を防止するため山林所有者と連絡をとり、周囲の環境保全に努めている。

特記事項： 三重県指定希少野生動物植物種。



(花尻 薫)

アスヒカズラ

Lycopodium complanatum L.

シダ植物 ヒカゲノカズラ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：情報不足 (DD)

環境省：—

近畿：A (CR)

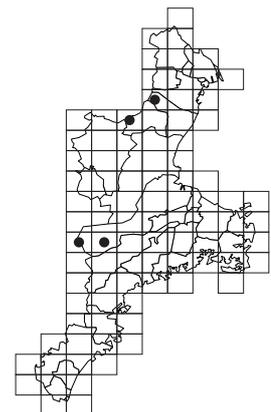
選定理由： 既知の生育地点数は4。個体数はきわめて少ない。

種の概要： やや日当たりの良い山地上部に生育する常緑性のシダ植物。主茎は小さい鱗片状の葉を4列に着けた紐状で、長く地を這う。小枝は扁平で表は緑色、裏は淡緑色、節が明らかである。小枝の先に柄のある孢子嚢穂を1~5個つける。アスヒ（アスナロ）の葉に見立てた和名である。

分布： 国内では北海道、本州、四国に分布。県内では鈴鹿市、松阪市、伊賀市で記録されている。

現況・減少要因： 鈴鹿市1、松阪市2、伊賀市1か所で記録されている。少なくとも鈴鹿市の山地で、数株ではあるが現在も生育している。温暖化による生育環境の変化が減少要因と考えられる。

保護対策： 現在の環境を保ちたい。



(市川正人)

ヒモラン

Lycopodium sieboldii Miq.

シダ植物 ヒカゲノカズラ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省：EN

近畿：A (CR)

選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、マニアや園芸業者等による採取圧が強い。

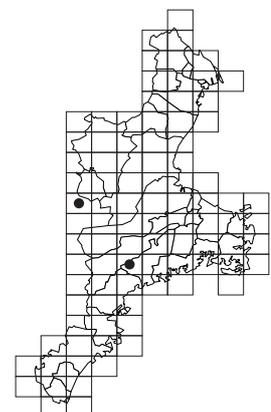
種の概要： ヒモ状の茎は叢生し、まばらに叉状に分岐して下垂し長さ50 cmに達する。葉は短い鱗片状で茎に圧着する。

分布： 朝鮮、中国、台湾に分布し、国内では千葉県から紀伊半島、四国（愛媛県）、九州に分布する。県内では名張市、大台町で記録がある。

現況・減少要因： 1970年以降確認されておらず、絶滅した可能性もある。

保護対策： 深山の巨木等に生育するため、森林伐採などの開発行為を避ける。生育地周辺の大掛かりな調査も必要。

文献： 80, 115.



(大洞浩一)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ヘゴ

Cyathea spinulosa Wall. ex Hook.

シダ植物 ヘゴ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省：

近畿：B (EN)

選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、個体数は非常に少ない。

種の概要： 木生の亜熱帯性シダ。茎は4 mをこえ、葉は長さ2 mをこえる。県内では茎の高さは2 mほどで、冬の寒波により葉が枯れることもある。

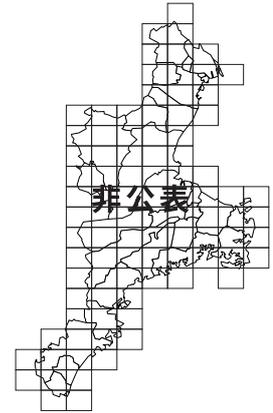
分布： 伊豆諸島、小笠原、紀伊半島南部、四国南西部、宮崎県南部、長崎県五島列島、熊本県南部、鹿児島県南部から沖縄。国外では台湾、中国大陸南部、インドシナ半島に分布。県内では紀州地域で記録がある。

現況・減少要因： 1959年尾鷲市九鬼で発見され、1971年にも尾鷲市内で採集されている。これらの自生地の株はいずれも1個体で、発見後移植、栽培されたため、現地には存在しない。その後、紀宝町で確認され、さらに2001年には尾鷲市で再発見されている。これらの株は今のところ健在である。

保護対策： マニアによる乱獲を防ぐため、生育地の公表を避けることが必要。また生育地は造林地であるため、森林施業による生育環境の攪乱が懸念される。施業にあたっては注意が必要で、とくに皆伐は避けるべきである。

特記事項： 三重県指定希少野生動物植物種。

文献： 56, 129.



(山本和彦)

ヒメムカゴシダ

Monachosorum arakii Tagawa

シダ植物 コバノイシカグマ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：EN

近畿：C (VU)

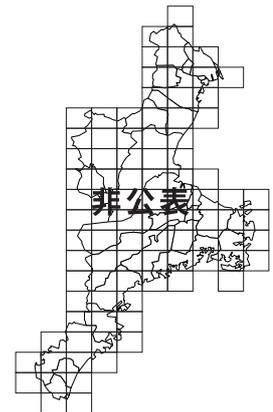
選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、どの生育地も個体数は激減している。今後、新産地が加わる可能性は低い。また採取圧も強い。

種の概要： 葉身の長さ70cmほどになる常緑性シダ。中軸に大きな無性芽(むかご)が数個つき、これによる繁殖もみられる。

分布： 日本固有種。福井、三重、和歌山、京都、山口、徳島、高知、熊本、鹿児島県の各府県に分布。県内では尾鷲市が唯一の生育地。

現況・減少要因： 尾鷲市内で5地点ほど生育地が確認されているが、乱獲により減少した自生地もある。また斜面崩落等の自然災害で大きな群生地が消失したところもみられる。さらに最近では、ニホンジカによる食害も顕著で、個体数は確実に減少している。

保護対策： 自然災害による消失は防ぎようがない面があるが、マニアによる採取の防止も難しい面がある。現況では、生育地の公表を避ける等の消極的な対策しかない。また生育地周辺では今後、砂防堰堤の造成や新しい林道工事等の開発も考えられるため、不注意な改変が成されないよう注意を要する。



(山本和彦)

タキシダ

Antrophyum obovatum Baker

シダ植物 シシラン科(Christenhusz et al. 2011:イノモトソウ科)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省：EN

近畿：A (CR)

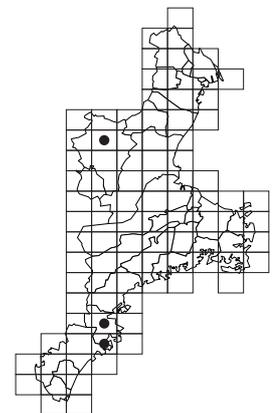
選定理由： 既知の生育地点数は5以下であるが、現在、生育が確認できるのは1か所である。

種の概要： やや陰湿な林内の溪流近くの岩上などに生ずる常緑性シダ。葉柄は普通長さ8cm以下、基部に鱗片がある。葉身は、倒卵形。

分布： 本州(山梨県以南)、四国、九州。県内では伊賀市、尾鷲市、熊野市で記録がある。

現況・減少要因： 伊賀市と尾鷲市では生育が確認できない。また、現存する熊野市の生育地でも園芸目的の乱獲により、極度に減少している。なお、山野、林野の荒廃により本種の生育に適した環境は減少しており、やがて絶滅の可能性もある。

保護対策： 一部の個体を生育地の近くの場所へ移して保護していくことも検討する必要がある。また、尾鷲市の生育地一帯には、現存の可能性があるので精査が必要である。



(花尻 薫)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ヒカゲアマクサシダ

Pteris tokioi Masam.

シダ植物 イノモトソウ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省：EN

近畿：A (CR)

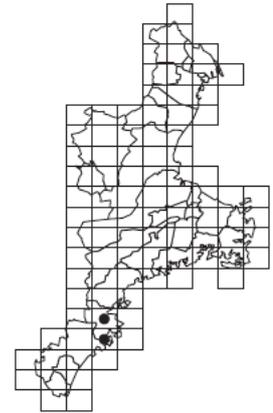
選定理由： 既知の生育地点数は2。現在、生育が確認できるのは1か所のみ。

種の概要： 常緑性シダ。一見、オオバノハチジョウシダに似るが葉柄・葉軸は褐色。小羽片は羽軸まで切れこむことはない。葉は1 m前後に達する。

分布： 本州（三重県）、九州（宮崎県、鹿児島県）、県内では紀州（尾鷲市、熊野市）に分布する。

現況・減少要因： 尾鷲市の生育地では現在は確認できない。また、熊野市の自生地は、周囲が崩落の危険性もあり、凹地にある本種の減少が懸念される。

保護対策： 生育地の周囲の樹木が倒壊したり、枯死すると絶滅の恐れがある。樹林全域の保護が重要課題である。また、尾鷲市の生育地一帯の精査が必要である。



(花尻 薫)

ヒメイノモトソウ

Pteris yamatensis (Tagawa) Tagawa

シダ植物 イノモトソウ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省：EN

近畿：C (VU)

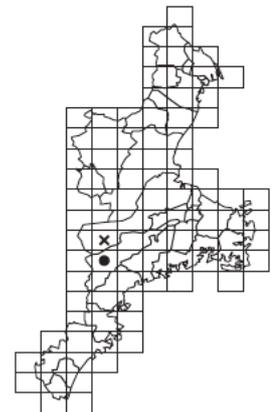
選定理由： 既知の生育地点数は2であり、生育地における個体も少数である。

種の概要： イノモトソウやキドイノモトソウに似るが、前者とは側羽片基部が中軸に流れる翼がないこと、後者とは羽片に偽脈がないことで区別できる。

分布： 中国、国内では本州（三重県、奈良県）に分布し、県内では松阪市、大台町で記録がある。山林中の石灰岩でできた岩壁の隙間に着生する。

現況・減少要因： 大台町1か所。過去には松阪市1か所でも記録があるが、消滅した。生育地・個体数ともに少なく、繁殖力も弱い。樹林の伐採や道路建設、土砂崩落が減少要因。

保護対策： 上記の減少要因となる行為を避けることはもちろんであるが、地域個体群の遺伝的特性を保持しつつ繁殖率を高める研究が必要である。



(市川正人)

オオタニワタリ

Asplenium antiquum Makino

シダ植物 チャセンシダ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省：VU

近畿：C (VU)

選定理由： 既知の生育地点数は1で、個体数も多くはない。また、今後新たな生育地が発見される可能性は低い。

種の概要： 常緑性。根茎は塊状、多数の葉を放射状に出す。葉身は単葉、広披針形、全縁で鋭頭、基部はくさび形、革質、無毛、鮮緑色で光沢があり、下面は淡色、大きいものでは長さ1 m、幅15 cmに達する。葉柄は短い。

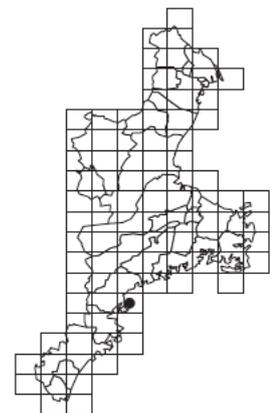
分布： 伊豆諸島、紀伊半島、四国（徳島県東南端）、九州（西、南部）、沖縄。朝鮮済州島、台湾、香港に分布。県内では紀北町に生育する。

現況・減少要因： 紀北町大島に群落がみられる。ここが県内で唯一の生育地となっている。自生地は、斜面の崩落がしばしば発生し、土砂による埋没が危惧される。マニアによる採取も懸念される。

保護対策： 大島は、国指定の天然記念物として保護され、許可のない上陸は禁止されているが、パトロールの強化や斜面崩落防止の対策が必要。

特記事項： 三重県指定希少野生動植物種。

文献： 134.



(山本和彦)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

オオカグマ

Woodwardia japonica (L.f.) J.Sm.

シダ植物 シシガシラ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：

近畿：B (EN)

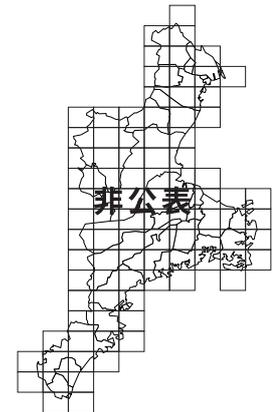
選定理由： 既知の生育地点数は1, 2個体に減少した。

種の概要： 常緑性のシダで根茎は太く短く、濃褐色から赤褐色の鱗片を密につけるやや大形のシダ。葉身は狭長楕円形から卵状披針形で2回羽状中裂する。孢子嚢群は細長く、裂片中肋に沿って並ぶ。

分布： 国内では紀伊半島, 中国地方西部, 四国(西・南部), 九州の平地から低山地のやや乾燥した林下に生育。国外では済州島, 台湾, 中国, ビルマ, インドネシアに分布。県内では名張市の1か所に生育しているが, 他にも生育地が期待できる。

現況・減少要因： 現在のところ名張市の1か所だけである。土砂崩壊, 植生遷移や採取が減少要因となる。

保護対策： 個体数がごくわずかとなり, 採取防止策が大切である。また, 台風等の災害により崖崩れがあると絶滅する心配があり, 防護柵等の対策が必要である。



(南 正祝)

アタシカカナワラビ

Arachniodes oohorae H.Itô

シダ植物 オシダ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省：CR

近畿：B (EN)

選定理由： 既知の生育地点数は1であり, 生育地は不安定な環境である。

種の概要： ホソバカナワラビ群のものであるが, 葉身は3~4回羽状。ホソバカナワラビに比べ羽片の柄も長く, ソーラスはごく小さく辺縁近くに位置し頂羽片もそれほど顕著でない。

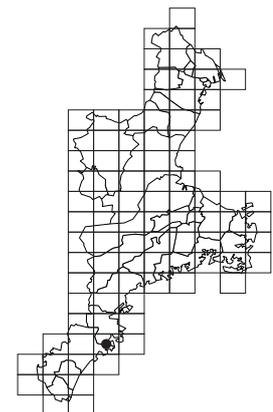
分布： 熊野市のみ生育が確認されている。

現況・減少要因： 台風時の洪水, 森林の伐採により激減している。

保護対策： 森林の適切な管理が急がれる。

特記事項： 山林伐採前に, 一時緊急移植を試みて成功した事例がある。

文献： 38.



(大洞浩一)

ハガクレカナワラビ

Arachniodes yasui-inouei Sa.Kurata

シダ植物 オシダ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省：VU

近畿：B (EN)

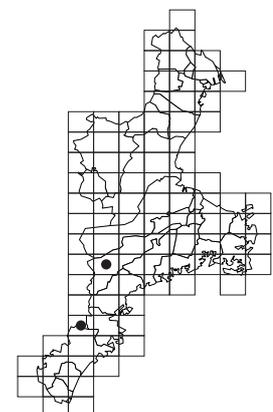
選定理由： 既知の生育地点数は2. 生育面積は狭く, 個体数も少ない。今後も新たな個体群が発見される可能性が低い。

種の概要： 常緑性で, 比較的にまれに山地の林床に生じる。側羽片は上部に向けてしだいに短くなり, 頂羽片というべきまとまりはない。オニカナワラビに似るが, 葉質はより薄く, やわらかい革質, 裂片の先の棘は長さ約1 mmでのぎ状に顕著に伸びる。

分布： 紀伊半島, 山口県, 四国, 九州。県内では尾鷲市又口川上流, 大台町に分布。

現況・減少要因： 尾鷲市と大台町に2か所生育する。植林の林床および林縁にあり, 植林の伐採などで減少あるいは消滅の可能性もある。また, 採取されることも考えられる。

保護対策： 開発や森林の伐採を避け, また園芸採取されないよう生育地の保護が必要である。



(山脇和也)

維管束
植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

イズヤブソテツ

Cyrtomium fortunei J.Sm. var. *atropunctatum* (Sa.Kurata) K.Iwats.

シダ植物 オシダ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省：—

近畿：A (CR)

選定理由： 既知の生育地点数は2であり、もともと個体数の少ないシダである。

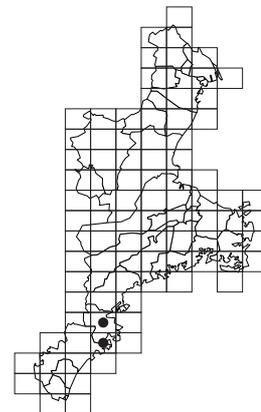
種の概要： ツクシヤブソテツとヤブソテツの中間の外形を呈する。羽片は8~19対、中部まで同幅でそれから先が細まる。羽片の基部は楔形で耳状突起が出ない。包膜は中心が黒点状。

分布： 国内では本州（静岡県以西）、四国、九州に分布し、県内では尾鷲市と熊野市に記録されている。

現況・減少要因： 1990年以降の記録がない。林道、砂防堰堤等の建設による生育地の環境破壊によるものと考えられる。

保護対策： 絶滅の可能性があり、現地周辺の調査が急務。林道開設、森林伐採等の開発行為は避ける。

文献： 115. 80.



(大洞浩一)

オオミネイワヘゴ

Dryopteris lunanensis (H.Christ) C.Chr.

シダ植物 オシダ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省：CR

近畿：C (VU)

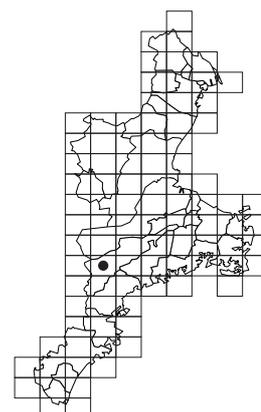
選定理由： 既知の生育地点数は1であり、個体数は少ない。

種の概要： 常緑性。イワヘゴに似るが、羽片の切れ込みは深く、浅裂から中裂、羽片基部ではほとんど全裂となり、小羽片ができることもある。孢子嚢群は羽軸の両側に羽軸寄りに1列に並び、包膜はほぼ全縁。

分布： 本州（奈良県、三重県）の山地で斜面の林中に生じるが、産地が局限され個体数も少ない。県内では大台町からの標本記録がある。

現況・減少要因： 大台町のヒノキ林内に生育するが、個体数は数個体しか確認されていない。ニホンジカによる食害が顕著で、以前に比べ個体数は激減している。また、マニアの乱獲による絶滅も危惧される。

保護対策： ニホンジカへの対策や治山工事による影響を避けることが必要。また森林施業にあたっては生育地の環境を破壊しないような対策が必要である。



(山本和彦)

アツギノヌカイトチシダマガイ

Dryopteris simasakii (H.Itô) Sa.Kurata var. *paleacea* (H.Itô) Sa.Kurata

シダ植物 オシダ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：—

環境省：—

近畿：準 (NT)

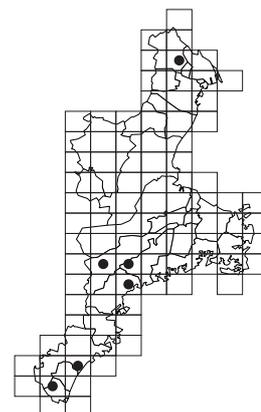
選定理由： 既知の生育地点数は10以下。個体数は各生育地ともにきわめて少ない。

種の概要： やや乾燥した低山地に生育する常緑性のシダ植物。葉はやや厚い紙質で、通常3回羽状深裂する。葉柄には膜質褐色で、縁の突起が不明瞭な鱗片が多く着く。羽片や小羽片の柄は極短く、軸にほぼ直角に着く。ソーラス（孢子嚢群）の位置は中間生。ヌカイトチシダマガイよりもサイゴクベニシダ的になるが、サイゴクベニシダは通常2回羽状複生でソーラスの位置は辺縁生。

分布： 国内では東海以西の本州、四国に分布。県内では桑名市、大台町、紀北町、御浜町、紀宝町で記録がある。

現況・減少要因： 桑名市多度町1、大台町旧宮川村2、紀北町旧紀伊長島町1、御浜町1、紀宝町2か所と比較的安定した環境下に生育している。植生遷移が減少要因。

保護対策： 植生遷移の進行に注意をすることである。



(市川正人)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

マルバヌカイタチシダモドキ

Dryopteris tsugiwoi Sa.Kurata

シダ植物 オシダ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：CR

近畿：

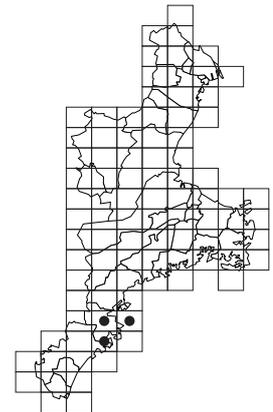
選定理由： 既知の生育地点数が5以下である。各地点の個体数はきわめて少ない。

種の概要： 常緑性のシダでマルバベニシダとヌカイタチシダモドキの中間的な特徴を持つ。羽片は中軸にほぼ直角につき、柄はヌカイタチシダモドキに似て短い。胞子嚢群はマルバベニシダに似て軸寄りにつく。鱗片は披針形全縁で茶褐色から黒褐色である。

分布： 日本固有種。紀伊半島、四国、九州で記録がある。県内では尾鷲市内数か所と熊野市1か所で生育が確認されている。

現況・減少要因： 尾鷲市（小原野、曾根、九鬼崎、三木浦）と熊野市1か所の林下に点在する。森林伐採が減少要因となる。

保護対策： 個体数がきわめて少なく他のベニシダ類と混在して目立たないので、森林伐採時に注意が必要である。



(市川 正人)

ホソバショリマ

Thelypteris beddomei (Baker) Ching

シダ植物 ヒメシダ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省：

近畿：B (EN)

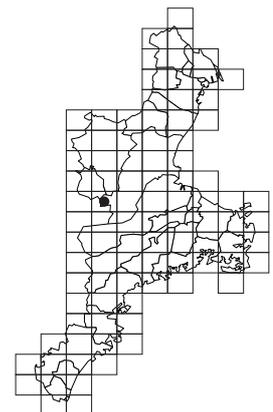
選定理由： 既知の生育地点数は1であり、個体群も1つしかなく、この個体群がなくなれば県内から絶滅する。

種の概要： 夏緑性、根茎は匍匐する。葉身は細長く、羽片は葉身下部のものが小さくなり、最下部では痕跡的になる。裂片の側脈は単状で葉縁に達しソーラスは裂片の辺縁寄りにつく。

分布： 国内では本州（静岡県以西）、四国、九州に分布し、韓国、中国、台湾や東南アジアに広く分布している。県内では伊賀市で記録がある。明るい湿った場所を好むが、県内では落葉低木林内に生育している。

現況・減少要因： 伊賀市の標高900 m付近に生育する1個体群のみである。マニア等の採取、遷移の進行による環境変化により減少している。

保護対策： マニア等の採取に対する防止策をたてる。遷移の進行を止める保全策を行う。



(南 正祝)

ツクシャワラシダ

Thelypteris hattorii (H.Itô) Tagawa var. *nemoralis* (Ching) Sa.Kurata

シダ植物 ヒメシダ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：

近畿：A (CR)

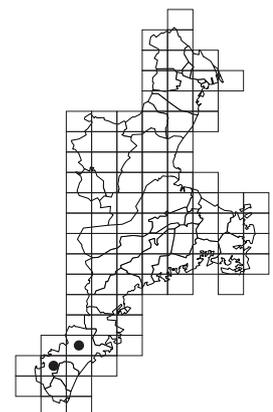
選定理由： 既知の生育地点数は2であり、いずれの生育地でも個体数は少ない。マニア等の採取、環境の変化や開発によって容易に絶滅する。

種の概要： ヨコグラヒメワラビとは変種の段階で区別されている。葉柄が淡緑色で、葉柄から中軸、羽軸の表面に短毛があり裏面は無毛ということで母種から区別されている。

分布： 国内では本州（岐阜県以西）、四国、九州に分布し、県内では熊野市で記録がある。山地の林下に生育する。中国がタイプ山地である。

現況・減少要因： 熊野市2か所。マニアによる採取、森林伐採や気候変動による環境変化、道路等の建設による生育地破壊で減少している。

保護対策： マニア等の採取に対する防止策をたてる。生育地周辺の森林伐採、生育地にかかる道路建設等の開発行為は避けるべきである。



(南 正祝)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ヤクシマウラボシ

Crypsinus yakuinsularis (Masam.) Tagawa

シダ植物 ウラボシ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省：EN

近畿：C (VU)

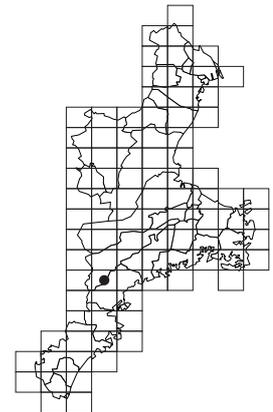
選定理由： 既知の生育地点数は1であり、現況は不明である。

種の概要： 夏緑性。根茎は横走し、鱗片を密につける。葉柄は細く、長さ4~8 cm、無毛で光沢がある。葉身は羽状深裂し、側裂片は3~5対、線状披針形、鈍頭、幅8~14 mm。葉質はやや薄い紙質。胞子嚢群は裂片のやや辺縁寄りに並び、円形、径約2 mm。

分布： 屋久島のほか徳島県、高知県、和歌山県、三重県に産する。コケに覆われた樹幹や岩上に着生する。県内では唯一紀北町内からの標本記録がある。

現況・減少要因： 本種は、紀北町赤羽川奥の尾根筋岩上で、1976年に樋口雄一氏により発見された。その後数年は確認されていたが、生育地が深山ということもあり、近年の情報は無い。しかしながら、発見当時の生育状況の聞き取りから判断して、自生地およびその周辺で、個体数は維持されているものと思われる。

保護対策： 今後の精査が必要。生育地の公表を避けるとともに、自生地周辺の伐採作業を避けることが必要。



(山本和彦)

イワオモダカ

Pyrrhosia hastate (Thunb. ex Houtt.) Ching

シダ植物 ウラボシ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：絶滅 (EX)

環境省：—

近畿：A (CR)

選定理由： 標本記録による既知の生育地点は5か所。現状不明で絶滅したものと考えられていたが、最近になり大台町で新産地が発見された。個体数は50未満と思われる。

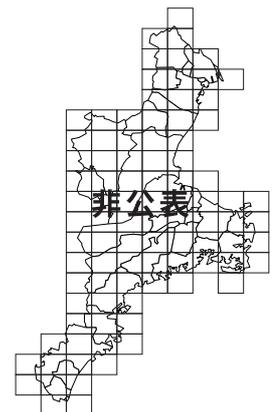
種の概要： 常緑性の多年草。根茎は短く這い接近して葉をつける。葉は長さ10~40 cmで、葉柄が葉身より長い。葉身は3~5裂する。葉裏は褐色の星状毛で蜜に覆われる。

分布： 北海道から九州、朝鮮半島南部に分布。県内ではいなべ市、名張市、松阪市での記録があるが、現状不明であった。2006年に大台町で発見され、さらに2013年にも同町内の別な地点で確認されている。

現況・減少要因： 岩場や樹幹状に生育。古くから園芸目的で栽培され、野生で発見されればすぐ採取されてしまうため、常に絶滅の危機に瀕している種である。

保護対策： 自生地の公表は避けるなど、人為による採取圧の排除が必要であるが、乱獲を止めるのは難しい。

文献： 39, 73.



(山本和彦)

キレハオオクボシダ

Ctenopteris sakaguchiana (Koidz.) H.Itô

シダ植物 ヒメウラボシ科(Christenhusz et al. 2011:ウラボシ科)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省：EN

近畿：C (VU)

選定理由： 既知の生育地点数は1であり、個体数は100未満と少ない。

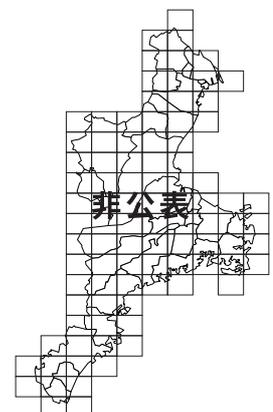
種の概要： 小形の常緑性シダ。葉は長さ4~8 cm、幅5 mm程度、羽状に全裂し、両面にまばらに長毛をつける。葉脈は明瞭。

分布： 日本固有種。秩父地方、山梨県、長野県、静岡県、紀伊半島(奈良県、三重県)、九州(五家荘)に分布。森林内の樹上や岩上にコケと混生する。県内では、大台町の深山に生育する。

現況・減少要因： 大台町宮川の1地点しか確認されていない。個体数は60個体ほどと少なく、同一箇所集中して生育。過去には付近で500個体ほどの群落もみられたが、乱獲等により消失。

保護対策： 生育地は国立公園内にあるため、開発等の危険性は少ない。それよりもマニアによる採取が致命的である。保護に関しては、生育地の公表は避ける、パトロールを強化する等の手だてが必要である。

文献： 37, 94.



(山本和彦)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ヒロハヒメウラボシ

Grammitis nipponica Tagawa et K.Iwats.

シダ植物 ヒメウラボシ科 (Christenhusz et al. 2011:ウラボシ科)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：情報不足 (DD)

環境省：CR

近畿：A (CR)

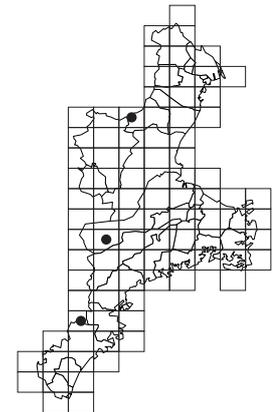
選定理由： 既知の生育地点数は3以下であり、最近では1か所現認されているだけである。

種の概要： 陰湿な岩上や樹幹に着生する。ヒメウラボシに似ているが、それより大形で葉は5~10 cm。葉身が広披針形である。胞子嚢に長い毛が目立つ。

分布： 本州（静岡県以西）、四国、九州に点在し、伊豆七島にも分布する。県内では、亀山市関町、尾鷲市に記録があるが、最近飯高町で確認されている。

現況・減少要因： 自生地周辺の植生遷移による環境変化が減少の要因と考えられる。

保護対策： 原生林の伐採をなくし、保護することが大切である。



(南 正祝)

トウヒ

Picea jezoensis (Siebold et Zucc.) Carrière var.
hondoensis (Mayr) Rehder

裸子植物 マツ科 (Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省：—

近畿：—

選定理由： 既知の生育地点は5以下。過去の個体数の減少率が高い。近年は野生獣による食害が著しく、更新が困難になっている。

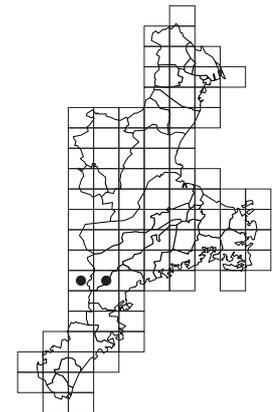
種の概要： 高山性常緑針葉樹。樹高約30 m。幹の直径は1 mにもなる。葉は線形で長さ10~20 mm程度。葉身は扁平で、片面に白い気孔帯が2条ある。球果は枝先に下垂する。

分布： 日本固有種。国内では本州中部の亜高山帯と紀伊半島の台高・大峰山系の標高約1,500 m以上に分布。県内では大台町の高標高地に限定。

現況・減少要因： 大台ヶ原山（正木ヶ原ほかの斜面）にコメツガ、ウラジロモミ、ヒノキ、イチイなどと混生。近年、生育地では、台風等の災害やニホンジカの食害により個体数の減少が著しい。

保護対策： 野生獣の食害を防ぎ、現存する母樹と後継樹（稚幼樹）の保全に努める必要がある。県内の生育地は国有林で大杉谷生態系保護地域に含まれている。

特記事項： 紀伊半島の個体群は我が国における分布南限。



(武田明正)

イブキ (イブキビャクシン)

Juniperus chinensis L.

裸子植物 ヒノキ科 (Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：情報不足 (DD)

環境省：—

近畿：—

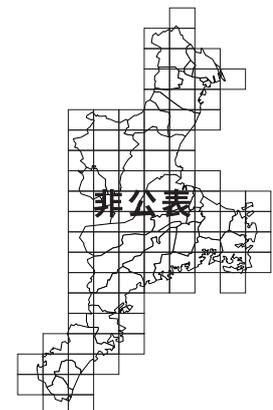
選定理由： 古い標本記録（1910年代、1951年）しかなく情報不足とされていたが、近年、大紀町で新たな産地が確認された。個体数は5以下である。

種の概要： 常緑の高木性針葉樹。主幹はねじれ、太い枝が多数出て、不規則な卵形の樹冠となる。樹皮は赤褐色で縦裂し、薄片となつてはげる。葉には、針形と鱗形の2型があり、老木ではほとんど鱗形葉のみとなる。

分布： 本州（岩手県以南）、四国、九州、沖縄、朝鮮、中国に分布。県内では大台町、伊勢市、大紀町で記録されている。1933年に津市一志町波瀬で採集された標本もあるが、これは栽培されていたものと思われる。

現況・減少要因： 主幹の上部が枯れている個体もみられ、生育状況は良好ではない。また周囲には幼木も見当たらないため、自生地の存続が危惧される。

保護対策： 盆栽用などに採取されるなど、採取圧が高いため、自生地の詳細は非公表とする。



(山本和彦)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ミヤマビャクシン

Juniperus chinensis L. var. *sargentii* A.Henry

裸子植物 ヒノキ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省：—

近畿：—

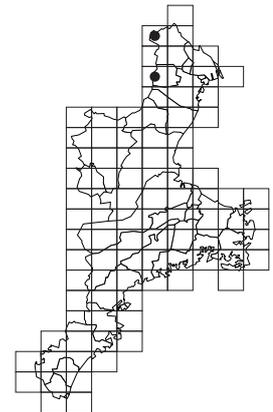
選定理由： 既知の生育地点は5以下。自生する個体の多くは園芸用に採取され、現存する個体数はわずかである。

種の概要： 低木性常緑針葉樹。幹は屈曲して地上を這い、枝は斜上して開出。高さは1 m以下。葉には針形（幼木）と鱗形（老木）の2型がある。

分布： 国内では北海道、本州、四国、九州の山地。国外では樺太、南千島、朝鮮半島にも分布。県内では菰野町（鈴鹿山脈御在所岳ほか）、いなべ市などに分布記録がある。

現況・減少要因： 採取が容易にできるところに生育していた個体の多くは、盆栽用などに採りつくされたものと思われる。現在は近寄ることが困難な岩壁などに残るのみである。

文献： 81, 135.



(武田明正)

ヤチヤナギ

Myrica gale L. var. *tomentosa* C.DC.

被子植物 [双子葉・離弁花] ヤマモモ科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省：—

近畿：A (CR)

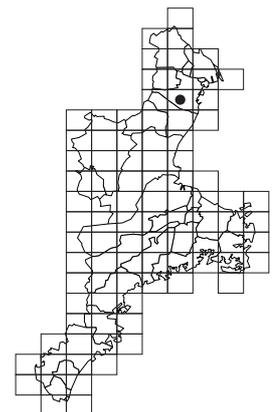
選定理由： 既知の生育地点数は1。生育する個体数はおよそ50個体。

種の概要： 湿地に生える落葉低木。高さ30~80 cm。葉は倒披針形から倒卵状長楕円形。長さ2~5 cm、幅0.8~2 cm。先はやや丸く上部に少数の鋸歯がある。基部は楔形。両面に軟毛散生。油点が散在する。隔離分布する種として知られている。

分布： 国内では北海道、本州（三重県以北）、国外では樺太、千島、朝鮮半島北部、東シベリア域。県内では四日市市西坂部町の御池沼沢にのみ生育する。

現況・減少要因： 自生地に隣接した湿地で実施された圃場整備事業と丘陵地の市街地化で湿地への水の供給が減少し、生育地の乾燥化が進んだこと、ならびに遷移の進展により、繁茂する高茎植物の被圧が強まったことにより衰退した。

保護対策： 国指定天然記念物（御池沼沢植物群落）として保護されているが、定期的に植生遷移の進行に伴う被圧を抑制する必要がある。



(武田明正)

ヤマヤナギ

Salix sieboldiana Blume var. *sieboldiana*

被子植物 [双子葉・離弁花] ヤナギ科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：—

環境省：—

近畿：—

選定理由： 既知の生育地点数は3。個体数は少ない。

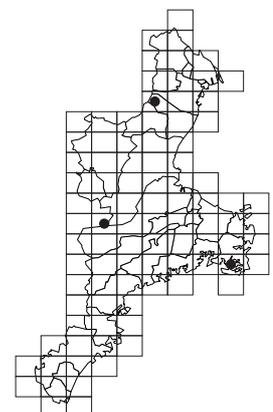
種の概要： 山地や丘陵に生え、生育環境によって高さ3~4 mになり、株立ちする落葉低木。雌雄別株。葉は互生し葉身は長さ8~14 cm、幅2.5~5 cmの長楕円形、波状鋸歯がある。葉裏に通常毛はない。葉柄は1~2 cm。花は3月下旬に葉の展開と同時に咲く。腺は雌雄ともに1個、雄しべは1~2本、離生、または合着する。子房には綿毛が密生する。

分布： 日本固有種。近畿以西の本州、四国、九州に分布。県内では亀山市、津市、志摩町で記録がある。

現況・減少要因： 亀山市安坂山町1、津市美杉町1、志摩市（旧阿児町）1か所で記録されており、少なくとも野登山上部で雌株・雄株あわせて数本の生育を確認している。現在安定した生育状況にあるが、林道整備工事にもなう伐採が減少要因。

保護対策： 現在の環境を維持し、林道工事の際には移植を計画することである。

特記事項： 近縁種との同定が難しいが、新産地が期待される。



(市川正人)

維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

フモトミズナラ

Quercus crispula Blime var. *mongolicoides* (H.Ohba) Seriz.

被子植物 [双子葉・離弁花] ブナ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県:

環境省:

近畿:

選定理由: 既知の生育地点数は1であり、分布がきわめて限定的である。

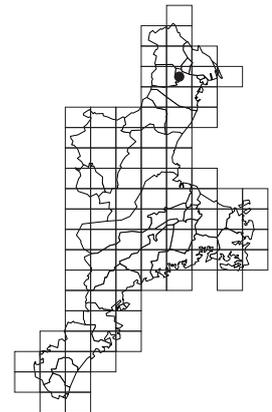
種の概要: おもに低山地の、乾燥してやせた場所に生える落葉高木。中国大陸などに分布するモンゴリナラと非常によく似ており、かつてはモンゴリナラとされたが、現在ではコナラの亜種とされる。一方で、ミズナラの変種とする見解もある。葉の長さは10~27 cmでミズナラに似る。開花期は4月。堅果は1年成で、開花した年の秋に熟す。堅果はコナラやミズナラのような縦に細長の形状ではなく、その幅に比べて高さは低く約2 cm。

分布: 日本固有種。東海東部と北関東に隔離分布する。県内では桑名市でのみ記録がある。

現況・減少要因: 桑名市の1か所のみ。もともと限られた分布をしている上、低地に生育するため、開発・伐採等により減少したと考えられる。

保護対策: 局所的に生育する種のため、現在の生育地の保全が重要である。

文献: 48, 107, 113.



(平山大輔)

ソハヤキミズ

Pilea swinglei Merr.

被子植物 [双子葉・離弁花] イラサク科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県:

環境省: VU

近畿: B (EN)

選定理由: 既知の生育地点数は1 (生育面積は約10 m²)。200個体ほど生育していたが、軟弱な植物でもあり、減少傾向にある。

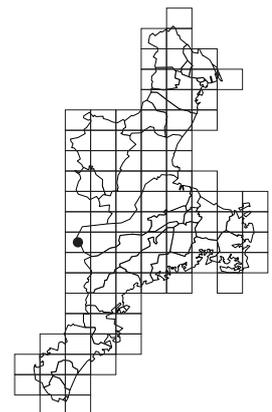
種の概要: 茎は10 cm以下で葉とともに無毛である。葉は広卵形で鈍頭鈍鋸歯縁、長さ1.2~2.5 cm、葉柄は葉身と同長、互生し茎上部に着く。花は8月、1 cmほどの柄に集散花序をつける。雌雄同株で雄花 (花被片4, 雄しべ4) と雌花 (花被片2) がある。

分布: 国内では本州 (和歌山県)、四国 (徳島県)、九州 (宮崎県) に分布するが、各分布域における生育地点は限られ、個体数も少ない。県内では松阪市飯高町で記録されている。

現況・減少要因: 松阪市飯高町が現在のところ唯一の生育地であるが新産地の発見が期待される。乾燥化など生育環境の変化に影響され易い。

保護対策: 生育地の乾燥化に注意しながら現在の環境を維持する。

文献: 12.



(市川正人)

ツチトリモチ

Balanophora japonica Makino

被子植物 [双子葉・離弁花] ツチトリモチ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省:

近畿: C (VU)

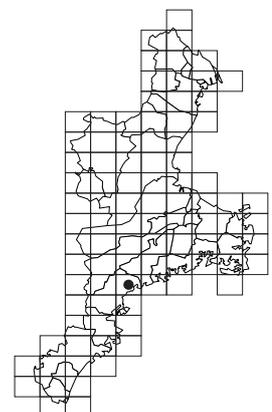
選定理由: 既知の生育地点数は1であり、未知の生育地もわずかと思われる。

種の概要: 山林内に生える寄生植物。雌雄異株であるが、雄株は発見されていない。ハイノキ属の根に寄生する。茎は高さ5~10 cm、頂端に花穂をつける。花穂は橙赤色で長さ3~6 cm、幅2~3 cm。花期は10~11月。

分布: 国内では本州 (三重県、和歌山県)、四国、県内では紀北町からの記録がある。

現況・減少要因: 本種は、紀北町の山林内で1976年に発見されている。自生地ではクロバイの根に寄生しているとのことである。山奥深くということで、最近の情報は不明であるが、当時の生育状況から推測して生育地およびその近辺で個体数は維持されているものと思われる。

保護対策: 生育地は深山であるため、開発等の危険性は少ないが、周辺の伐採等には注意が必要である。



(山本和彦)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

シコクフクジュソウ

Adonis shikokuensis Nishikawa et Koji Ito

被子植物 [双子葉・離弁花] キンポウゲ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: —

環境省: VU

近畿: —

選定理由: 既知の生育地点は5以下であり、開発圧が強い。

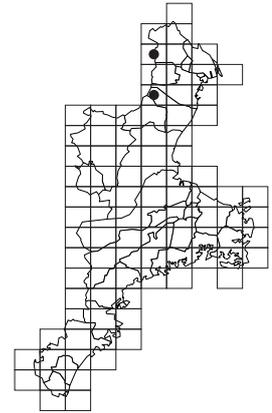
種の概要: 一見するとエダウチフクジュソウに見えるが、果托と葉の下面が無毛である点が異なる。集合果は小さく球形で、そう果の毛は短い。葉の色は濃緑色。

分布: 日本固有種。本州(紀伊半島)、四国、九州。三重県では鈴鹿山系北部と南部の石灰岩地域に生育。

現況・減少要因: 2か所とも個体数は多くなく、とくに北部の1か所は土建業者による採石や観賞用採取、撮影のための踏みつけなどにより個体数が激減し絶滅寸前になっている。

保護対策: 北部では採石を早急に中止か場所の変更をさせる。人や動物が入らないように防護柵を作る。

特記事項: その他、ステゴビル、エゾスズラン、セリモドキ、フジワラサイコ、フキヤミツバ、オオキヌタソウなど、絶滅危惧I類の種が11種以上生育している県内でも狭い特異な場所なので、特別保護区にするか、天然記念物に一部地域を指定すべきである。



(山脇和也)

コウヤハンショウヅル

Clematis obvallata (Ohwi) Tamura

被子植物 [双子葉・離弁花] キンポウゲ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: CR

近畿: 準 (NT)

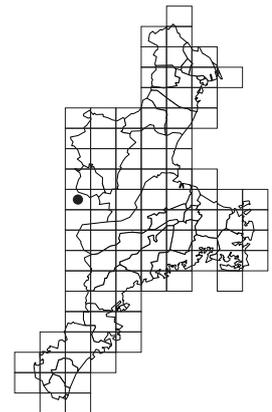
選定理由: 既知の生育地点数は1で、およそ50未満の個体数しかない。

種の概要: ハンショウヅルに似るが、花柄の小苞より先の部分が短くて小苞が花のすぐそばにくる。小苞は大きく、長さ13~20 mm、広楕円形から倒卵形。萼片は紫褐色。

分布: 紀伊半島の山地に分布する。県内では、名張市赤目渓谷からの記録がある。

現況・減少要因: 県内での確実な生育地は、個体数は少ないが、赤目渓谷が唯一となっている。

保護対策: 渓谷および周辺は室生赤目青山国定公園に指定されている。そのため森林伐採等大きな開発行為はないが、遊歩道の整備やマニアによる採取で渓谷内の貴重な植物がいくつか減少している。本種も、不注意で消失してしまわないよう注意が必要である。



(山本和彦)

オキナグサ

Pulsatilla cernua (Thunb.) Bercht. et J.Presl

被子植物 [双子葉・離弁花] キンポウゲ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅 (EX)

環境省: VU

近畿: A (CR)

選定理由: 既知の生育地点数は6以下であるが、最近の情報が皆無に近く、ごく近い将来に絶滅の危険性がきわめて高い。

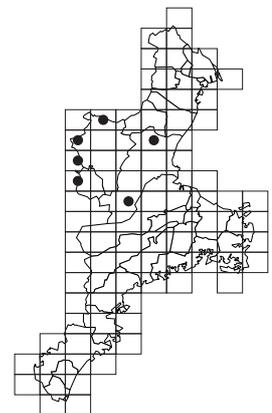
種の概要: 日当たりのよい草地に生える多年草。4~5月頃10 cm前後の花茎を出して、暗紫色の鐘形花を下向きに開く。果実は多数が球状に集まってつき、花柱は伸長して長さ3 mmの白毛を密生する。名の由来は果実の状態による。

分布: 朝鮮半島、中国の暖帯から温帯。国内では本州から九州。県内では伊賀市(1921~1956)、名張市(1956)、津市(1914)、松阪市(1974)で記録がある。

現況・減少要因: ススキ草原の火入れ、草刈等の管理作業がなくなり、高茎草本ばかりの草原になり、枯れ草が集積して富栄養化が促進されたために、本種を含めた草丈の低い草本が生育できなくなった。

保護対策: 既知の生育地において、何らかの要因で裸地化や低茎草原が復活すれば、埋土種子からの発芽が期待される。また、ススキ草原の管理がなされれば復活することが期待される。

特記事項: 標本は三重県総合博物館、三重県立上野高校に収蔵。



(加田勝敏)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ヒキノカサ

Ranunculus ternatus Thunb var. *ternatus*

被子植物 [双子葉・離弁花] キンポウゲ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: VU

近畿: A (CR)

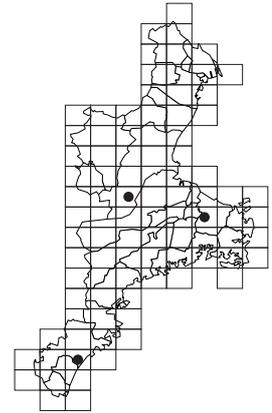
選定理由: 既知の生育地点数は5以下であり、開発圧が強い。

種の概要: 河口周辺の湿地に自生する茎の高さ10~20 cmの多年草。根元から数個の紡錘状の太った根と細い根ができる。花期は4~5月。

分布: 国内では関東以西の本州(埼玉, 静岡, 岡山, 三重, 大阪), 四国(徳島, 香川), 九州, 沖縄。県内では中勢地域(津市美杉町), 南勢地域(伊勢市, 志摩市), 紀州地域(熊野市, 御浜町)に分布。

現況・減少要因: 生育地は河口部に多く、増水による長期間の水没があれば絶滅のおそれがある。紀州の自生地では河川の増水で上流域の水田, 家屋への被害が毎年あり, 河川工事が行われている。

保護対策: 紀伊半島ではきわめて重要な自生地であり, 河川改修や開発による影響を防止し現状を保護しなければならない。



(花尻 薫)

タマカラマツ

Thalictrum watanabei Yatabe

被子植物 [双子葉・離弁花] キンポウゲ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: VU

近畿: C (VU)

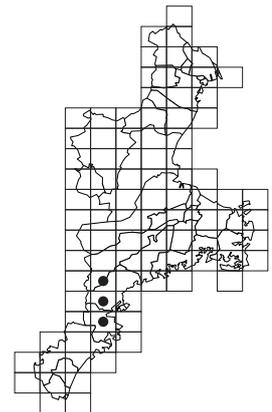
選定理由: 既知の生育地点数は5以下である。

種の概要: ミヤマカラマツに似るが, 岩上に生え, 全体が小さく, 無毛で高さは20~30 cm, ミヤマカラマツでは花柱は短く0.5 mm程度であるが, 本種では柱頭も含めて1~1.5 mm。また, 根は球状または紡錘状にふくれ, 匍枝はない。花期は6~8月。

分布: 国内では本州(近畿地方, 静岡県, 愛知県), 四国, 九州。県内では尾鷲市(1934)と大台町大杉谷(1956, 1966)で古い記録がある。2009年に大台ヶ原での生育が確認された。

現況・減少要因: 大台ヶ原頂上稜線付近の樹林内の岩地や大杉谷に生育する。環境の変化(伐採や台風などによる被害)により, 減少する可能性がある。園芸目的で採取されれば消滅の可能性もある。

特記事項: 標本は三重県総合博物館, 京都大学総合博物館に保管されている。



(山脇和也)

オニバス

Euryale ferox Salisb.

被子植物 [双子葉・離弁花] スイレン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: VU

近畿: —

選定理由: 生育の確認されている地点は5であるが, 近年の発芽はない。

種の概要: 直径1 m以上にもなる円形の浮葉をつける一年草。8~10月に閉鎖花と紫色の開放花を咲かす。種子はゼリー状のものに包まれ, 浮遊する。植物体全体に多数の鋭い棘がある。

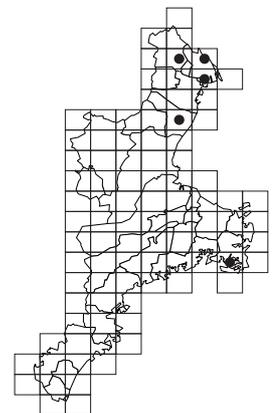
分布: 本州(宮城県以南)から九州。県内では桑名市, 津市, 志摩市で記録がある。池沼や用水路など, どちらかという富栄養な水環境に生育する。

現況・減少要因: 桑名市の用水路では1987年から2004年まで継続的に発芽しており, 津市の溜池では2004年に50年ぶりの発芽が見られた。志摩市の池沼における記録は50年以上前のものである。いずれの生育地でも, 環境そのものに大きな変化はないが, 用水路の泥上げや池干し等をしなくなったことで, 発芽する条件が整わないものと思われる。

保護対策: 本種の保全を目的として用水路の整備を行うことで, 埋土種子の発芽を促すとともに, 地元有志により保護栽培されている個体の野外復帰を進める。また, その際には新芽を採食するアカミミガメの駆除もあわせて行う必要がある。

特記事項: 三重県指定希少野生動物植物種。

文献: 88。



(清水善吉)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ジュロウカンアオイ

Asarum kinoshitae (F.Maek. ex Kinoshita) T.Sugaw.

被子植物 [双子葉・離弁花] ウマノスズクサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: CR

近畿: A (CR)

選定理由: 既知の生育地点数は1であり、およそ250未満の個体数しかない。

種の概要: 萼筒は長く、中部がくびれる。萼筒と萼裂片の接合部が漏斗状に萼筒の内側に反り込む。花柱の付属体は深く2裂し、萼裂片には小突起がある。

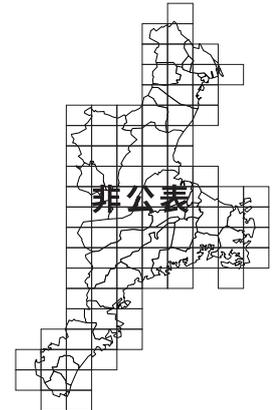
分布: 日本固有種。尾鷲市の山中に生育する。

現況・減少要因: 本種は1973年に木下慶二氏により発見され、1976年に新種として発表されている。今のところ、尾鷲市が唯一の生育地となっている。発見当時は、斜面に多くの個体が生育していたそうだが、山草業者やマニアにより乱獲され激減した。現在も乱獲が絶えず、インターネットでの販売も行われている。

保護対策: 三重県指定希少野生動植物種に指定され個体管理が実施されている。また2013年には尾鷲市の天然記念物に指定され、パトロールも実施されているが、今後更なるパトロール強化が必要である。

特記事項: 尾鷲市指定天然記念物、三重県指定希少野生動植物種。

文献: 62.



(山本和彦)

スエヒロアオイ

Asarum dilatatum (F.Maek.) T.Sugaw.

被子植物 [双子葉・離弁花] ウマノスズクサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: CR

近畿: —

選定理由: 既知の生育地点数は1で、250未満の個体数しかない。また、地域固有性が著しく強く、マニアによる採取圧もある。

種の概要: 全形はヒメカンアオイに近いが、萼筒が深い皿形になって、先に向かって開いていることで区別される。

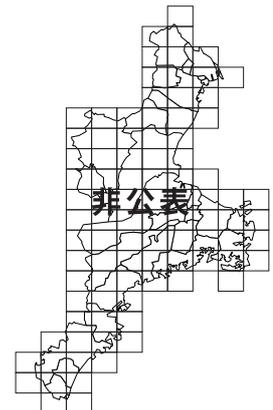
分布: 日本固有種(鈴鹿山脈が基準産地)。本州の近畿地方、中部地方に分布。県内では亀山市、鈴鹿市で記録がある。

現況・減少要因: 地域固有性があるため、マニアによる採取圧もきわめて強い。また、山頂まで自動車道が完成したこと等も原因となって、生育環境が悪化している。

保護対策: 現時点では、分布情報等については公表しないで静観する以外に良策はない。また、林道改修等の土木工事は、市の関係部署が連携をとって当該種の生育に影響がないかよく検討のうえで実施する必要がある。

特記事項: 標本は三重県立上野高校および大阪市立自然史博物館に収蔵。

文献: 71.



(加田勝敏)

ベニバナヤマシャクヤク

Paeonia obovata Maxim.

被子植物 [双子葉・離弁花] ボタン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: VU

近畿: A (CR)

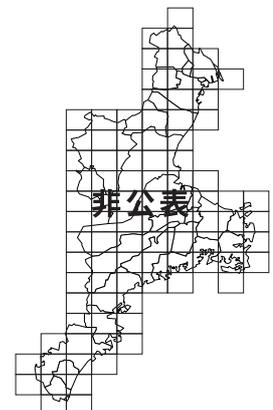
選定理由: 既知の生育地点数は1であり、採取圧が強い。

種の概要: 温帯の落葉広葉樹林下や林縁の草地などに生える多年草。高さ40~60 cm。葉は2回3出複葉。花は淡紅色。茎の先端に1個つき径4~5 cm、5月に咲く。めしべの柱頭は強く外に曲がる。葉の裏面には毛があるが、毛のないものをケナシベニバナヤマシャクヤクという。

分布: 国内では北海道、本州、四国、九州。国外では朝鮮半島、中国(東北)、樺太に分布。県内では中勢地域からの記録がある。

現況・減少要因: 県内の分布は、今のところ中勢でしか確認されておらず、個体数もわずかである。園芸目的の採取により危機的な状況にある。

保護対策: 山野草愛好家による乱獲の被害をなくすことは難しい。生育地の公表は避けるべきである。



(山本和彦)

維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

アゼオトギリ

Hyperium oliganthum Franch. et Sav.

被子植物 [双子葉・離弁花] オトギリソウ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅 (EX)

環境省: EN

近畿: A (CR)

選定理由: 既知の生育地点は10以下。1966年の大台町宮川産の標本記録以降、確認情報がなく、絶滅したと考えられていた。最近になり2地点で新産地が発見されたためCRに登載された。

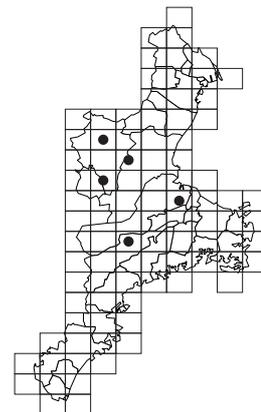
種の概要: 日当たりのよい湿地に生える多年生草本。茎は叢生し、よく分枝する。葉は無柄でわずかに茎を抱く。葉の全面に明点が散在し、縁には黒点が密に並ぶ。花期は7~9月、花はまばらにつき、直径10~13 mm、果実は丸味を帯びる。

分布: 関東以西の本州、四国、九州、朝鮮南部に分布する。県内では伊賀市、津市、大台町、多気町、伊勢市から記録されている。

現況・減少要因: 伊賀市、津市、大台町からは最近の確認情報は無い。伊勢市では数年前に発見されたが、その後現状不明である。現在確実な自生地は多気町の櫛田川水系のみで、10個体前後の開花個体が認められる。定期的な草刈り等の河川管理により個体群が維持されてきたと考えられる。

保護対策: 自生地周辺の定期的な草刈りが必要。

文献: 34. 53. 57. 69. 139.



(山本和彦)

タチスズシロソウ

Arabidopsis kamchatica (DC.) K.Shimizu et Kudou subsp.
kawasakiana (Makino) K.Shimizu et Kudou

被子植物 [双子葉・離弁花] アブラナ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: EN

近畿: A (CR)

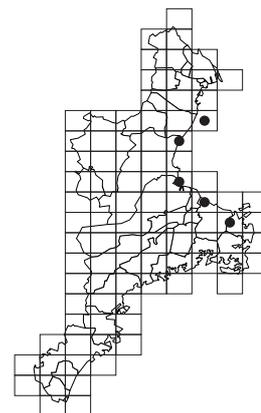
選定理由: 既知の生育地点数は10以下であり、各地点の個体数は50未満である。

種の概要: 海岸や湖岸の砂地に生える全体が緑白色の越年草。茎は高さ15~40 cmで直立し、大きいものでは下部から分枝する。枝は比較的少なく、茎とともに無毛である。根出葉が目立ち、倒披針形で1.5~4.5 cm、浅く羽裂し毛がある。茎葉はへら状線形、全縁で毛はない。4~5月に白色で花弁の長さ4~8 mmの花をつける。果実は長さ2~4 cmで毛はない。

分布: 日本固有種。東海地方、近畿地方、四国に分布。県内では四日市市、鈴鹿市、津市、松阪市、明和町、伊勢市で記録されている。

現況・減少要因: 急激に生育域や個体数が減少し、現在の確認地点は明和町の2か所である。海岸線後退にともなう護岸工事や海岸開発などが減少要因となる。

保護対策: 生育環境である海岸堤防背後(堤外)にある砂地の保全と遷移の抑制が必要である。



(市川正人)

ヒロハコンロンソウ

Cardamine appendiculata Franch. et Sav.

被子植物 [双子葉・離弁花] アブラナ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: —

近畿: —

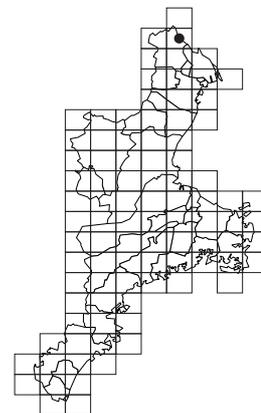
選定理由: 既知の生育地点数は1であり、現在は確認できない。

種の概要: 山地の谷川の水辺に生える多年草。茎は高さ50 cm程度で、葉は5~7個の小葉からなり、コンロンソウより葉先に丸みがある。葉柄の基部は耳があり茎を抱く。花期は5~7月。

分布: 国内では本州中北部。県内ではいなべ市北勢町の谷川沿いの湿地に生育している。

現況・減少要因: 1か所に20数個体しかなく、生育地の遷移が進んだり、また林道整備が行われたりして、今では生育の確認ができていない。

保護対策: もとの生育地近くの林道や河川改修の時、事前の詳細な調査が必要である。



(山脇和也)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

マルバノキ

Disanthus cercidifolius Maxim.

被子植物 [双子葉・離弁花] マンサク科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省：—

近畿：A (CR)

選定理由： 既知の生育地点数は3で、個体数は少ない。

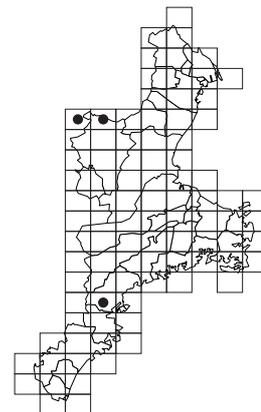
種の概要： 高さ2~3 mの落葉低木。葉身は円心形、長さ5~10 cm、幅6~11 cm、先は短くとがり、基部は心形。花期は10~11月、長さ3~4 mmの花柄の先に2個の花をつける。花弁は暗赤色で長さ約6 mm。

分布： 日本固有種。国内では本州（中部地方以西）、四国の日当たりのよい岩地に分布。県内では伊賀市、紀北町の標本記録がある。

現況・減少要因： 伊賀市のもは2地点で確認されている。一方、紀北町では、銚子川上流の溪流沿いの岩場で1975年に発見されているが、1980年頃、投棄された土砂のため埋没枯死。自生地を含む溪流は台高山系を源とする溪谷の一部で、奥が深い。したがって今後の精査により生育地周辺で発見される可能性は高い。

保護対策： 本種の自生が予想される谷筋等での治山工事では、生育地を破壊しないような配慮が必要である。

文献： 57.



(山本和彦)

トキワマンサク

Loropetalum chinense (R.Br.) Oliv.

被子植物 [双子葉・離弁花] マンサク科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省：EN

近畿：B (EN)

選定理由： 既知の生育地点数は1。その個体数も20以下で、老木化している。

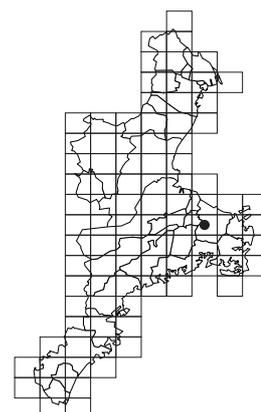
種の概要： 高さ3~6 mとなる常緑小高木。葉はやや厚く、葉身は卵形または楕円形、長さ1.5~4 cm、幅0.8~2 cm。花は4月末~5月開花、黄白色。

分布： 国内では三重県、熊本県、静岡県、国外では台湾、中国大陸中南部、ヒマラヤ東部。県内では伊勢市に分布。

現況・減少要因： 生育地周辺は比較的よく保全されており、開発等の心配はない。しかし、一部の個体が最近の自然災害により風倒した。

保護対策： 生育地での健全な世代交代を促す対策も必要である。

特記事項： 全国の既知の生育地点数は3。静岡県湖西市が本種の北東限となる。



(岡 与一)

チャボツメレンゲ

Meterostachys sikokianus (Makino) Nakai

被子植物 [双子葉・離弁花] ベンケイソウ科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省：VU

近畿：A (CR)

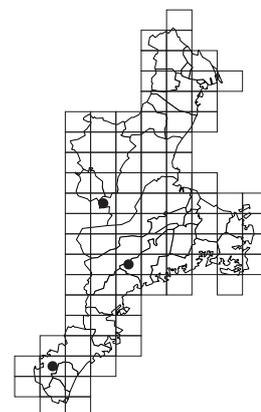
選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、採取圧が強い。

種の概要： きわめて限定された岩石の上の蘚苔類などに混じり、点在して自生する。根茎が短く、先端にロゼットをつくる。ロゼット状の葉は円柱状線形。長さ7~12 mm。花期は7~9月で紅白色を帯びる。

分布： 国内では紀伊半島（奈良、三重）、四国、九州。県内では伊賀地域（名張市）、南勢地域（大台町）、紀州地域（熊野市、御浜町）に分布。

現況・減少要因： 大台町では現存するが、名張市の生育地は70年前の記録であり現状は不明。周期的な採取が懸念される。

保護対策： 生育地での採取防止策として、定期的な調査が必要である。



(花尻 薫)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

アズマツメクサ

Tillaea aquatica L.

被子植物 [双子葉・離弁花] ベンケイソウ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: NT

近畿:

選定理由: 既知の生育地点数は2であり、生育地間の個体の交流はない。

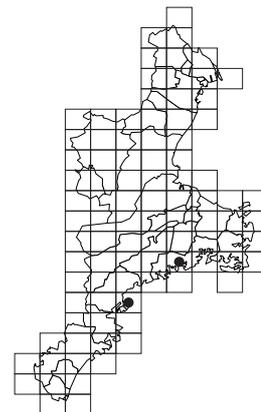
種の概要: 水田や海浜泥地に生える一年草。高さ2~5 cm。茎は基部で分枝し束生する。葉は線状披針形で、鋭頭、長さ約5 mm、幅約1 mm。花期は4~8月。花は4数性、長さ1.5 mmほど、茎の上部葉腋に単生し、柄はない。

分布: 国内では北海道、本州、国外では北半球の温帯に分布。分布は広いが、近年激減している種である。県内では南伊勢町と尾鷲市の2地点からのみ記録がある。

現況・減少要因: 南伊勢町、尾鷲市のいずれも海跡湖の岸辺で、2005年に発見されている。現環境が維持されれば持続していくものと思われる。両生育地とも今のところ開発計画はない。

保護対策: 県内の海跡湖周辺は、海辺の塩湿地と淡水の湿地生の植物が混在し、興味深い植物相となっている。県内すべての海跡湖の現況を把握し、保全策を講じることが急がれる。

文献: 144.



(山本和彦)

キイハナネコノメ

Chrysosplenium album Maxim. var. *nachiense* H.Hara

被子植物 [双子葉・離弁花] ユキノシタ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県:

環境省:

近畿: B (EN)

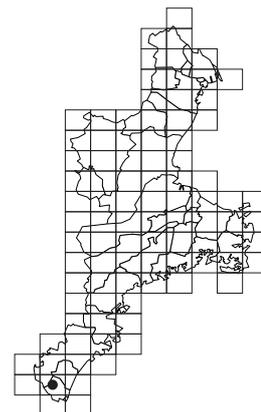
選定理由: 既知の生育地点は1か所である。個体数は少ない。

種の概要: 水の流れ落ちる滝の周辺の様な所に生育する。ハナネコノメに似るが、萼片は円頭形で短く、準直立。雄しべは萼片より短い。花糸は白色で、裂開前の葯は暗赤紫色。

分布: 日本固有種。本州紀伊半島。三重県では2013年に紀宝町で確認された。

現況・減少要因: 今の所、紀宝町の林道のそばの水の流れ落ちる斜面のみである。台風の後の出水や洪水、林道の改修工事などで、消滅の可能性がある。紀伊半島でも稀な存在だが、くまなく調べれば、生育場所が存在するかもしれない。

保護対策: 林道の改修工事などの時、注意を要する。



(山脇和也)

チョウセンキンミズヒキ

Agrimonia coreana Nakai

被子植物 [双子葉・離弁花] パラ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県:

環境省: VU

近畿: B (EN)

選定理由: 既知の生育地点数は1。個体数はきわめて少ない。

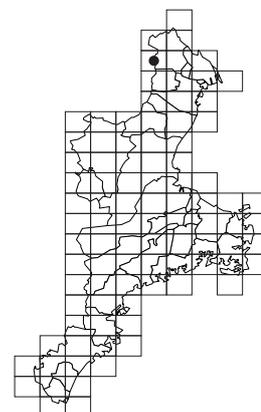
種の概要: 山地草原や高原の林縁に生える多年草。全体に長軟毛が多く、分枝は少ない。葉は奇数羽状複葉で小葉は3~5枚で薄く、菱状卵形で丸味を帯び、鈍鋸歯縁である。托葉は扇形で大きい。花は7~9月で、ヒメキンミズヒキに比べて大きく、雄しべの数が多い。果実はヒメキンミズヒキより大きく、キンミズヒキにほぼ同大である。

分布: 国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内ではいなべ市北勢町の高所だけに記録されている。

現況・減少要因: 生育地域ではヒメキンミズヒキが比較的多い中で、混生して散在し、個体数はきわめて少ない。登山道沿いに生育するため、踏みつけによる減少が懸念される。

保護対策: 生育環境の維持と踏みつけをできる限り避ける。

特記事項: キンミズヒキ、ヒメキンミズヒキに類似する。形態の特徴を総合的にみて同定する必要がある。



(市川正人)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

キンキマメザクラ

Prunus incisa (Thunb.) Loisel. var. *kinkiensis* (Koidz.) H.Ohba

被子植物 [双子葉・離弁花] : パラ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: —

近畿: —

選定理由: 既知の生育地点数は5以下であり、個体数もきわめて少ない。

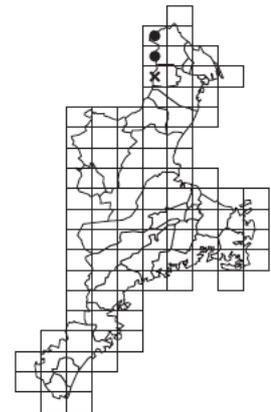
種の概要: 日本海側の山地に多く、太平洋側では石灰岩山地の露岩上に生える5~7 m になる落葉小高木である。葉は長さ5~6 cm、幅2~5 cmの倒卵形から広倒卵形で先は尾状に長く伸び、縁には欠刻状の重鋸歯がある。3~5月に白色から淡紅色、径1.5~2 cmの花をつける。萼筒は長さ7~10 mmで細長く鐘形である。萼片は全縁で縁は有毛。

分布: 日本固有種。長野県、富山県、石川県、福井県、愛知県、近畿地方、中国地方に分布。県内ではいなべ市藤原町・北勢町、菰野町で記録されている。

現況・減少要因: 現在、いなべ市北勢町1か所で確認されている。この生育地では北東斜面に6本、谷間に10本ほどの成・老木をみるだけである。露出石灰岩上に生育しており崩壊や採石が減少要因となる。

保護対策: 石灰岩採掘が近くまで及んでいる。藤原岳周辺は石灰質で植物相は多様であり、この観点に立った生態系の保全が必要である。

文献: 143.



(市川正人)

イヌハギ

Lespedeza tomentosa (Thunb.) Siebold ex Maxim.

被子植物 [双子葉・離弁花] マメ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: VU

近畿: A (CR)

選定理由: 既知の生育地点数は5以下であり、生育条件が明らかに悪化し個体数は減少している。

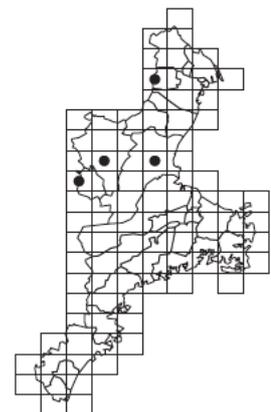
種の概要: 多年草。高さ150 cm、茎はやや木化している。花は枝先に多数つき、黄白色、長さ1 cm程度。葉は3個の楕円形の小葉からなり、中央の頂小葉は長さ3~6 cm。植物全体に黄褐色の軟毛がある。花期は7~9月である。

分布: 国内では本州、四国、九州、沖縄、国外では東シベリア、中国、台湾、インド、ヒマラヤの熱帯から冷温帯。県内では菰野町、津市、伊賀市、名張市などに分布する。

現況・減少要因: 本種の生育環境は、丘陵地から山地の河川敷やその周辺の日当たりのよい砂地の草地であり、容易に土地の改変が行われ、生育地が消失している。また、河川敷などの多目的利用により生育地が減少している。

保護対策: 生育環境となる河川敷の砂地の保全、高水敷にあつては、植生の遷移により退行することのないよう、草刈りなどの人的管理が必要である。

文献: 69.



(葛山博次)

オオバクサフジ

Vicia pseudo-orobus Fisch. et C.A.Mey.

被子植物 [双子葉・離弁花] マメ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: —

近畿: C (VU)

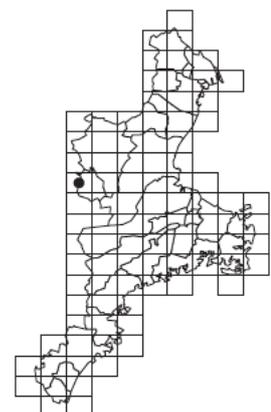
選定理由: 既知の生育地点数は1であり、個体数は50未満である。

種の概要: 山麓や野原に生える多年草。茎は蔓状で稜があり、ほとんど毛はない。小葉は2~5対、洋紙質で長さ2~6 cmで軸の先は巻きひげとなる。托葉は歯牙のある扇形である。8~10月頃、13~15 mmの青紫色の花を開く。果実は無毛扁平で長さ2~3 cm、幅4~5 mm、数個の種子を持つ。

分布: 国内では北海道、本州、四国、九州。国外ではアジア北東部に分布。県内では名張市だけに記録されている。

現況・減少要因: 名張市の1か所のみで確認されている。生育地が川の土手と畦を兼ねたところであるため強度な草刈りや護岸工事が減少要因となる。

保護対策: 適度な草刈りを持続し、現在の環境を維持する必要がある。



(市川正人)

維管束植物

蕨類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

クロカンバ

Rhamnus costata Maxim.

被子植物 [双子葉・離弁花] クロウメモドキ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省:

近畿: C (VU)

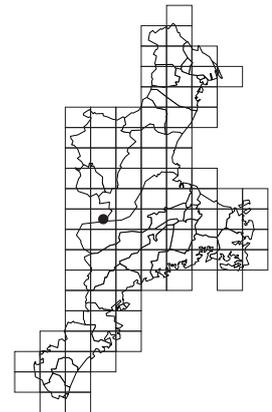
選定理由: 既知の生育地点数は1. 生育する個体数が少なく、未知の生育地も少ないと思われる。

種の概要: 落葉低木または小高木. 高さ7~8 m, 枝はやや太く平滑. 対生につく葉は長楕円形で短柄をもつ. 長さ8~17 cm, 幅4~9 cm. 側脈は平行して17~23対, 裏面に隆起する. しばしば石灰岩地に生える.

分布: 日本固有種. 本州, 四国, 九州の山地や岩石地に分布. 紀伊半島では大台ヶ原山系に分布が知られ, 県内では, 津市美杉町 (三重大学演習林の標高800 m近くの岩石地) で生育が確認されている.

現況・減少要因: 林業開発にともなう伐採, 植生遷移の進行による被圧, 植食獣による食害などにより個体数が減少している.

保護対策: ニホンジカ等の植食野生獣の適正管理が必要である.



(武田明正)

カラスシキミ

Daphne miyabeana Makino

被子植物 [双子葉・離弁花] ジンチョウゲ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県:

環境省:

近畿: 準 (NT)

選定理由: 既知の生育地点数は3. 総個体数は50未満. 分布上注目される.

種の概要: 山地林内に生育する常緑小低木(1 m以下). 葉は倒披針形で, 長さ4~12 cm, 幅1~2.5 cmで全縁, 表の葉脈は凹み, 裏に出る. 柄はない. 6月頃, 枝の先端に, 先が4裂する長さ約5 mmの花を数個つける.

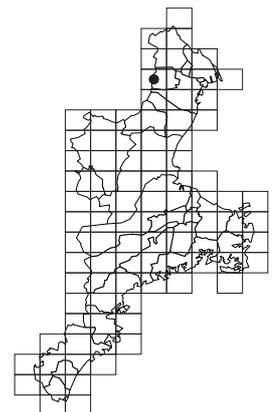
分布: 日本固有種. 北海道, 本州 (隠岐を含む鳥取県以北の日本海側). 県内では菰野町の山地で記録されている.

現況・減少要因: 菰野町の3か所に計30個体ほどが生育している. 斜面崩壊が減少要因となる.

保護対策: 生育地は豪雨による土砂流出, 斜面崩壊の発生が予想される. 生育環境を考慮した移植が方策の一つである.

特記事項: ジンチョウゲやコショウノキに類似する.

文献: 145.



(市川正人)

コウヤグミ

Elaeagnus numajiriana Makino

被子植物 [双子葉・離弁花] グミ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 情報不足 (DD)

環境省:

近畿: C (VU)

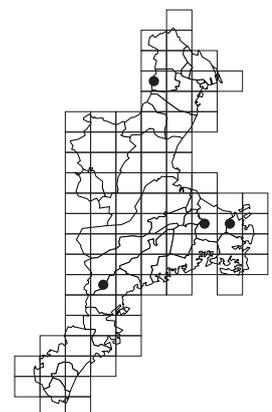
選定理由: 既知の生育地点数は4. 個体数はきわめて少ない.

種の概要: 山地のやや明るい林下や林縁に生える落葉低木. 若枝は赤褐色の鱗状毛で覆われる. 葉身は長さ3.5~5 cm, 幅1.5~2 cmの楕円状から卵形, 質は厚い. 表裏ともに鱗状毛であるが枝の下部では星状毛に移行する. 5~6月に下垂した淡黄白色の花を1~2個葉腋につける. 萼筒は6 mm弱である. 果実は広楕円形で7~8月に熟す.

分布: 日本固有種. 本州の紀伊半島, 四国. 県内では菰野町, 伊勢市, 大台町旧宮川村で記録されている.

現況・減少要因: 県内の記録は上記の通りであるが, 少なくとも伊勢市南西部の個体は2011年の標本があり, 2.5 mの成木であることから, 現在も生育していると思われる. 植生遷移と森林伐採が減少要因.

保護対策: 森林伐採時には注意を払い, 希少種として残す方策が必要である.



(市川正人)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

サクラスミレ

Viola hirtipes S.Moore

被子植物 [双子葉・離弁花] スミレ科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省：—

近畿：C (VU)

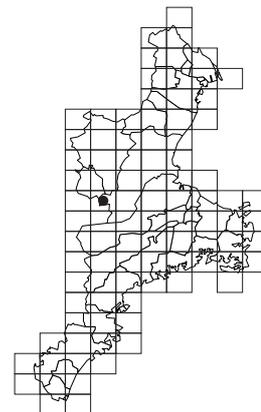
選定理由： 既知の生育地点数は1であり、生育地の範囲も狭い。

種の概要： 山地の明るい草原に生育する多年草。葉は長卵形で長さ3~6 cm、長い柄がある。花柄や葉柄の下部には長い軟毛がある。花は淡紅紫色で5月頃咲く、花弁の先は凹む。

分布： 国外では朝鮮半島、中国東北部。国内では北海道から九州。県内では伊賀市で記録がある。

現況・減少要因： 室生火山群に属する伊賀市の山地で確認されている。しかし、生育環境である明るい草地は減少している。

保護対策： 生育地の環境保全のため草刈り等の管理が必要である。



(山路武夫)

ヒメキカシグサ

Rotala elatinomorpha Makino

被子植物 [双子葉・離弁花] ミソハギ科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：—

環境省：CR

近畿：—

選定理由： 既知の生育地点数は1。沈水状態で生育するため、個体数は不明。国内で現存が確認できる唯一の個体群と思われる。生育環境の悪化が著しい。

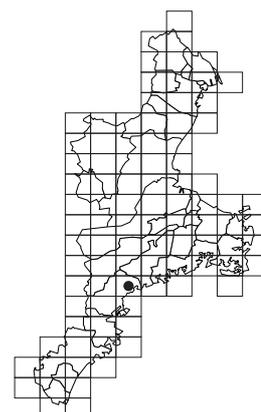
種の概要： 水湿地に稀に生育する一年草。県内の自生地では沈水状態で生育する。茎は地面を這い、枝は直立して高さ4~7 cmになる。葉は対生し、倒卵状楕円形から円形、先は円形、無柄、長さ3~10 mm、幅1.5~4 mm。萼筒は短い円筒形で4稜があり、長三角形の4裂片があり、裂片の先は尖る。花後に萼筒が宿存し花柱が約2 mmある点があり、萼筒が宿存せずに花柱が約0.5 mmのキカシグサとのよい区別点になる。

分布： 国内では、関東、近畿、四国に分布。県内では、紀北町に分布。

現況・減少要因： カワウコロニーの形成による水質悪化が著しい。周辺域でのニホンジカによる食害が顕著だが、本種への影響は不明。

保護対策： これ以上の水質悪化が進行しないように何らかの対策を講じる必要がある。

文献： 16。



(藤井伸二)

ミズスギナ

Rotala hippuris Makino

被子植物 [双子葉・離弁花] ミソハギ科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省：CR

近畿：A (CR)

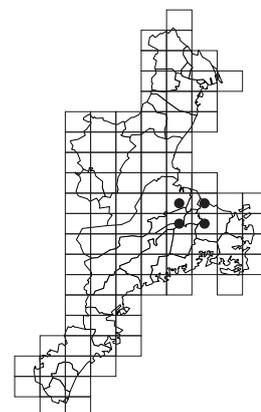
選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は250未満である。

種の概要： 池に生える多年草で、地下茎は細長く横に這う。茎は円形、多くの節があり、分枝する。葉は5~12個輪生し、水中葉は線形で長さ2~3 cm、先は短く2裂する。水上葉も線形で長さ0.5~1 cm、幅0.6~1 mmである。花は白色で、9~10月頃、水上葉の葉腋につける。柄はなく4つの花弁は2浅裂する。

分布： 国内では関東地方から近畿地方南部、九州に分布。県内では松阪市、明和町、伊勢市、玉城町の溜池で記録されている。

現況・減少要因： 松阪市2、明和町1、伊勢市1、玉城町1か所で確認されている。湖沼開発による埋め立てや改修工事が減少要因。

保護対策： 現在生育している溜池を現状のまま維持管理する必要がある。農業等の化学物質の流入にも配慮する必要がある。



(市川正人)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ケゴンアカバナ

Epilobium amurense Hausskn.

被子植物 [双子葉・離弁花] アカバナ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県:

環境省:

近畿: A (CR)

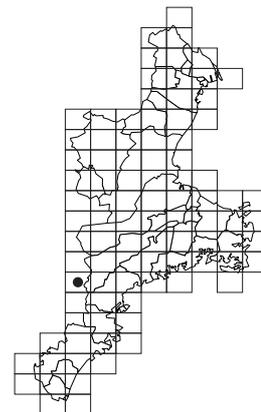
選定理由: 既知の生育地点は1か所であり、50個体以下である。

種の概要: 山地の溪流沿いに生える。イワアカバナに似ているが、茎は低く、高さ6~40 cmになり、茎の中部では毛は2列に生える。茎の中部の葉は卵状披針形。茎と子房には上向きに曲がる単細胞毛がある。

分布: 国内では北海道、本州、四国、国外では台湾、極東ロシア、中国東北部、朝鮮、樺太に分布する。近県では、奈良県の大峰山地の落葉樹林内にわずかに生育している。県内では大台ヶ原頂上付近の沢沿いにわずかに生育する。

現況・減少要因: 大雨や崖崩れで無くなる可能性もある。

保護対策: 沢沿いの登山道の整備など。



(山脇和也)

フジワラサイコ

Bupleurum quadriradiatum Kitag.

被子植物 [双子葉・離弁花] セリ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県:

環境省:

近畿:

選定理由: 三重県の固有種。既知の生育地点数は1、開花個体数は10未満である。

種の概要: 石灰岩地の疎林内に生育する多年生草本。見かけはホタルサイコに似ているが、地下に細い匍匐枝を出し、地上部は全体に繊細で葉も著しく細く広いものでも幅1.5 cm程度、基部はほとんど茎を抱かない。花期はホタルサイコよりずっと早く7月である。

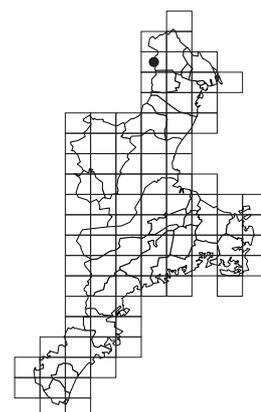
分布: 三重県いなべ市の藤原岳に固有の植物である。

現況・減少要因: 狭い範囲に7~8の小群落があるにすぎない。各小群落は大きくても30 cm四方ほどで、ニホンジカの食害により衰退している。将来的には石灰岩採掘により失われるおそれもある。

保護対策: 食害防護柵が効果的だが、それを設置すると山草業者、マニア等による盗掘が危惧される。まずは県の希少野生動植物種に指定する必要がある。

特記事項: 1964年に記載されて以来ほとんど無視されてきた種である。当初「ヤセホタルサイコ」と呼ばれたが、ハクサンサイコに近縁であるため和名を変更した。基準標本は首都大学東京牧野標本館、最近の標本は愛知みどりの会に收藏。

文献: 33.



(芹沢俊介)

ドクゼリ

Cicuta virosa L.

被子植物 [双子葉・離弁花] セリ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省:

近畿: C (VU)

選定理由: 既知の生育地点数は5以下で、各地点50未満の個体数しかなく、生育地間の交流がない。

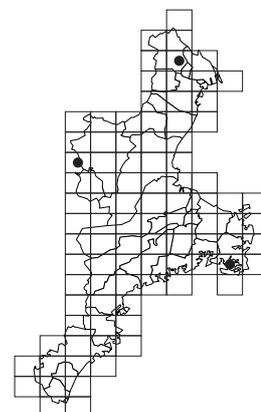
種の概要: 湿原に生育する多年草。6~7月頃、高さ1 m前後の茎頂に白色の傘状花を多数つける。

分布: ユーラシア。国内では北海道から九州。県内では桑名市、伊賀市、志摩市で記録がある。

現況・減少要因: 現存する生育地は2地点で、湿地は埋立てによる工場用地、住宅用地等に改変される可能性が著しく高いため、いつ消滅するか分からない状況にある。

保護対策: 現存する自生地については市の関係者に周知徹底して、保護に努める必要がある。

文献: 34.



(加田勝敏)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

セリモドキ

Dystaenia ibukiensis (Y.Yabe) Kitag.

被子植物 [双子葉・離弁花] セリ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: —

環境省: —

近畿: —

選定理由: 既知の生育地点は1か所である。個体数は少ない。

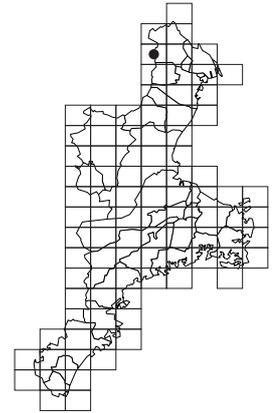
種の概要: 茎は直立し、上部は枝をわけ、節に白毛が出る。葉は2~3回羽状にわかれ、小葉は不規則に裂刻し、縁と裏面脈状に短毛が出る。大散形花序の柄は数本の条と毛状の細突起がありほぼ同長。小総包片は線形で有毛。7~9月に開花。

分布: 本州(滋賀県以北の主として日本海側)に分布する日本固有種。県内では鈴鹿山系北部の石灰岩地域で2013年に見つかった。

現況・減少要因: たいへん狭い面積の岩の隙間に十数株生育しているのみで、山の崩壊による環境の変化や土建業者による採石が進んでいるので、消滅の危険がある。

保護対策: 土建業者による採石を抑止すること。近くにCR, ENに該当する植物も多いので食害や踏みつけなどを防ぐための防護柵を設ける必要がある。

特記事項: シコクフクジュソウをはじめ、その他の絶滅危惧I類の種が11種以上生育している県内でも狭い特異な場所なので、特別保護区にするか、天然記念物に一部地域を指定すべきである。



(山脇和也)

フキヤミツバ

Sanicula tuberculata Maxim.

被子植物 [双子葉・離弁花] セリ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: VU

近畿: B (EN)

選定理由: 既知の生育地点数は2であり、個体数は50未満である。

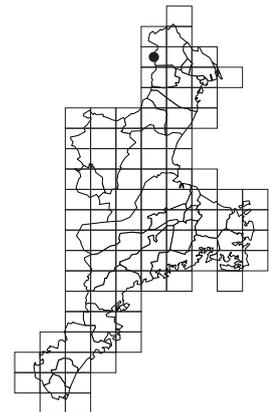
種の概要: 高さ8~20 cmになる多年生草本。葉は根生、長柄あり葉身は3小葉に分岐、各小葉はさらに2~3裂。5月茎の先端に散形花序をつける。小さな緑色の花を開く。中央の1~4個が雌花、まわりは雄花。果実はコブ状突起を密生し、先端は刺毛となる。

分布: 国内では本州(中部以西)、四国、九州、国外では朝鮮半島、暖温帯から冷温帯。県内では鈴鹿山脈の北部(いなべ市)に分布する。

現況・減少要因: 登山者の増加により踏みつけや採取による人為圧を強く受けて減少している。さらに生育地の上層木の繁茂により光量が不足し衰退している。

保護対策: 生育地の一部は登山道となっており、早急に迂回路を作る必要がある。また、生育地の上層木の定期的な間伐や枝打ちを行うことも大切である。分布情報の公表にあたっては慎重な配慮が必要である。

文献: 97.



(葛山博次)

ミヤマコナスビ

Lysimachia tanakae Maxim.

被子植物 [双子葉・合弁花] サクラソウ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: —

環境省: —

近畿: —

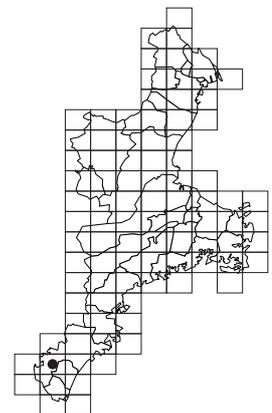
選定理由: 確実な生育地点数は1であり、個体数も少なく、道路脇に生育し、自然災害や森林伐採等で絶滅の可能性がある。

種の概要: コナスビに似るが、茎は長く地を這い、葉柄、花柄ともに長い。葉肉内に黒色の腺点と腺条があり、萼裂片は倒披針形で先は鈍い。

分布: 本州(紀伊半島)、四国、九州中部に分布する。県内では熊野市に僅かに生育している。

現況・減少要因: 熊野川を隔てた和歌山県側にはよく見かけるが、何らかの理由で産地が少ないのだろう。

保護対策: 森林伐採や道路拡張計画等には事前の届出が必要である。



(大洞浩一)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ナタオレノキ (シマモクセイ)

Osmanthus insularis Koidz. var. *insularis*

被子植物 [双子葉・合弁花] モクセイ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省:

近畿: B (EN)

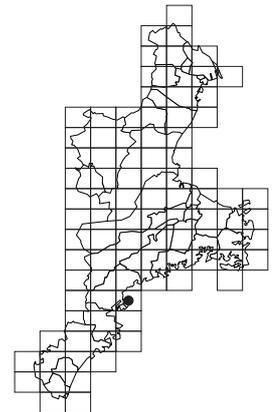
選定理由: 既知の生育地点数は1であり、個体数は少ない。

種の概要: 高さ15 mに達する常緑の高木。葉は狭長楕円形から卵状長楕円形、やや薄い革質で、長さ7~11 cm、幅2~4 cm、先は長く鋭尖する。花期は10月、葉腋に束生する。花冠は白色で径5~6 mm。

分布: 国内では本州(福井県以西)、八丈島、四国、九州、小笠原、沖縄。国外では台湾、朝鮮半島に分布。県内では紀北町大島からの記録がある。

現況・減少要因: 1982年瀬戸剛氏により発見されている。2004年の台風による被害で島内の樹木の一部に枯損がみられるが、本種については発見当時と比べ、変化はない。現在、胸高直径55 cm、樹高15 mに達する個体も認められるが、個体数は少なく(5個体前後)、稚樹は見当たらない。

保護対策: 大島は国の天然記念物に指定されている。



(山本和彦)

コケリンドウ

Gentiana squarrosa Ledeb.

被子植物 [双子葉・合弁花] リンドウ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省:

近畿:

選定理由: 既知の生育地点数は5以上であるが、最近の記録は1か所である。環境の変化(度重なる土木工事による)により減少したと考えられる。

種の概要: 日当たりの良い原野に生育する越年草。3~5月頃ロゼットの間から3~10 cmの花茎を伸ばして、淡青色の微小形の筒状花をつける。

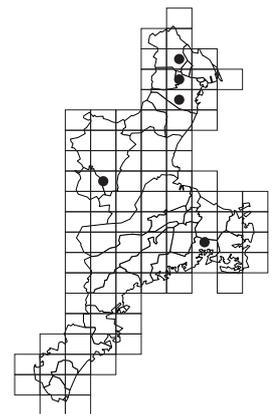
分布: 朝鮮半島、中国、台湾、インド北部、シベリア。国内では本州から九州。県内では桑名市、四日市市、菰野町、伊勢市で記録はあるが、1990年以降の記録は四日市市および名張市のみである。標本は四日市市の1点のみしか存在しない。

現況・減少要因: 環境の変化による減少であり、改変された環境は復元できないが、同等の環境が残存しているならば精査して、新しい生育地の発見に努める必要がある。

保護対策: 微小な植物なので、高茎草本が繁茂すると消滅する。水田の土手や河川の堤防など、人里の意外な所に見つかるので、発見された場合には定期的な草刈を行い、背丈の低い草地の維持に努める必要がある。

特記事項: 標本は加田が収蔵。評価後、名張市で新たな生育が確認された。

文献: 30。



(加田勝敏)

ミツガシワ

Menyanthes trifoliata L.

被子植物 [双子葉・合弁花] ミツガシワ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省:

近畿: A (CR)

選定理由: 既知の生育地点数は1。生育する個体数も50個体以下と多くはない。

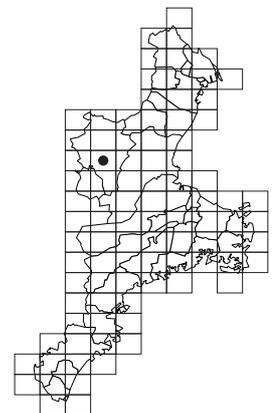
種の概要: 水辺や沼沢地に生える多年草で太い地下茎をもつ。根出葉には長い柄があり、その先に卵状楕円形の3小葉をつける。4~8月頃、高さ30~40 cmの花茎の先に総状花序をつける。花冠は白色。

分布: 国内では北海道、本州、九州に分布。普通は高地の湿原、沼沢地に生えるが、暖帯の低地にも氷期からの残存植物として隔離分布する。国外では樺太、千島ほか北半球の温帯から寒帯に広く分布。県内では伊賀市に分布。

現況・減少要因: 丘陵地の溜池奥に形成された浅い沼沢地にスゲ類などに交じって生える。植生遷移の進行に伴う被圧と、土地開発による沼沢地の乾燥化によって減少する恐れがある。

保護対策: 共存し競合する他種の抜き取りなど、被圧要因の軽減と生育地の水湿状態の維持が必要。

特記事項: 伊賀市指定天然記念物。



(武田明正)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ヒメシロアサザ

Nymphoides coreana (H.Lév.) H.Hara

被子植物 [双子葉・合弁花] ミツガシワ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: VU

近畿: A (CR)

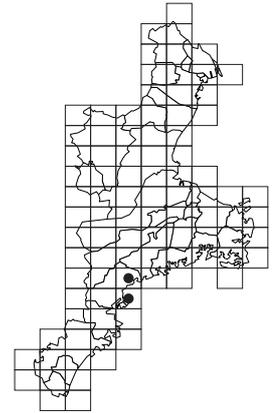
選定理由: 既知の生育地点数は2であったが、そのうち1つは水質の悪化によりここ10年ほど確認されていない。

種の概要: 湖沼、溜池、水田などに生える浮葉植物。茎は細長く、葉は卵心形から円心形、径2~6 cm。花期は7~9月。花は白色、径8 mmほどで、花弁の縁は有毛。

分布: 国内では本州、四国、九州、沖縄。国外では朝鮮半島、中国に分布。県内では紀北町と尾鷲市の2か所からの記録がある。

現況・減少要因: 紀北町、尾鷲市とも海に面した海跡湖に生育している。両生育地とも、10年以上池にカワウが住みつき、その影響により池の水質が富栄養化している。両池とも本種の存続が危機的な状況である。

保護対策: カワウによる池の富栄養化を防ぐ必要がある。



(山本和彦)

アサザ

Nymphoides peltata (S.G.Gmel.) Kuntze

被子植物 [双子葉・合弁花] ミツガシワ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: NT

近畿: A (CR)

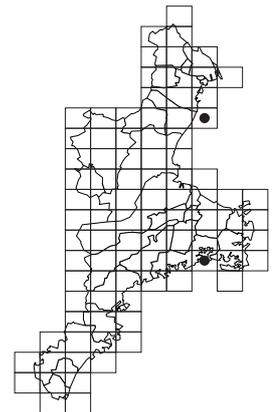
選定理由: 既知の生育地点数が5以下であり、現存する1か所の生育地でも個体数が激減している。

種の概要: 池沼に生育する多年生の水草。水底の泥の中を這っている地下茎から伸びた茎の先に葉がつく。葉は径6~12 cm、ほぼ円形で浅く波形の鋸歯がある。花は黄色で径3 cm、水面上に咲く、花期は6~8月。

分布: ユーラシア大陸。国内では本州から九州。県内では四日市市、南伊勢町で記録がある。

現況・減少要因: 南伊勢町の生育地は湧水のある水路や沼地で、以前はかなりの数の個体が生育していたが、最近ほとんどみられなくなった。工事による環境変化で、外来種のコカナダモが急増したためではないかと思われる。

保護対策: 水路の底の土(泥)上げ作業が毎年行われているが、泥といっしょにアサザも上げてしまわないように注意する必要がある。



(山路武夫)

クサナギオゴケ

Vincetoxicum katoi (Ohwi) Kitag.

被子植物 [双子葉・合弁花] ガガイモ科(APGⅢ:キョウチクトウ科)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: VU

近畿: A (CR)

選定理由: 既知の生育地点数は1であり、個体数は50未満である。

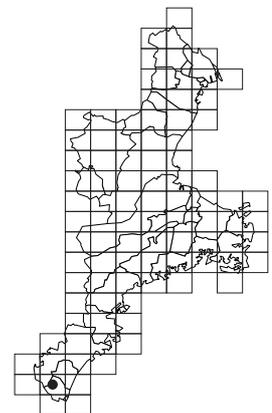
種の概要: 山の木陰に生える多年草。茎は直立して高さ30~100 cmになるが、先はややつる状に伸びて葉をつけない。葉は茎の中部に集まり、5~10 mmの葉柄があり、葉身は長さ8~17 cm、幅3~5 cmの卵状披針形で鋸歯はなく両端ともに尖る。上部の葉はかなり小さくなり、その腋に5~6月頃やや大きい円錐花序をつける。小花柄の先には径6~9 mm、裂片楕円形、無毛の淡紫色の花を開く。長さ4~5.5 cmの袋果ができる。

分布: 日本固有種。東海・近畿地方、四国の暖帯域に分布。県内では紀宝町に限り記録されている。

現況・減少要因: 紀宝町の小さな谷間の木陰に確認されている。個体数が少なく、採取や極度の除草による影響が懸念される。

保護対策: 適度な草刈と採取からの保護を必要とする。

特記事項: 花の白い品種をシロバナクサナギオゴケという。県内では淡紫色のものが多く、



(市川正人)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

オオキヌタソウ

Rubia chinensis Regel et Maack f. *mitis* (Miq.) Kitag.

被子植物 [双子葉・合弁花] アカネ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省:

近畿: 準 (NT)

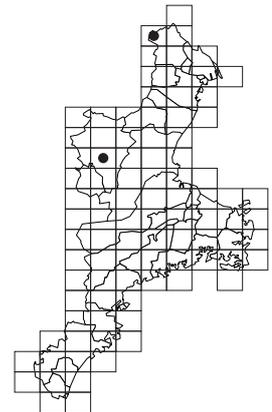
選定理由: 既知の生育地点数は2であり、未知の生育地もほとんどないと思われる。

種の概要: 山地の比較的明るい場所に生える多年生草本。地下茎を有し、茎は立ち、高さ30~60 cm。卵形から広披針形の葉4枚が輪生する。開花期は5~7月。茎先端や葉腋の集散花序に緑白色の花をつける。花冠は4~5裂し、直径は3~4 mm程度。秋に黒い球形の果実をつける。

分布: 国内では北海道、本州、四国、九州に分布。国外では朝鮮半島から中国大陸東北部に分布。県内ではいなべ市と伊賀市で記録がある。

現況・減少要因: いなべ市、伊賀市各1か所のみ。山地の明るい場所を好むため、土地の改変や、管理不足による植生遷移の進行(照度の低下)が減少要因か。

保護対策: 生育地の保全が望まれる。



(平山大輔)

マメダオシ

Cuscuta australis R.Br.

被子植物 [双子葉・合弁花] ヒルガオ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 情報不足 (DD)

環境省: CR

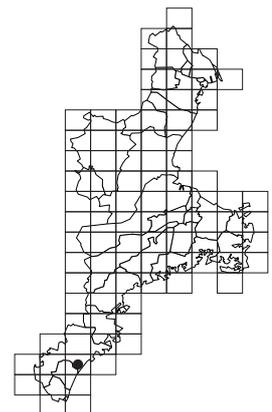
近畿:

選定理由: 既知の生育地点数は1。1981年に熊野市山崎沼で採集された標本(K. Seto 28047 OSA所蔵)がある。

種の概要: 茎は黄白色で細く、糸状のつるとなって他の植物にからみつく。花はほぼ無柄で数個が束生。花冠は長さ約2 mmで5裂する。萼は偏三角形で鈍頭から円頭。アメリカネナシカズラとは、果実時に花冠裂片が反曲せずにはぼ直立すること、萼頭が果実を緩く取り囲むこと、果実サイズがやや大きいこと等の点で区別できる。

分布: 国内では、北海道から琉球とされるが、外来のアメリカネナシカズラと混同されている可能性があり、再検討が必要。国外では、朝鮮半島、中国、インドシナ、マレーシア、オーストラリアに分布する。

現況・概要: 現況は不明であり、絶滅の可能性もある。



(藤井伸二)

マルバチシャノキ

Ehretia dicksonii Hance

被子植物 [双子葉・合弁花] ムラサキ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省:

近畿: C (VU)

選定理由: 既知の生育地点数は2で、個体数は10未満しかない。

種の概要: 落葉性の小高木、樹皮は灰色でカキノキの幹に似る。葉は互生し、広楕円形から長楕円形、長さ6~22.5 cm、幅5~12 cm、表面は剛毛があって著しくざらつき、鋸歯縁、基部はくさび形、葉柄は長さ2~3 cm。5~7月散房状花序の白い花を密につける。核果は径1~1.5 cm、秋に黄熟する。

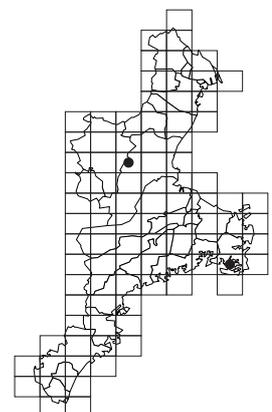
分布: 国内では本州(千葉県以西)、四国、九州、沖縄。国外では中国中南部(台湾を含む)に分布。県内では志摩市浜島町の海岸沿い斜面に自然分布する。後に津市西部で1個体を確認したが、植栽個体と思われる。

現況・減少要因: 志摩市の生育地ではかつては13個体生育していたが、新しい道路の敷設に伴って数個体が移植され、原生地には6個体のみ残る。移植先は海浜公園とトンネル脇の植込みの2か所である。

保護対策: もとの生育地での保護が必要である。

特記事項: 庭園などで植栽されているマルバチシャノキの葉は広楕円形から円形であるのに対し、浜島産の個体は長楕円形の葉をつける。また、葉裏や花被の毛の状態も前者とは異なる。

文献: 6. 22.



(中馬千鶴)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ビロードムラサキ

Callicarpa kochiana Makino

被子植物 [双子葉・合弁花] クマツヅラ科(APGⅢ: シソ科)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: VU

近畿: B (EN)

選定理由: 既知の生育地点数は5以下で、各生育地の個体数は20未満である。

種の概要: 高さ3 mほどになる落葉低木。若枝や葉柄、葉の裏面には羽状の長軟毛が密生している。花は7~8月、淡紫色で多数密につく。果実は球形、径約2 mm、萼に包まれ熟すと白くなる。

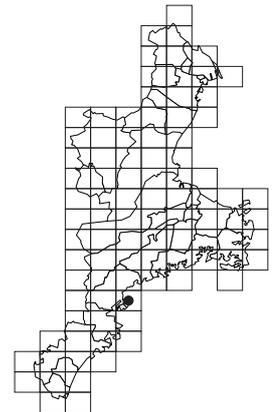
分布: 国内では本州(紀伊半島)、四国、九州。国外では台湾、中国、インドシナに分布。県内では尾鷲市および紀北町での記録がある。当地域が分布の北限。

現況・減少要因: 尾鷲市、紀北町で5か所ほど確認されているが、現在確実な自生地は、島勝神社(紀北町)と高宮神社(尾鷲市)のみである。これらの自生地もニホンジカの食害により個体数は激減している。

保護対策: 島勝神社は県の天然記念物、高宮神社は市の天然記念物に指定されており、開発による絶滅の危険性はない。しかしニホンジカの食圧が非常に高く、防護柵により個体がかろうじて維持されている現状である。

特記事項: 本種は川口三好次氏により1930年に、島勝神社で発見されている。

文献: 57.



(山本和彦)

ヤマジソ

Mosla japonica (Benth. ex Oliv.) Maxim.

被子植物 [双子葉・合弁花] シソ科(APGⅢ: 同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: NT

近畿: B (EN)

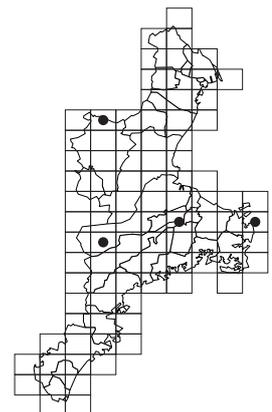
選定理由: 既知の生育地点数が5以下であるが、現存は1か所。現生育地への開発圧が強い。

種の概要: 日当たりのよい丘陵や裸地に生える一年草。茎は四角形で白い短毛がある。葉は卵形から狭卵形で3~10 mmの葉柄があり、鋭頭、低い鋸歯がある。花期は9~10月。

分布: 朝鮮半島南部。国内では北海道から九州。県内では伊賀市、松阪市、度会町、鳥羽市で生育の記録がある。

現況・減少要因: 現在は、鳥羽市の離島に細々と生育しているのが確認できるだけである。ここでも開発や土石採取のため生育地が狭められている。

保護対策: 生育地は草木が小さくしか育たない独特の植物相を示す蛇紋岩地帯である。この貴重さを関係者は認識して、土石採取を終わらせる決断をする必要がある。



(山路武夫)

ナツノタムラソウ

Salvia lutescens (Koidz.) Koidz. var. *intermedia* (Makino) Murata

被子植物 [双子葉・合弁花] シソ科(APGⅢ: 同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: —

近畿: 準 (NT)

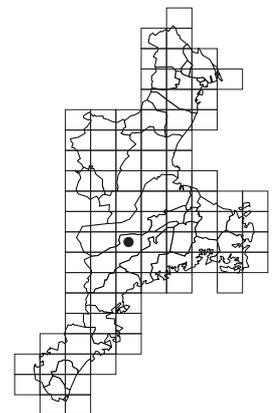
選定理由: 既知の生育地点数は1で、個体数は少ない。

種の概要: 茎の高さ25~50 cmになる多年草。葉は1~2回羽状でやや薄く、葉柄の基部には通常開出毛がある。花は6~8月に開き、濃紫色、唇形で長さ1 cm内外。雄蕊は2本、長く、花の外にまっすぐに突き出る。

分布: 国内では本州(神奈川県、東海地方、近畿地方)に分布。県内では大台町からの記録がある。

現況・減少要因: 県内では唯一大台町の溪流の上部で確認されているが、個体数は少ない。2004年の台風21号による洪水では、辛うじて流失を免れた。

保護対策: 洪水により、生育地周辺の環境条件が激変しているため、今後個体が維持していけるかどうか注意する必要がある。また、河川の護岸工事や治山工事により消滅することのないような配慮が必要とされる。



(山本和彦)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

シシンラン

Lysionotus pauciflorus Maxim.

被子植物 [双子葉・合弁花] イワタバコ科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省：VU

近畿：A (CR)

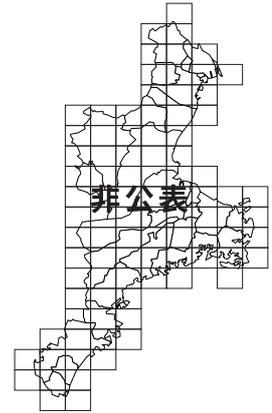
選定理由： 既知の生育地点数は1であり、個体数は10未満である。

種の概要： スギ、カシなどの混生林の中の常緑広葉樹に着生する小低木。茎は細長く樹幹に着生する。葉は対生、又は輪生し、厚い革質で、花は7~8月に上部の葉の腋に1花をつける。

分布： 国内では本州（伊豆半島以西）四国、九州、沖縄。県内では紀州地域に分布。

現況・減少要因： 県内では紀州地域に1か所。個体数は50未満であったが、着生しているカシが倒され乱獲されたことにより個体数が激減した。その後、近辺の樹に着生していたわずかな個体も乱獲された。

保護対策： 着生樹付近に近寄らず、本種の自生についても口外しないほうがよい。



(花尻 薫)

イタカムシトリスミレ

Pinguicula vulgaris L. var. *floribunda* S.Watan. et A.Takeda

被子植物 [双子葉・合弁花] タヌキモ科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省：—

近畿：A (CR)

選定理由： 既知の生育地点数は3、生育する個体数も多くはない。ムシトリスミレ属植物の一変種として知られている唯一の地域個体群。

種の概要： 本種は北半球産のムシトリスミレ属植物の中で最も大きく、ロゼット葉の枚数は6~16枚。葉の長さ6.5~8.6 cm、幅2.3~3.3 cm。6月頃5~9個の花をつける。花柄の長さ8~12 cm。

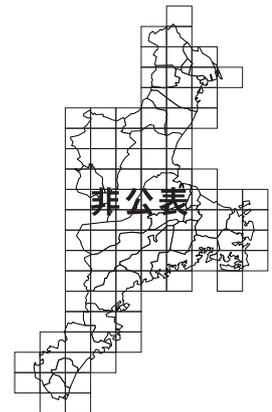
分布： 松阪市に分布。

現況・減少要因： 我が国で唯一の自生地。生育地は垂直に近い岩壁であるため、節理に着生している株は、しばしば自然落下する。また、希少植物として観賞用の採取圧が高い。

保護対策： 三重県指定天然記念物、三重県指定希少野生動物植物種などとして保護されている。盗採を防止するため、県や市によるパトロールが実施されている。

特記事項： ムシトリスミレ (*Pinguicula vulgaris* L. var. *macroceras* (Pall. ex Link) Herder) は、四国、中部地方以北、北半球の寒地に広く分布する。

文献： 119.



(武田明正)

フサタヌキモ

Utricularia dimorphantha Makino

被子植物 [双子葉・合弁花] タヌキモ科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)

旧県：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省：EN

近畿：A (CR)

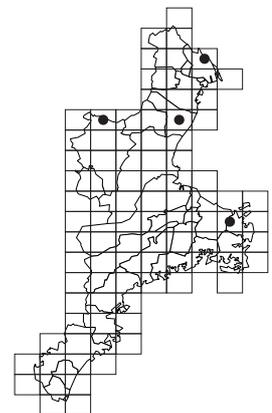
選定理由： 既知の生育地点数は5以下で、一時は県内では絶滅と考えられたが、最近生育が再確認された。

種の概要： 平野部の池沼に生育する浮遊性の食虫植物で、葉は毛状に立体的に分裂する。捕虫嚢はわずかしかつかない。花は黄色で水上に伸び出した高さ15 cm前後の花茎上に3~10個つく。

分布： 日本固有種。本州の近畿、中部に分布。県内では桑名市、鈴鹿市、伊賀市、伊勢市で記録があるが、そのほとんどの生育地で現在は見当たらない。

現況・減少要因： 水質汚濁、池沼の改修、池沼の消滅および食虫植物マニアによる採集も影響していると考えられる。

保護対策： 現存する生育地は非公開とする。水質が改善されれば、現在絶滅と考えられている所でも出現する可能性はある。



(加田勝敏)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ハマジンチョウ

Myoporum bontioides (Siebold et Zucc.) A.Gray

被子植物 [双子葉・合弁花] ハマジンチョウ科(APGⅢ:ゴマノハグサ科)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: VU

近畿: A (CR)

選定理由: 既知の生育地点数は1であり、本州では唯一の生育地である。

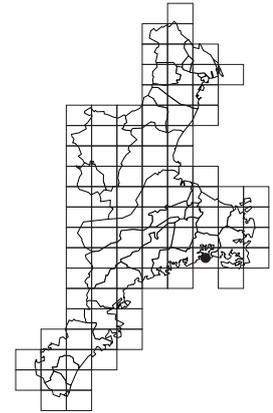
種の概要: 河口や入り江などの海岸に生育する高さ2 mほどの常緑低木。全体無毛、葉はやや肉質、葉身は長楕円形で長さ5~10 cm、幅2~3.5 cm。1~5月の間葉腋に白から淡紅色花を束生する。

分布: 国内では本州(三重県)、九州(五島列島、天草、鹿児島西南部)、沖縄、国外では台湾、中国大陸中南部に分布。県内では南伊勢町の獅子島やその周辺に生育。

現況・減少要因: 過去には、工事の影響により一部衰退したが、現在は健全生育している。

保護対策: 生育状況を見守ることとして、とくに人為行為はしないことである。

特記事項: 南伊勢町に生育している本種を植栽とする説もある。獅子島の樹叢は県天然記念物に指定されている。



(岡 与一)

カノコソウ

Valeriana fauriei Briq.

被子植物 [双子葉・合弁花] オミナエシ科(APGⅢ:スイカズラ科)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: —

近畿: C (VU)

選定理由: 既知の生育地点数は5であるが、各地点とも個体数は少ない。

種の概要: 多年草。走出枝はなく、根茎でふえる。高さ40~80 cm。節に長白毛がある。葉は羽状に全裂する、葉の鋸歯は尖る。花は淡紅色で、径3 mm、長さ6 mm、おしべは上に突き出す、密な集散花序を作る。花期は5~7月。

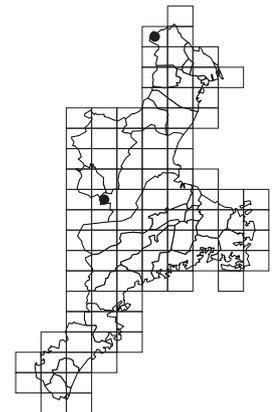
分布: 日本全土。国外では朝鮮半島、中国、サハリンの冷温帯。県内ではいなべ市藤原岳と津市美杉町で記録されている。

現況・減少要因: 生育環境は山地の草地であり、植生の遷移やニホンジカの被食圧の進行により減少したのではないかと考えられる。また、セイヨウカノコソウの代用品として、精神安定剤、血圧降下剤として根茎を利用したことから、採取圧があったことも考えられる。

保護対策: 生育地の植生管理とニホンジカ対策が必要である。また、現況の確認とともに、採取圧からの保護も大切である。

特記事項: ニヶ岳産標本は三重県総合博物館、及び三重県立上野高等学校に収蔵。

文献: 69.



(葛山博次)

マツムシソウ

Scabiosa japonica Miq.

被子植物 [双子葉・合弁花] マツムシソウ科(APGⅢ:スイカズラ科)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IB類 (EN)

環境省: —

近畿: A (CR)

選定理由: 既知の生育地点数は8であるが、現在も生育が確認できる地点は少ない。各生育地の個体数は50未満である。採取圧、開発圧ともあり、地域固有性がある。

種の概要: 山地の草原に生育する二年草。茎は高さ60~90 cmに達し、8~10月頃枝先に径4 cm前後の頭花をつける。葉は対生、有毛、下部から中部の葉は複羽状に分裂する。

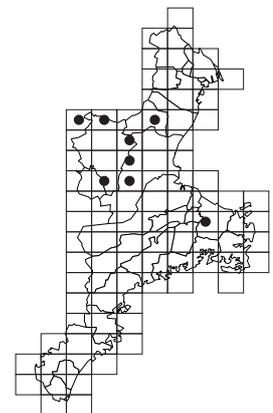
分布: 日本固有種。北海道から九州に分布。県内では亀山市、津市、伊賀市、伊勢市で記録がある。

現況・減少要因: 山地、丘陵地の草原の減少により生育適地がほとんどなくなっている。そのため個体数が激減している。

保護対策: 草刈りや火入れによって草原の維持、管理を行なっていく必要がある。

特記事項: 種内を細分化すると、三重県産のものは、ミカワマツムシソウ (var. *brevigula*) として分けられるが、ここでは表記の学名、和名で扱っておく。

文献: 34. 57. 117.



(加田勝敏)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

バアソブ

Codonopsis ussuriensis (Rupr. et Maxim.) Hemsl.

被子植物 [双子葉・合弁花] キキョウ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: VU

近畿: A (CR)

選定理由: 既知の生育地点数は10以下であり, 個体数は極めて少ない. 現存が確認できるのは1か所である.

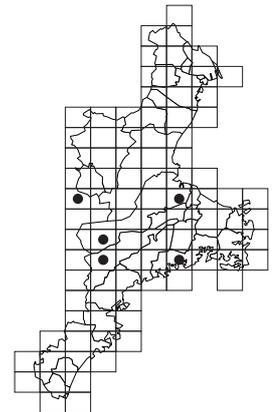
種の概要: 山の林縁や原野に生育するつる性の多年草. ツルニンジンとは種子が黒褐色で翼がなく光沢があることで区別される. 花期は8月, 花冠は直径2 cm内外, 内・外面とも紫褐色であることが多い.

分布: 日本全土. 国外では朝鮮半島, 中国, ウスリー, アムールの冷温帯. 県内では名張市, 明和町, 大台町宮川, 南伊勢町に分布する.

現況・減少要因: 丘陵地や低山地の谷戸田周辺の草地などの生育地は土地改変などの影響を受けやすく, また植生遷移の進行により消失している.

保護対策: 生育地の改変を抑止し, また, 草地の放棄による植生遷移の進行を止める定期的な草刈りにより, 存続可能な環境を維持する必要がある.

文献: 69, 139.



(葛山博次)

チョウジギク

Arnica mallotopus Makino

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: —

近畿: 準 (NT)

選定理由: 既知の生育地点数は5以下で, 各地点50未満の個体数しかない. 地域固有性がやや強い.

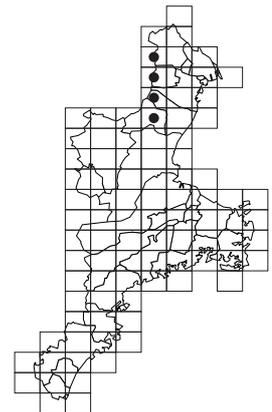
種の概要: 深山の多湿な斜面や溪側に生育する多年草. 茎は高さ20~85 cmに達し, 8~10月頃筒状花ばかりの黄色の頭花を横向きにつける.

分布: 日本固有種. 国内では本州, 四国に分布. 県内では菰野町, 鈴鹿市, 亀山市で記録がある.

現況・減少要因: 土木工事(堰堤)等で絶滅してしまった生育地もあり, 砂防工事が上流へ進められると絶滅することも考えられる.

保護対策: 工事が事前調査なしに行われることがないよう, また市町村の関係部署が保護に関心を高めることが重要である.

文献: 34.



(加田勝敏)

ヒメシオン

Aster fastigiatus Fisch.

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: —

近畿: A (CR)

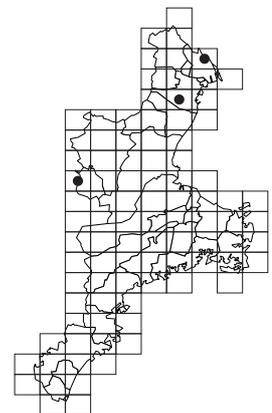
選定理由: 既知の生育地点数は5以下で, 現存が確認できるのは1か所. 環境変化の激しい場所が生育地であり, 安定しない.

種の概要: 湿草原や小川の縁などに生える多年草. 草丈30~100 cmに達し, 上部には細毛がある. 8~10月頃径3 cm余りの白色頭花を散房状につける. 総苞には蜜に細毛がある.

分布: 朝鮮半島, 中国, ダフリア. 国内では本州, 四国, 九州. 県内では桑名市, 四日市市, 名張市で記録がある.

現況・減少要因: 現存が確認できるのは桑名市長島町の生育地のみ. 四日市市の生育地では現存しない. また, 名張市については不明. 生育地, 個体数がもともと少ないうえに, 環境の変化で激減したと考えられる.

保護対策: 生育地の監視, 管理とともに, 上記以外のところでも見つかる可能性があるため, 人里近い原野の開発には十分な事前調査が必要である.



(加田勝敏)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

コバナガンクビソウ (バンジンガンクビソウ)

Carpesium faberi C.Winkl.

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 情報不足 (DD)

環境省: VU

近畿: —

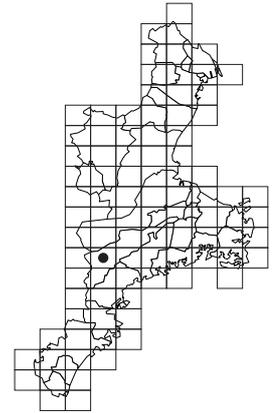
選定理由: 既知の生育地点数は1. 個体数は極めて少ない. 周辺山地に新産地が期待される.

種の概要: 山地の林下や林縁に生える高さ50~70 cmの多年草. 茎は直立し, 軟毛があって, 上部でよく分枝する. 下部の葉には翼のない長柄があり, 柄を含めて長さ10~14 cm, 幅2.5~4.5 cmで卵状長楕円形, 先は鋭く尖り, 基部は楔形である. 頭花は枝の先に着き, 基部には頭花より長い苞葉がある. 花冠は濁った黄色で8~10月に咲く.

分布: 国内では愛知県以西の本州, 九州に分布. 県内では松阪市で記録されている.

現況・減少要因: 松阪市飯高町1か所の山地で生育している. ニホンジカ食害や植生遷移が減少要因.

保護対策: ニホンジカの適正な頭数管理と防護柵の設置, および植生遷移を止め, 生育環境を維持することである.



(市川正人)

イナベアザミ

Cirsium magofukui Kitam.

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: VU

近畿: C (VU)

選定理由: 既知の生育地点数は5以下であり, 各生育地とも個体数は5以下で激滅している.

種の概要: 高さ1~2 m, 花期はアザミ属のなかでは遅く10~11月である. おもな特徴は花を包む総苞片は巾が広く (下方の巾3.5~4 mm), 伸長, 反曲し, 帯紫色で, 縁辺に小刺針がある. 根葉は花期には枯死する.

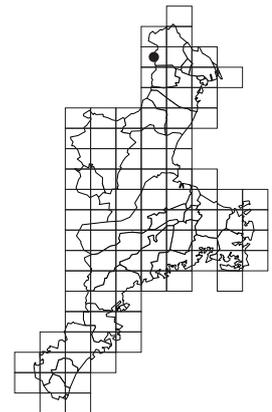
分布: 日本固有種. 本州 (中部から近畿) の暖温帯. 県内での生育地は鈴鹿山脈北部 (いなべ市) に分布する.

現況・減少要因: 生育地は渓谷沿いであり, 土砂や土石の大量流出により埋没したり流失したりする不安定な状態におかれている. その影響は2000年以降きわめて大きく, 絶滅の危機にある.

保護対策: 土砂や石灰岩の採掘などの人為圧を軽減し, 生育する渓谷への土石の流出を防ぐなど環境保全に努めることが急務である.

特記事項: 1933年, 孫福正により治田山 (現いなべ市北勢町) で発見, 記載された.

文献: 34, 49, 51, 72, 83, 111, 126.



(葛山博次)

フジバカマ

Eupatorium japonicum Thunb.

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: NT

近畿: A (CR)

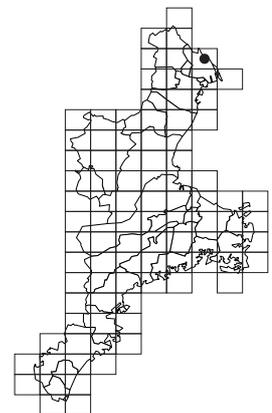
選定理由: 既知の生育地点数は1である. 個体数が非常に少ない.

種の概要: 河岸の草原などにまれに生え, また栽培される多年草. 葉は対生し, 下方のものは普通深く3裂する. 奈良時代に伝来し, それが帰化したという説もある. 秋の七草の1つで, 乾燥させるとクマリンのよい香りを出す.

分布: 国内では本州 (関東以西), 四国, 九州.

現況・減少要因: 河川改修や採取により絶滅の可能性がある. 現状不明で確認できない.

保護対策: 生育が確認されれば, 柵などで囲う保護対策が必要である.



(山脇和也)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

アキノハハコグサ

Gnaphalium hypoleucum DC.

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: EN

近畿: A (CR)

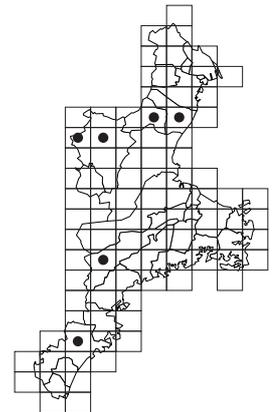
選定理由: 既知の生育地点数は10以下であるが、現存が確認されているのは1か所である。

種の概要: 山地のやや乾いた日当たりの良い場所に生育する一年生草本。通常林道脇の崖状地に生育している。茎は上部で分かれ、高さ30~60 cm, 白い綿毛がある。花期は9~11月、頭花は茎の先端に房状に密集してつき、黄色。

分布: 国内では本州、四国、九州、国外では朝鮮半島。県内では亀山市、鈴鹿市、伊賀市、大台町、熊野市に分布。

現況・減少要因: 個体数が少なく、道路の改修や拡幅により絶滅の危険性がある。

保護対策: 林道の拡幅に際しては、圧力にならないよう特に注意が必要である。



(花尻 薫)

ミズギク

Inula ciliaris (Miq.) Maxim. var. *ciliaris*

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: —

近畿: A (CR)

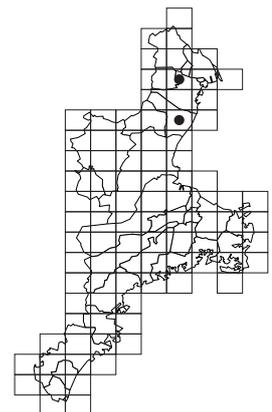
選定理由: 既知の生育地点数は5以下。そのうち現存が期待できるのは1か所である。

種の概要: 丘陵地や山地の湿地に生える高さ20~50 cmの多年草。6~10月に茎の上部に黄色の花を咲かせる。

分布: 国内では本州(東北地方)から九州(宮崎県)。県内では北勢・中勢地域の湿地で記録がある。

現況・減少要因: 北勢地域の丘陵地の湿地に生育していたが、圃場整備事業や溜池の改修、大規模な住宅団地や工場建設などにより生育地の一部は消失した。現在、生育地が残されているのは孤野町1か所である。

保護対策: 生育の確認をし、生育地の湿地を含む周辺一帯の保護が必要である。湿地の富栄養化や高茎の湿性植物の侵入など遷移の進行を防ぐことも必要である。



(桐生定巳)

マルバオモダカ

Caldesia parnassifolia (Bassi ex L.) Parl.

被子植物 [単子葉] オモダカ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: VU

近畿: A (CR)

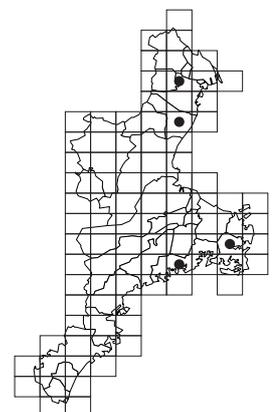
選定理由: 既知の生育地点数は5以下。各生育地の個体数は50未満である。

種の概要: 湖沼、溜池、水田に生える浮葉から抽水性の多年草。水中葉は楕円形で小さい。水上の葉は円形で長さ5.5~13 cm。花茎は高さ30~100 cm, 3枝を輪生し各枝はさらに数個の花柄を輪生する。花期は8~9月。

分布: 国内では本州から奄美。国外では中国、インド、オーストラリア、マダガスカルに分布。県内では桑名市、四日市市、伊勢市、志摩市、南伊勢町からの記録がある。

現況・減少要因: 南伊勢町および志摩市以外の産地は、古い標本記録によるもので、すでに絶滅していると思われる。南伊勢町道方浮島の池では、2000年頃まで確認されていたが、その後消滅。池に放されたコイやカモ類の食害や水質の汚濁が原因と思われる。なお浮島は県の天然記念物に指定されている。

保護対策: 浮島の水草相回復には、水質の浄化とともにコイや水鳥による食圧を排除することが必要である。早急に浮島と池の自然環境を保全するための計画案を策定し、実施することが肝要である。



(山本和彦)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ウエマツソウ

Sciaphila secundiflora Thwaites ex Benth.

被子植物 [単子葉] ホンゴウソウ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅 (EX)

環境省: VU

近畿: A (CR)

選定理由: 既知の生育地点数は2。絶滅したものと思われていたが、2006年に大紀町で新産地が確認された。個体数は10未満。

種の概要: 朽ち木や落葉の間に生える多年生の腐生植物。茎の高さ6~10 cm, 径約0.8 mmでほとんど分枝しない。全体に赤紫色を帯び、葉は鱗片状。花は7~9月, 上部に雄花, 下部に雌花がつき, 花柄は短い。

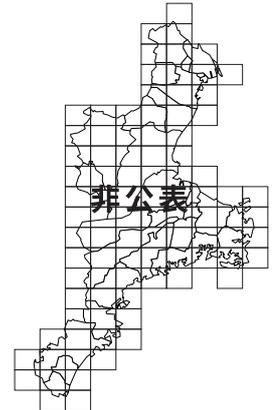
分布: 本州(中部以西), 四国, 九州, 沖縄, 小笠原に分布。県内では伊勢市(文献記録)と大紀町から記録されている。

現況・減少要因: 現時点では大紀町が県内で確認できる唯一の自生地と思われる。自生地周辺の生育環境は今のところ現状維持され, 安定している。しかし今後, 森林伐採や土地造成等, 開発による生育環境の改変の可能性も否定できない。

保護対策: 自生地およびその周辺の環境改変を避けることが必要。

特記事項: 三重県レッドデータブック2005では, 津市の標本記録(1933)が掲載されていたが, その後の調査により標本はホンゴウソウの誤同定であることが判明した。

文献: 39.



(山本和彦)

ギョウジャニンニク

Allium victorialis L. subsp. *platyphyllum* Hultén

被子植物 [単子葉] ユリ科(APGⅢ:ヒガンバナ科)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: 絶滅危惧IA類 (CR)

環境省: —

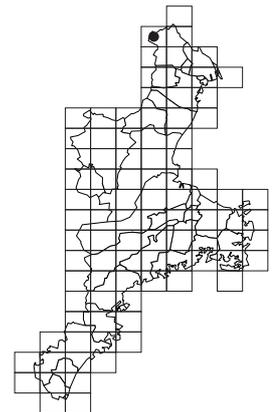
近畿: C (VU)

選定理由: 既知の生育地点数は1。生育地の個体数は50未満しかなく, 採取圧もきわめて強い。

種の概要: 深山の林下に群生する多年草で, 強いニラ臭を有する。鱗茎は長さ5 cmほどで褐色の網状繊維におおわれる。葉はふつう2枚で, 長さ30 cm内外。花茎は1本出て, 6~7月頃に多くの白い花が放射状に丸くかたまつてつく。鱗茎は食用になり, 和名は行者のニンニクの意。

分布: 国内では本州(近畿以北), 北海道。国外では千島, 樺太, 朝鮮半島, 中国, カムチャツカなど。県内では北勢地域で記録がある。

現況・減少要因: 県内では生育地が1か所知られていたが, 現在は確認できてない。



(山脇和也)

ステゴビル

Caloscordum inutile (Makino) Okuyama et Kitag.

被子植物 [単子葉] ユリ科(APGⅢ:ヒガンバナ科)

三重県: 絶滅危惧IA類 (CR)

旧県: —

環境省: VU

近畿: A (CR)

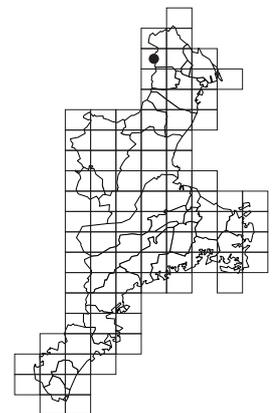
選定理由: 既知の生育地点は2か所, たいへん開発圧の強い所に生育している。

種の概要: 多年生草本。鱗茎は球形で, 直径約1 cm。根出葉は晩秋に2~3個出て, 扁平な線形で長さ約20~30 cm。冬を越し, 夏に枯れ, その後9月に10~30 cmの花茎が出て, 3~8個の花を散形状につける。小花柄は長さ1~2 cm。花被片は6個で線状披心形で長さ約5 mm, 基部は合着し, 上部は開出する。白か淡く赤紫を帯びる。

分布: 日本固有種, 本州の10県に点々とみられるが, どこでも個体数はあまり多くない。県内では鈴鹿山系北部に谷をはさんで2か所確認されている。

現況・減少要因: 鈴鹿山系北部の石灰岩地帯の林内に生育する。1か所は石灰採掘のため消滅することになっている。もう1か所は50個体以上生育しているが近くで採石が進んでいるので急激に減少する可能性がある。人や動物の踏みつけもある。

保護対策: 採石を早急に中止させるか, 採石場所の変更をさせる。さらに, 近くに絶滅危惧I類に該当する植物も11種以上生育するので, 食害や踏みつけなどを防ぐための防護柵を設ける必要がある。



(山脇和也)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD